

令和5年度

学校経営計画

横浜市立東高等学校

目次

1	学校教育目標	1
2	学校経営方針	1
3	中期学校経営方針	4
4	指導の重点	7
5	組織及び校務分掌	17
6	時程表	20
7	教員別時間割表	22
8	教育課程表	25
9	各教科・科目の年間指導計画	28
10	道徳教育全体計画	29
11	「総合的な学習の時間」の全体計画 及び年間指導計画	31
12	ホームルーム活動の年間指導計画	36
13	社会体験活動の年間計画	38
14	キャリア教育計画	40
15	学校図書館教育指導計画 全体計画及び年間指導計画	46
16	主権者教育の年間指導計画	49
17	人権教育全体計画	51
18	人権教育全体計画	53
19	学校いじめ防止基本方針	56
20	年間評価計画	64
21	年間行事予定表	65
22	学校保健計画	68
23	学校安全計画	70
24	学校防災計画	72
25	『警報』発令時における生徒の安全確保に係る校内規定	84
26	学校防犯計画	87
27	学校評価計画	92
28	学校沿革（概要）	94
29	学校図面（校舎平面図等）及び校地面積等	97

(1) 学校教育目標

(2) 学校経営方針

(1) 学校教育目標等

I 学校教育目標

- 自ら学び、熱心に学習する生徒を育成します。(知)
- 豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒を育成します。(徳・体)
- 社会の一員として自らの役割を果たすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成します。(公・開)

II スクール・ミッション

ESD推進拠点の役割を担うユネスコスクールとして、世界とのつながりを意識しながら持続可能な社会の実現を目指す未来の横浜を見据え、誰一人取り残さないよりよい社会について理解を深めるとともに、その実現に貢献できる人材を育成します。

III スクール・ポリシー

○ グラデュエーション・ポリシー

- ・意欲的に学び続け、社会の変化に対応しようとする態度と社会における自分の役割や責任を自覚し行動する力を身に付けます
- ・多様性を尊重し、共生する態度とよりよく生きることを自律的に選択する力を身に付けます
- ・グローバルな視野を持ち、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する態度と新たな価値を創造する力を身に付けます

○ カリキュラム・ポリシー

- ・生徒の学ぶ意欲を高め、学力を育成し、進路実現に向けて支援します
基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力を実践的な活動の中で育む授業を計画・実施します。また、単位制の特色を生かし、個々の興味・関心や進路に合わせた選択が可能となるように選択科目を設置します。
併せて、入学時から様々な人・もの・ことに触れ、自身の将来について考える機会を作ります。加えて、生徒・保護者との面談を定期的に設ける等、一人ひとりに合わせたきめ細かい進路支援を行います。
- ・「自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る人」を育成します
これまでに身に付けた力を生かし、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、部活動や社会体験活動などに取り組みます。これらを通して、責任感や自己肯定感、社会参画や世界に向けた意識を高め、多様性を尊重し、つながりを大切にしながらか横浜が育む力「知・徳・体・公・開」を相互に関連付けてバランスよく育みます。
- ・持続可能な社会の創り手となる自覚と態度を育成します
ユネスコスクール、ESD推進校の特色ある取組を生かし、様々な分野での体験や交流を通して多くの方々との関りから多様な価値観に触れる機会を創出します。

また、身の回りの課題を自分事として捉え、身に付けた力を生かしてその解決に向けて試行錯誤を繰り返す課題探究活動を通して、課題解決のアイデアやプランを提案し、実践を目指します。

- アドミッション・ポリシー
 - ・他者の意見を理解・尊重し、協働して学校生活を送ることができる生徒
 - ・中学校までの学習において基礎的・基本的な学力を身に付け、知的好奇心と向上心を持ち、本校で主体的・意欲的に学習や学校行事、部活動などに取り組むことができる生徒
 - ・ボランティア活動や他者との交流への関心と地域や社会に貢献する意識を持ち、持続可能な社会の創り手を目指す意欲がある生徒

(2) 学校経営方針

- 生徒がいきいきと学び、教職員が責任を持っていきいきと業務にあたる市民から信頼される学校を目指します。
- ESD (Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)) を推進し、グローバルな課題に生徒が向き合い、SDG s (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) の理解を深め、持続可能な社会の創り手の意識を持って世の中と関わる行動力を生み出す取組を充実させます。
- 生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、高い進路希望の実現を図ります。
- 地域や外部機関との連携を積極的に行い、生徒が自分の役割や社会とのつながり考え、自己肯定感や自信につながる機会を創造します。
- 学校内外の研修をとおして、教職員が「自立的に学ぶ」「学び合う」風土を醸成し、新たな学校課題に対応できる個々の力量と組織力の向上を図ります。
- 生徒と関わる時間の確保や自己研鑽の機会の充実により、教職員が使命感、責任感を持って業務にあたることのできるよう、働き方を意識させ、業務改善を図ります。

(3) 中期学校経営方針

＜横浜市立東高等学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	令和5年4月～令和8年3月
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学び、熱心に学習する生徒を育成します。(知) ○豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒を育成します。(徳・体) ○社会の一員として自らの役割を果たすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成します。(公・開)
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「生きる力」と「確かな学力」の育成 生徒が希望する進路を実現し、これからの社会で活躍するために必要な「生きる力」と「確かな学力」の育成を図ります。 ○ESD(持続可能な開発のための教育)及びユネスコスクールの取り組みの推進 持続可能な社会の創り手を育むESDを学校組織全体で推進します。 ○ICTを活用した教育活動の推進 ICTを積極的に活用し、効果的・効率的な教育活動の検討、実践を行います。
目標設定の理由	<p>平成30年7月にユネスコスクールの認定を受けて本校ではさまざまな取り組みを実践してきました。その経験を踏まえ、生徒の進路実現やこれからの社会に必要な資質・能力の育成を図るために、本校の特色であるESDを組織的に実施していく必要があります。また、学習指導要領の着実な実施。ICTの積極的な活用。「学習活動」「特別活動」「部活動」をバランスよく配置し、持続可能な教育活動として実践していきます。</p>
第4期横浜市教育振興基本計画「新たな時代に向けた高校教育の推進」重点目標	
重点取組項目	取組目標
○「総合的な探究の時間」の取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究の時間（イーストタイム）」で身に付けた資質・能力を教科等で活用し、生徒の探究心の育成を教科横断的な視点で実践します。 ○教育活動全体でESDの視点を意識し、外部機関等との連携を含めた取組を計画、実践します。また、市立小学校・中学校等との成果の共有や新しい時代に合った国際理解教育の充実を図ります。
○多様化する生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○人権尊重の精神を基盤とし、あらゆる場面で自他ともに尊重する心や多様性を認め、様々な課題を自分ごととして捉え、ともに解決していく生徒を育てていく教育をあらゆる場面で実施します。また、諸課題に対して組織的に対応できる生徒支援体制の充実を図り、学校が「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを推進します。
○魅力ある高校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」を実践し、教科横断的に学びをつなげる授業の充実を図ります。また、ICTを効果的に活用した授業等を研究し、実施します。 ○生徒自身の進路を主体的に選択し、希望する進路を実現するために、生徒一人ひとりに寄り添った相談や支援の充実を図ります。 ○特別活動や部活動等、さまざまな活動をとおして、コミュニケーション力、責任感、自己肯定感、社会参画の意識、多様性の尊重等の育成を図り、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成します。
人材育成の取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○高い人権意識と生徒理解に基づき、生徒、保護者に寄り添った支援のできる人材の育成を図ります。 ○生徒の興味・関心を喚起し、ICTを活用した授業等を実践する授業力を持った人材の育成を図ります。 ○学校運営に参画するリーダーシップや相互支援できるチーム力を発揮する人材育成を図ります。 ○主幹教諭、ミドルリーダーの積極的な学校運営の参画やメンターチームの充実等を図り、教職員の学び合う環境づくり、意欲的に働ける環境の整備を推進します。 ○計画的な校務遂行やICTの積極的な活用等により、業務の効率化、削減、縮減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスの適正化を図り、学び続ける人材の育成を図ります。 	

中期学校経営方針における 13 の取組分野

取組分野		取組目標
1	教育目標等の設定・実施	○本校の学校教育目標、中期学校経営方針、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて理解を深め、目標の達成に向けて会議等のあらゆる場面で意見交換の活性化を図ります。
2	組織運営 (働き方改革) 教職員研修	○主幹教諭及び各分掌主任の学校運営に対するリーダーシップを高めるとともにミドルリーダーの積極的な学校運営への参画を図る。 ○教職員が意欲と責任を持って校務を遂行、支援できるチーム力を高めます。 ○「働き方」の視点を持ち、効率的に校務を行う意識の向上を図ります。
3	教育課程	○カリキュラム・ポリシーに基づき、ESDが本校の教育課程の核となるよう、カリキュラム・マネジメントを進めます。 ○学習指導要領を着実に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、生徒の資質・能力の向上を図ります。 ○ユネスコスクールとして、ESDの推進をとおして、「言葉の力」と「聴く力」を身につけ、論理的な思考力と高いコミュニケーション力を育成します
4	教科指導	○生徒のニーズに応える質の高い授業、ICTを積極的に活用する等、効果的・効率的な授業を研究、実践します。 ○全ての教科・科目において「主体的・対話的で深い学び」実践し、観点別評価により、生徒の振り返りと教員の授業改善を実施します。
5	特別活動 部活動	○バランスよく配置した特別活動・部活動等をとおして、責任感、自己肯定感、社会参画や世界に向けた意識を高め、多様性を尊重した豊かな人間関係を構築する力を育成し、学校生活の充実を図ります。
6	生徒指導 教育相談 (特別支援)	○教育理念を踏まえ、社会との関わりをとおして生徒に自己肯定感を醸成し、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成します。 ○特別支援校内委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握と支援について、組織的に対応します。 ○課題を抱えている生徒・保護者に気付き、組織的に解決に向けて取り組む体制の強化とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した関係機関との連携を推進します。
7	キャリア教育 進路指導	○各種効果測定を計画的に実施し、その結果を分析、活用して進路ガイダンスや進路相談を充実させ、生徒の希望する進路実現を図ります。 ○生徒に対する効果的な指導に向けて、進路希望等の情報共有のため、定期的な職員研修会を実施します。
8	保健指導 環境美化	○生徒の心身の健康についての意識を高めるとともに、発生した課題については、迅速かつ丁寧な対応を行います。 ○校内の学習環境の美化に努めるとともに、ゴミの減量と分別を徹底します。
9	学校経理 施設・設備 情報の管理	○公金・準公金の適正な執行に対する意識を高め、計画的な執行を行います。 ○施設・設備の老朽箇所等の修繕等を進めます。 ○個人情報等の取扱いの重要性を確認し、情報の管理を徹底します。
10	保護者・地域等 との連携協力	○学校運営協議会、PTAとの連携により開かれた学校づくりを推進します。 ○ESD推進にあたり、外部機関等との積極的な連携を検討します。 ○近隣の保育園や小中学校との交流事業を推進します。
11	危機管理	○生徒の安全・安心を第一に、学校の危機管理に全教職員で取り組みます。 ○生徒の防災・減災等、危機管理に対する意識を高める指導を充実させます。
12	学校に関する 情報公開	○学校情報の正確・迅速な発信に努めます。 ○ホームページ等を適切かつ有効に活用した情報公開に努めます。 ○新しい時代に合った生徒募集を実施し、アドミッション・ポリシーの浸透を図ります。
13	いじめへの対応	○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、日常的な情報共有、一人ひとりの生徒理解に努め、「いじめ防止基本方針」に則りいじめの未然防止と早期発見に努め、いじめの解決に向けて組織的に取り組みます。

(4) 指導の重点

指導の重点

生徒の学力向上を目指し、研究授業等を通して常に授業改善を図る。また、生徒の授業以外における学習習慣の向上・定着を図る。

- 生徒支援の充実
 - ・生徒に社会と関わる意識、社会貢献への意欲を醸成し、自己肯定感の向上を図ります。
 - ・生徒一人ひとりの実態に合わせたきめ細かい支援を充実させます。
- 学校組織力、チーム力の向上
 - ・学校評価、学校関係者評価に基づいた学校運営、改善を実施します。
 - ・教職員が責任感を持って意欲的に業務に取り組み、互いに支援、連携できる組織力の強化を図ります。
 - ・いじめや差別等に気付き、お互いに声をかけ、思いを伝えあうことができる環境づくりを行い、誰もが安心・安全で豊かな学校生活が送られる環境を作ります。
- 教職員の指導力向上
 - ・生徒の興味・関心を喚起し、生徒のニーズに沿った授業を実践します。
 - ・プロジェクト推進部を中心に全教職員で積極的にESDを推進します。
 - ・新教育課程の着実な実施に向けた取組(観点別評価の研究、学習指導計画の作成)を行います。
 - ・ICTを活用した授業等の研究を行います。
- 保護者・地域等との連携
 - ・保護者との緊密な連携、協力により、学校教育の充実を図ります。
 - ・外部機関との連携により、ESDを推進するほか、学校機能の充実を図ります。
- 広報活動の充実
 - ・学校情報の正確・迅速な発信に努めます。
 - ・ホームページやマチコミ等を適切かつ有効に活用した情報公開に努めます。
 - ・新しい時代に合った、生徒募集の機会を検討します。

1 各教科の目標・活動方針

国語:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
○国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	○本校の現状に即し、「話す」「聞く」「書く」「読む」こと全般にわたって生徒の総合的な国語力の伸長を図る。	○教科会を通じて国語科職員間の連携を密にし、共通理解に基づく教科指導の徹底に努める。
○言語生活全般に対する関心を喚起し、言語生活を充実させる態度を育てる。	○言語活動を通じて「話す」「聞く」「書く」「読む」力の伸長を図るが、とりわけ「書く」力の向上を図る。	○日常の言葉遣いなど言語生活への関心を喚起し、ことばが適切に使用されるよう指導するとともに、話を静かに聞く態度の育成に努める。
○帰国生の日本語の力の育成と確立を図る。	○高校入学前までの日本語の力を把握し、語彙力やコミュニケーション能力の向上を図るなどの必要な指導を行う。	○他教科との連携を密にし、個別対応授業においては教科書以外の様々な資料を必要に応じて使用する。

地歴・公民:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質を育成することを目指す。①現代世界の地域的特色・日本及び世界の歴史を理解し、諸資料や調査から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。②社会的な事象を多面的・多角的に考察・構想し、それらを説明したり議論したりする力を養う。③より良い社会の実現のために、主体的に課題を解決していく態度を養う。	グローバル化する国際社会に主体的に生き、より良い社会の形成者として日本や世界の諸課題に対して積極的に解決する姿勢を養うことを通じて「主体的に学習に取り組む態度」を育成していく。日々の授業では基礎的な「知識・技能」の習得を目指す。その過程で「思考・判断・表現」の力を養っていく。	生徒が日本国内や世界で起きている社会的な事象に対する興味・関心を抱ける様、時事問題を絡めた資料を積極的に活用し、「主体的に学習に取り組む姿勢」を育成する。 社会的な事象に対する知識の蓄積を促すために、ICT機器を駆使したり書籍等から幅広い見識を得たりすることで広い視野を培い、それらを活用する技能を養う。 主体的に学習することで習得した知識や技能を駆使し、さらに学びを深め、自分の考えを表現していく。他者との対話の中で合意形成するプロセスを学ぶ。

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	日本国内や世界で起きている様々な社会的事象や課題に関心を持ち、それらは地域に生きる自分自身と関係が深いことを認識し、課題解決のために自分ができることを模索していく態度や思考力を養う。	社会的事象を多角的・多面的に考察・構想できる様、ICT機器などを積極的に活用していく。 持続可能な社会の形成者として、単に二項対立での解決策を模索するのではなく、多様性を尊重し主体的に行動していかれる様、育成していく。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

数学:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、数学に対する生徒の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の目標・能力に適した指導を工夫し、理解を深めさせる。 基礎知識の定着に留意しながら「自分で考える」意欲と力を引き出し、応用力の育成を図る。 継続的な学習習慣を身につけさせることに留意した指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にし、予習復習の習慣をつけさせる。 問題演習を数多く行い、内容の定着を図る。 家庭学習の進め方の指導や授業の受け方についても具体的にきめ細かく指導する。また課題を出すことで家庭学習の習慣をつけさせる。

理科:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<ul style="list-style-type: none"> 自然に対する興味・関心を深めながら、常に問題意識をもつ態度を養う。 身近な現象や問題を、自然科学を通じて考えられる能力を養う。 自然現象に対して論理的に推論しながら、実験・観察によって検証できる能力を身につけさせる。 実験・観察における技能を高め、実験によって自然現象を解明する能力を養う。 自然現象が持つ特徴・仕組みを学習し、それを理解するための理論的思考・方法を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境に対する意識を高める。 実験や実習を重視した学習を行い、実験や実習の方法を理解させ、科学的な思考ができるようにする。 探求活動を重視した授業展開に留意し、レポートなどのまとめで能力を伸ばすことができるようにする。 科学的な手法で得られたデータを処理し、結果の客観的判断および考察ができるようにする。 身近な自然現象が一定の法則性を持つことを理解させることにより、論理的な思考ができるようにする。 基礎知識の理解と定着及び、学力のさらなる向上を図る。 実験や実習の安全意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習の充実を図る。 レポート作成についての指導方法を研究する。 身近な例を多く取り上げ、より理解しやすい説明を心がけることにより、興味関心をもたせながら具体的なイメージとして定着できるようにする。 個々の生徒の経験や知識が有効に生かせるよう指導の工夫に努める。 観察・実験などを通して、生徒自ら問題を発見し、主体的に探求する能力や態度の育成に努める。 シラバスの研究・検討・作成を行なう。 観点別評価の観点を洗い出すとともに評価の方法とその実践について、より具体的に研究を進める。 実験実習への集中力の維持と安全への意識を常に保てるようにする。

保健体育:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>○心と体を一体として捉え、健康安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> <p>○健康保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p> <p>○個人および社会生活における健康安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	<p>○自己の体力に応じた能力や興味関心のある運動課題に主体的、積極的に挑戦し、意欲的に学習活動ができるようにする。</p> <p>○集団の中の自己を自覚し、学習活動の中では、役割分担の責任を果たすとともに、節度ある規則正しい行動がとれるようにする。</p> <p>○運動する喜びを味わい、明るい活力のある生活ができるように運動の生活化を図る。</p> <p>○保健学習においては、生徒の学習意欲を高め、生涯の基盤となる知識や理解を深め、生活の中での実践活動を通して健康安全に対する関心を深める。</p>	<p>○自己の能力、体力にあった学習計画を立てられるように指導する。また、仲間同士協力しあい、レベルの高い授業が展開できるように支援する。</p> <p>○保健学習では、興味や関心のある課題を設定して、実習や研究発表により、自主的、意欲的に学習を進める。</p>

芸術:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>○芸術に関する特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>○創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。</p> <p>○生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>	<p>○芸術のよさや楽しさを感じ、思いや意図を持って表現したり、味わう力を育てるよう指導する。</p> <p>○我が国や郷土の伝統の芸術に親しみ、芸術のよさを一層味わえるような鑑賞を行う。</p> <p>○生活や社会における芸術の働きや文化に関心や理解を深められるよう指導する。</p> <p>○主体的に芸術の学習に取り組めるよう指導する。</p> <p>○生涯にわたって芸術文化に親しむ態度を育てるよう指導する。</p>	<p>○生徒が表現の意図を考え、意欲的に取り組めるよう、実技課題の内容や問いかけを工夫する。</p> <p>○他者との表現の違いを理解し合えるよう、言語活動の充実を図る。</p> <p>○身の周りの芸術を例に、社会での芸術の役割を考えられるよう題材を工夫する。</p> <p>○生徒一人ひとりの個性を尊重し、個別の指導を充実させ、達成感を味わえるようにする。</p> <p>○設備や環境の充実を図る。</p>

外国語:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>・外国語の学習を通し、言語やその背景にある文化を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>・外国語を用い、必要な情報や相手の意向などを理解したり、自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。</p>	<p>・聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの5領域をバランスよく習得させる。</p> <p>・大学入学共通テスト・外部試験に対応できる聴解力を育成する。</p>	<p>・5領域を習得させるような授業作りに努める。</p> <p>・1年次を中心にLL教室のシステムを活用するとともに、3年間を通してリスニングの指導を行う。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について英語を聞いたり、話したりすることを通じ、情報や考えなどを論理的に伝える基礎的な能力を身に付ける。 ・AETとのチームティーチングを工夫し、話す力、積極的態度を育成する。 ・長文の内容や様々な資料から必要な情報をすばやく正しく読み取る力を養う。 ・伝えたい情報や自分の考えを的確に書き表す技能を習得させる。 ・帰国生徒の学力の補完、伸長を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動において、論理的に相手に伝えるよう指導を行う。 ・チームティーチングの目標、内容、手順を明確にする。 ・予習、復習指導およびそれぞれの学習集団の学力や進路希望に応じた読解指導を行う。 ・大学入試における英作文問題に対応できるよう、各科目で表現活動を積極的に取り入れる。 ・2年次課程修了時までには文法、構文、基本語彙の指導を終える。
-------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

家庭:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を目指して、指導改善を行ったり、評価の妥当性や信頼性を確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導に生かす評価、記録に残す評価から、生徒の変容を見取り、授業改善につなげていく。 ・ICTを効果的に活用できるようにする。 ・知識の概念的な理解を評価するための問いを工夫・改善し、他の学習や生活の場面でも活用できるようにする。 ・来年度3年生の新学習指導要領実施に向けて、現3年生の選択科目でも先行実施していく。

情報:

目標	指導の重点	目標達成のための方策
<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報技術について理解を深め、これらを活用して問題を発見・解決できるよう技能を習得する。また、情報社会と人との関りについて理解を深める。 ・様々な事象を情報とその結び付きとしてとらえ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 ・法規や制度及びマナーを守る態度モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用し、情報社会に主体的に参加する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 ・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の情報に関して身近な話題を題材にして、段階的に理解させていく。 ・チームティーチングを実施し、生徒の多様性に対応する。 ・実習においては、随時適切な評価を行い、生徒の自己評価を促し、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を身に付けさせる。 ・情報処理室およびコンピュータのソフトウェア、周辺機器の整備を行い、効果的に情報機器を授業で活用できるように努める。

2 各学年の目標・活動方針

1年次 61期

目標	指導の重点	目標達成のための方策
----	-------	------------

○基本的な生活習慣を定着させ、規律ある学校生活を送る。	・時間を守り、挨拶など礼儀を重んじ、健康に気を配って生き活きと日々を過ごさせる。	・日々生徒とのコミュニケーションを取ることで様子を観察し、教員間で共有することにより全体で見守る体制をつくる。 ・挨拶をきちんとさせる。
○学習習慣を確立し、進路に対する意識を高める。	・日々の授業に真摯に取り組み、進んで学習する姿勢を養わせる。	・授業の予習・復習をする習慣をつけさせ、家庭学習の定着を図る。
○他者を思いやり、協調性を身に付ける。	・ルールを守り、周囲の仲間に気を配って思いやる精神を伸ばす。	・相手の立場になって行動することができるように様々な場面で指導していく。

2年次 60期

目 標	指導の重点	目標達成のための方策
○当たり前のことを当たり前に行動する人	・自分だけの「あたりまえ」とせず、みんなにとっての「あたりまえ」を考え行動する ・学習習慣を確立するとともに、自分の進路に対する意識を高める。	・(例)スマートフォン・携帯電話等に使われるのでは無く、主体的かつ効果的に活用する。みだしなみに気を ・毎日の授業に対する予習・復習を徹底させ、家庭学習の定着を図る。
○自ら判断し行動できる人	・相手の顔を見て、元気に挨拶をす ・前向きな学習姿勢の継続 ・時間管理、生活管理 ・早期の目標設定と継続した準備 ・ことばを用いて論理的に考える	・挨拶をきちんとさせる。 ・総合的学習の時間、LHRでの学習により早期の目標設定を図る。 ・始業前の着席と準備など学校生活全般を通じて意識、行動を促す。 ・総合的学習の時間、LHRでの学習により早期の目標設定を図る。 ・各授業における言語活動の充実化と振り返りを行う。
○自分の努力で誰かを笑顔にできる人	・感謝の気持ちと人を思いやる心を忘れない ・人のために行動できる	・始業前の着席と準備など学校生活全般を通じて意識、行動を促す。

3年次 59期

目 標	指導の重点	目標達成のための方策
○基本的な生活習慣を確立した上で、一人ひとりが感染症対策などを含め健康管理に留意し、最上級学年として規則正しい学校生活を送る。	・自己管理に一層努め、時間を守り、礼儀を重んじる態度を身につけさせる。	・生活全般にわたり生徒とのコミュニケーションを図り、日々の生徒の活動状況や心の動きを捉えるよう心がける。 ・挨拶をきちんとさせる。 ・教室の環境美化に努めさせる。 ・何事に対しても意欲的に、みんなで協力して取り組ませる。 ・最上級年次であることを自覚し、部活動、諸行事において、常に下級生をリードしていけるよう取り組ませる。 ・適宜、家庭との連絡を密にとる。
○学習習慣の確立し、自己実現の具現化のため最大限努力する。 ○自己の人間性を育み、深める。	・毎日の授業を大切にし、自ら選択した科目に責任を持って取り組ませ ・自他の違いを認め尊重し、協調していく態度を養わせる。	・予習・復習を徹底し、進路実現に向けた学習習慣の定着を図らせる。 ・自分の言動に責任を持ち、周囲への思いやりと優しさを持たせる。 ・ユネスコスクールである東高校の生徒として、持続可能な社会と向き合い、意欲的に取り組ませる。 ・マナーを守り、周囲を思いやる気持ちを伸ばす。

3 各分掌の目標・活動方針

教務部:

目 標	活動方針
<p>①本校教育課程の充実 ○本校生徒の実態分析を通して、本校教育課程の適切なあり方を引き続き検討する。</p> <p>②帰国生の学習環境 ○帰国生徒募集校の特長を生かした教育課題を捉え、環境整備と組織的運営の充実を図る。</p> <p>③職員の情報技術向上 ○各教科指導において情報処理室の有効な活用ができるようにする。 ○今後の情報教育に関わる検討を継続する。</p> <p>④備品・記録簿等の管理 ○備品、記録簿の点検と管理を徹底し、不要物の整理と機能的な保管を行う。</p> <p>⑤国際理解教育 ○国際理解教育、国際交流のあり方を検討する。</p> <p>⑥図書 ○生徒の読書に対する意欲を高め、図書室の十分な活用を図る。</p> <p>⑦その他 ○入試事務やその他の教務事項について引き続き問題点を整理し、改善を重ねていく。 ○資源の有効利用を念頭に印刷物等の利用について、引き続き計画的に行う。</p>	<p>○各活動について計画的・組織的な取り組みがなされるよう教務部会を定期的に行う。</p> <p>○各教科・科目のシラバスおよび年間評価計画の作成により、計画的な学習計画に基づく学校経営を発展・充実させるようにする。</p> <p>○観点別学習状況の評価を各教科が適切にスムーズに実施及び点検ができるよう環境整備を行う。</p> <p>○教科学習・特別活動などを見通した学校経営を図り、生徒の個性を生かし、その潜在的能力が伸長できるようにする。</p> <p>○各教科の授業時間の十分な確保および時数の平均化を図る。</p> <p>○帰国生の言語と教科学習の適切な環境が保証されるようにする。</p> <p>○学習内容、発達段階、適応能力についてHR担任及び教科担任が相互連携を深め、緻密な教育的支援を行う。</p> <p>○教科学習の適応指導終了後クラスに戻ることを教務やHR担任や学年に情報が速やかに共有できるようにする。</p> <p>○帰国生徒の自己実現に向けて、援助と指導の充実を図る。</p> <p>○帰国個別対応授業の内容について、可能な限り情報・資料提供ができるように国際室の充実を図る。</p> <p>○校内ネットワークの維持・管理を教職員全体で担えるように定期的に研修を行っていく。</p> <p>○教職員によるセキュリティーを考慮した各種データの適切な利用、運用を継続していく。</p> <p>○諸表簿の管理・運用の改善を図る。</p> <p>○種々多様な保管物の点検と不要物の迅速で適切な処理を通して、機能的な環境の改善を図る。</p> <p>○印刷環境を常に最善に整え、授業資料や生徒の活動に最大限の効果を挙げられるよう努める。</p> <p>○国際理解教育・国際交流のあり方を検討する。</p> <p>○留学の受け入れ送り出しに関するデータを広く収集し、精査の上、生徒への情報提供を図る。</p> <p>○留学受け入れ生徒の生活環境・学習環境の検討・調整を行い、留学生がより良い留学を行えるように図る。</p> <p>○書物に対して親しみ・興味を持たせる。</p> <p>○図書室の利用方法を徹底させる。</p> <p>○利用者の希望も容れた図書購入と、新着図書等の広報での紹介や展示を行う。</p> <p>○読書相談を通じての書籍紹介。読書感想文コンクールの取り組みを図る。</p> <p>○蔵書のコンピュータ管理の充実、書架の充実と耐震化の実施。</p> <p>○図書委員会の活性化を図る。</p> <p>○入試事務を効率的に行えるよう内部処理システムの改善を引き続き図る。</p> <p>○定期テストの実施形態を考え、より生徒が積極的に学習でき成果を挙げられる方法を勘案する。</p>

総務部:

目 標	活動方針
1 学校目標の達成のために学校運営が円滑に行われるよう業務を遂行する。	1-1 業務内容を整理し、円滑な運営が行われるよう、適正な人員の配置と役割分担を行う。 1-2 主催する行事の運営、年間月間予定作成にあたり、他分掌や学年、教科と緊密な連絡を取る。 1-3 業務遂行の為に必要な資料を整備し、その管理を徹底する。
2 儀式的行事についての改善を図る。	2-1 入学式・卒業式などの厳粛な儀式を通して、伝統を継承し、さらに発展させ品位ある態度を育てる。 2-2 式次第、内容について常に見直しを行い、よりよい式典のあり方を検討する。
3 学校広報活動について、各部署と連携を図りながら、外部にわかりやすい広報になるようにする。	3-1 学校要覧・学校案内等の印刷物の内容・構成を見直し、よりわかりやすい広報を目指す。 3-2 学校紹介ビデオ、Web ページ等の幅広い広報活動について、その運用方法の検討を継続していく。
4 PTA活動の充実、保護者の支援・協力体制の確立に努力する。	4-1 学校PTA活動に関して、その活動が活発に運営されるよう補助していく校内体制を整える。 4-2 保護者への配布物をWebページに掲載し、確かな情報の伝達に努める。
5 芸術鑑賞を通して、一般の授業では得られない生徒の芸術、教養、知識に対する認識を高める。	5-1 芸術鑑賞のあり方を継続して検討する。また芸術鑑賞の作品を充実させ、豊かな情操の育成に努める。
6 視聴覚機器の管理を通して、学校内における諸活動のスムーズな運営に協力する。	6-1 体育祭や東高祭などの行事における視聴覚機器の操作の関心を高めさせる。 6-2 行事など、学校内諸活動の記録を行う。 6-3 視聴覚機材、放送機器の安全な使用を徹底させる。
7 デジタル生徒手帳を作成する。	7-1 紙ベースの生徒手帳を廃止し、デジタルで閲覧できるようにする

生徒会指導部:

目 標	指導の重点	目標達成のための方策
○学校行事・委員会活動を通して、自主的・積極的・計画的に物事に取り組むことのできる生徒の育成を目指す。	○委員会活動や各行事の意義を確認させ、意識的に生徒会活動に取り組ませ、望ましい生徒会活動のあり方について考えさせる。	○生徒が受け身にならず、積極的に参加する生徒会を目指し、クラス討議や各委員会・企画委員会の討議を重視し、生徒会中央と一体となった生徒会活動を行う。
○生徒会活動を通して、自治活動の重要性を学ばせ、主体的に参加する姿勢を身に付けさせる。	○各活動の継続・継承を基本とし、より充実した取り組みの実現を目指して指導する。	○生徒の自主的・主体的活動を尊重すると共に、生徒との対話を大切にし、教師と生徒の相互理解を深め、活動の連携を図る。
○委員会活動及び各行事の充実化・活性化を目指すとともに、それぞれの合理化・効率化も追求する。	○充実した特別活動を目指し、生徒会活動の円滑な運営を図るために、生徒会指導部教員内の連携を図ると共に、教職員全体の連携も深める。	○各行事後のアンケートや反省を通して問題点を明らかにし、文章化して、次年度へ引き継ぐ。また、マニュアル化できるものはマニュアル化するなど、活動を整理し、生徒が主体的、自主的に活動できるよう、運営の平易化等を図り、各行事の充実化を目指す。
○生徒会中央委員の育成を図り、円滑で充実した生徒会活動を目指す。	○各活動を通じて「計画→実行→振り返り」の一連の流れを定着させる。	○新旧役員との引継ぎや連携、活動の継続を重視し、様々な活動におけるノウハウが蓄積され、またそれが有効に活用できるよう助言や指導を行う。役員選挙の充実も目指す。
○PTAや地域との連携を進める。	○PTAや地域との連絡調整を密に行う。	○PTAや地域への呼び掛けを積極的に行い、また地域の活動への参加をめざし、相互交流を図る。

生活指導部:

目 標	指導の重点	目標達成のための方策
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけさせる。(あいさつや適切な礼) ・集団生活におけるマナーを身につけさせ、快適な学校生活が送れるようにする。 ・規範意識(社会におけるきまり)を高め、社会にいきり一員としての自覚を高める。 ・校内における盗難事故の防止に努める。 ・生徒どうしが互いに人格を高めあえる教育環境をつくる。 ・健康的な生活習慣を身に付け実行できるようにする。 ・薬物に対する知識を深める。 ・性感染症等に対する知識を深める。 ・清潔で整理整頓された学習環境をつくる。 ・ゴミの減量と分別の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることの大切さを教える。始業時・授業等への遅刻を減らす指導を積極的に行い、時間を守ることが身につけさせる。 ・人の話が静かに聞ける態度を身につけさせる。式典・集会・講演会など大人数が集まった時に、早く静かになり、話を静かに聞くことができるよう指導する。 ・きまりごとはしっかり守ることをあたりまえのこととして、指導を行う。 ・犯罪や他人に迷惑をかけない良心を育成する。また公共物を大切に、公共交通機関利用時のマナー向上を図るとともに犯罪への誘惑を断ち切る良心を育む。 ・貴重品・持ち物を自己管理する力を高める。 ・SNSを使った生徒間、学校・教職員への誹謗や中傷を許さない。またインターネットや携帯電話の適切な使用を指導し、トラブルを未然に防ぐことをめざす。 ・自分の健康状態を正しく把握させるとともに、公衆衛生について考える機会を多くする。 ・保健講話などの活動を通し、体や健康に対する意識を高めさせる。 ・日常の清掃がきちんとできるよう、用具を整え、方法を工夫する。 ・校内をきれいに保つ意識を高めさせる。 ・ゴミの処理方法について、周知徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、全職員で「時間を守ること・人の話を聞くこと」の大切さを理解させ、指導を徹底する。 ・集団生活の中での自分の役割を自覚し、状況に応じた行動がとれるように指導する。 ・定期テストなどにおける不正行為の防止に努める。 ・生活指導部会や学年会での情報を全職員に提供し、共通理解のもとに進めていく。また、事前指導の徹底を図り、事故や事件を未然に防ぐことをめざす。 ・校内および近隣への巡回を頻繁に行う。 ・盗難に関する指導を充実させる。 ・生徒指導・学年・クラス担任相互の連絡を密にとり、必要に応じて全職員へ報告を行う。 ・個を尊重し一人ひとりの生徒をよく観て、その生徒に応じた指導・対応を行う。 ・不登校傾向の生徒を早期発見し、その生徒に最も適した対応を考える。 ・スポーツテスト、身体計測、健康診断などの機会を利用し、自己の健康状態を把握させる。 ・保健講話の充実を図る。 *1年…薬物乱用防止 *2年…性感染症の予防等 ・清掃用具の補充、点検、管理に留意する。 ・日常の清掃を通じ、学習環境、校内美化に努めさせる。 ・ゴミの分別がしやすい工夫をする。 ・生徒会の各種委員会活動を活発にし、充実させる。

進路指導部:

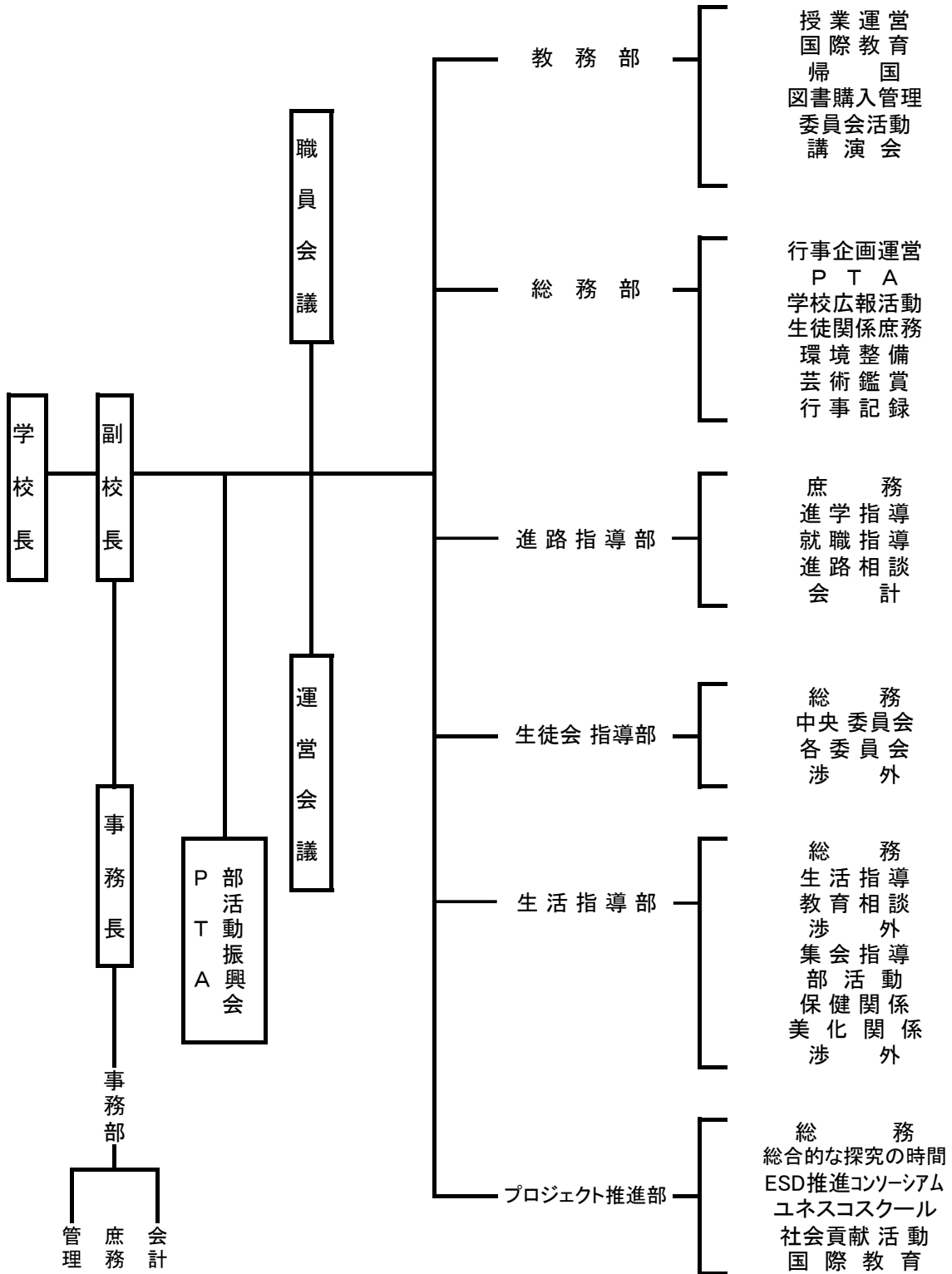
目 標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>あらゆる教育活動の場及び機会において、生徒がしっかりと自己理解をした上で、人間として望ましいあり方や生き方の自覚を深め、主体的に人生設計を行う能力と態度を育成する。</p> <p>また、生徒の多様な進路に対応出来るようにする。</p> <p>将来、生徒がグローバルマインドを持ち社会に寄与する人材育成を視野に入れながらゆるぎない実力をつける、つけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力を最大限に引き出した進路選択と進路に対する主体的な取り組みができるように正確で的確な情報を提示し、指導及び助言に努める。 ・生徒一人ひとりに対して適切な指導及び助言ができるよう、職員間の連携を深めていく。 ・令和7年度入試に向けての傾向と対策を講じ、情報収集に努め、迅速でしなやかな動きをとれるようにする。 <p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や様々な活動を通して、自己の適性や能力を理解させる。 ・多角的な情報により、自己の将来を幅広く考えさせる。 ・大学入学者選抜の改革に向けて、情報を提供する。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性や能力、興味、関心などを総合し、進路目標を定めさせる。 ・目標実現のために必要な能力を高める努力をさせる。 <p>(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標実現のための情報を収集し、進路計画を立案、実行させる。 ・進路計画を遂行する上での条件や課題を克服し目標を実現させる。 ・生徒個々の進路実現に向け、教職員全体で情報を共有し連携した指導体制を構築する。 	<p>ア 3年間を見通した指導計画の内容を整備し、さらに充実させることで一貫性のある指導ができるようにする。</p> <p>イ 多様化する進路に対応すべく、最新の情報収集に努力する。</p> <p>ウ 生徒や保護者の進路に関する疑問や不安に対応できるようにする。</p> <p>エ 進路指導体制のシステム化を図る。</p> <p>① 定期的に進路希望調査を行い、生徒の進路希望動向の把握に努める。またその情報を各年次の職員が共有することによって効果的な指導ができるようにする。</p> <p>② 相対的かつ客観的に生徒が自己の学力を知る機会を提供し、指導に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路集会を初めとした手厚い進路指導の実践。 ・公務員模擬試験、就職模擬試験等の紹介 ・スタディーサポート、学力テストの実施と結果の有効な活用 ・面談・進路相談等でファインシステムとコンパスの活用しつつ個別指導の最適化をはかる。 ・生徒個々をつぶさに観察し、チー

プロジェクト推進部:

目 標	指導の重点	目標達成のための方策
<p>・国際理解教育・社会貢献活動を軸にしたESD推進の取組をはかり、生徒の課題探求・解決能力を伸長する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の推進。 ・社会貢献活動の推進。 ・生徒の課題探求解決能力の伸長をはかる学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生、帰国生との交流や、総合的な学習等の学習活動を通して、多種多様な文化や価値観を学ぶ。 ・ボランティア活動等の生徒の社会貢献活動を推進する。 ・課題探求解決能力を磨く課題や場を学習に取り入れる

(5) 組織及び校務分掌

校務運営組織



令和5年度 校内組織表

校長		大山 仁彦		副校長		高橋 司		副校長		高橋 一雄		電話		045(571)0851		FAX		045(585)5780				
所属	担当	氏名	教科	教務	総務	生活指導	進路指導	生徒会指導	プロジェクト推進	備考	所属	氏名	教科	教務	総務	生活指導	進路指導	生徒会指導	プロジェクト推進	備考		
1 学 年	主任	高口 健一	数学				○			数学科主任	外 次 年	影山 諒	国語					○		生徒会指導部主任		
	副主任	古橋 卓	理科						○			山崎 円	国語						○			
	副主任	宮崎 健一	国語		○							鈴木 友也	国語		○							
	1-1	城尾 彰	保体			○						智野 豊彦	国語							○		
	1-2	岡 実智子	理科				○					市川 恵	国語							○	プロジェクト推進部主任	
	1-3	廣瀬 賢彌	数学	○								木下 侑紀	地・公	○								
	1-4	田中 綾乃	英語	○								角町 賢治	地・公							○		
	1-5	在原 弘野	国語					○				大西 純子	数学		○							
	1-6	右田 眞子	英語						○			大濱 宏	数学		○							理科主任
	1-7	屋宜 宣隆	地・公						○			進 達也	理科				○					
	学年付	池下 花	国語									市原 克一	理科				○					生活指導部主任
	学年付	原 友彦	地・公							○		須貝 聡	理科			○						総務部主任
	学年付	渡邊 優雅	英語	○								今村 亜希子	理科			○						
2 学 年	主任	間宮 弘次	地・公				○				外 次 年	高橋 佳代	理科	○								
	副主任	池田 千永	家庭	○								田畑 めぐみ	保体		○							
	副主任	山崎 了祐	保体			○						中尾 輝路	保体					○			進路指導部主任	
	2-1	伊藤 真由実	保体						○			吉江 悠介	音楽							○		
	2-2	山口 照之	数学	○								菅田 浩美	英語	○								家庭科主任
	2-3	伊東 美咲	国語						○			内田 美喜子	英語							○		
	2-4	藤原 英司	保体						○	体育科主任		藤谷 学	英語	○								教務部主任、情報科主任
	2-5	大熊 準矢	英語							○		英語科主任	小嶋 裕子	養護						○		
	2-6	小峰 悠希	英語					○				松並 理恵	養護							○		
	2-7	朝倉 良文	地・公	○								地歴公民科主任	高木 好花	司書	○							
学年付	堀内 菜智	数学							○													
学年付	三谷 健太郎	情報	○																			
3 学 年	主任	八木澤 和人	英語		○						学 校 医 等	スクールカウンセラー		秋山 祐子								
	副主任	前崎 愛	美術		○					芸術科主任		荒井 慶子		内科	学校医等	浅川 剛志					耳鼻科	
	副担任	樋川 恭子	英語			○						小池 均		眼科	学校医等	山崎 健					薬剤師	
	3-1	近藤 隆宏	数学	○								森田 研二		歯科	学校医等							
	3-2	花房 裕都	理科				○															
	3-3	常森 朋子	国語					○		国語科主任												
	3-4	菊池 洋美	理科						○													
	3-5	青木 一博	地・公	○																		
3-6	江藤 陽子	英語							○													
3-7	満田 健太	保体							○	保健体育科主任												
学年付	立野 勝也	数学							○													
事 務 職 員	鳥丸 瑞恵	事務長									非 常 勤 講 師	菅井 健治	書道・書道			川端 亮佑	サッカー	川端 亮佑	サッカー			
	中田 文絵	事務職員										花田 憲司	国語			部活動指導員	松田 寛明	バスケ	中島 乃里村	チア		
	平野 良朗	事務職員										二名 和王	社会				倉上 涉	バド	中里 真也	吹奏楽		
	齊藤 悠希	事務職員										唐澤 剛	数学				田中 嵐士	水泳	渡辺 笑子	茶道		
	宮下 優衣	事務職員										川名 美佑	実習助手				成田 静夫	弓道	菅井 健治	書道		
	塩見 奏音	事務職員															小野 日菜子	ラクロス				

(6) 時程表

授業時程

横浜市立東高等学校

	平常時程	短縮時程	時差登校時程
HR	8:30 ~ 8:40	8:30 ~ 8:40	8:45 ~ 9:00
1校時	8:45 ~ 9:35	8:45 ~ 9:30	9:00 ~ 9:45
2校時	9:45 ~ 10:35	9:40 ~ 10:25	9:55 ~ 10:40
3校時	10:45 ~ 11:35	10:35 ~ 11:20	10:50 ~ 11:35
4校時	11:45 ~ 12:35	11:30 ~ 12:15	11:45 ~ 12:30
昼休み	12:35 ~ 13:15	12:15 ~ 12:55	12:30 ~ 13:10
5校時	13:20 ~ 14:10	13:00 ~ 13:45	13:15 ~ 14:00
6校時	14:20 ~ 15:10	13:55 ~ 14:40	14:10 ~ 14:55
7校時	15:20 ~ 16:10	14:50 ~ 15:35	15:05 ~ 15:50
備考	6校時の場合は 15:10 から HRと掃除 7校時の場合は 16:10 から HRと掃除	6校時の場合は 14:40 から HRと掃除 7校時の場合は 15:35 から HRと掃除	6校時の場合は 14:55 から HRと掃除 7校時の場合は 15:50 から HRと掃除

(7) 教員別時間割表

教職員名	月							火						水					
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
在 原				1-4 現代国語 選①	1-5 現代国語 選②		総合	1-4 言語文化 選②			1-1 現代国語	Va 実践古典						1-1 言語文化	1-5 言語文化
池下	1-2 現代国語			1-4 古典探究 選①	1-6 現代国語		総合	選②							1-2 言語文化			1-5 言語文化	
伊東美		2-3 文学国語	2-7 論理国語	古典探究 選①		2-5 6 文学国語	総合	選②		2-3 論理国語		2-7					2-5 6 論理国語	2-3 文学国語	
影山		IIIa 古文③		古典探究 選①		2-5 文学国語	総合	2-1 文学国語	1b 古文①						1c 古文①		2-1 論理国語	IIIb 古文③	
常森	3-3 現代文B	IIIa 古文④		3-5 6 現代文B補 選①	1-5 6 現代国語 選①	1-3 現代国語	総合	選②		Va 実践現代文			3-4 現代文B	1c 古文②		1-7 実践現代文	IIIb 古文④		
宮崎				選①	1-5 6 現代国語 選①	2-6 文学国語	総合	選②		1-7 現代国語				1-3 言語文化	1-7 言語文化	2-6 文学国語	1-5 6 言語文化補		
山崎円			2-4 論理国語		IIa 実践現代文①	2-6 文学国語	総合	2-2 論理国語		2-4 文学国語					IIb 実践現代文	2-2 文学国語			
山本	3-2 現代文B			3-5 現代文B 選①	IIa 古典B②	Id 古典B①	総合	IIc 古典B②	1b 古典B①				3-7 現代文B	1c 古典B①	IIb 古典B②	IVc 国語表現①			
花田	3-1 現代文B			IVa 実践現代文②	現代文B														
青木		2-6 世界史探究		1-1 歴史	1-4 歴史	1-6 歴史	総合	IIc 世界史B①		Va 世界史B②	2-6 世界史探究				IIb 世界史B①		1-6 歴史		
朝倉	1-7 公共	2-6 日本史探究		選① 政経a	2-7 日本史探究		総合	選② 政経e		2-7 日本史探究	2-6 日本史探究	2-7	2-7 日本史探究	1-5 6 公共	1-4 公共		1-7 公共		
鈴木	2-4 世界史探究	2-5 世界史探究		1-3 歴史		1-5 歴史	総合	2-7 地理総合	2-5 地理総合	2-2 地理総合			2-5 世界史探究	2-5 地理総合	2-2 地理総合	1-5 歴史	2-4 世界史探究		
菅野	2-5 日本史探究		IVa 倫理②	選① 政経b	2-1 日本史探究		総合	選② 政経d	1b 倫理①		2-5 日本史探究		2-5 6 地理総合	1-5 公共	IIb 日本史B①	2-1 日本史探究	IVc 政経特選		
原			2-1 地理総合				総合	1-2 公共	IIc 日本史B②	2-5 6 地理総合			2-5 6 地理総合	1-5 公共	IIb 日本史B①	1-2 公共	2-3 日本史探究		
間宮	2-3 日本史探究		1-1 公共		選① 政経a	1-5 6 歴史補	総合	選② 政経f		Va 日本史B③	III d 日本史B②	1-7 歴史	1-7 歴史	2-4 地理総合	2-2 日本史探究	IVc 倫理③	2-3 日本史探究		
屋宜							総合						1-7 歴史	2-4 地理総合	2-2 日本史探究	1-5 6 歴史	IIb 日本史B②		
二名							総合		2-6 地理総合	2-4 地理総合	2-3 地理総合		2-6 地理総合	2-4 地理総合	2-3 地理総合				
市川		1-1 数学I		1-7 数学I	IIa 応数I A		総合	1-1 数学A	IIc 応数I A	1-7 数学A					IIb 応数I A	1-7 数学I	1-1 数学I		
木下	2-5 6 数II補				2-1 2 数学B		総合						2-3 数II系		2-5 6 数II系	2-1 2 数学B	2-2 数II系		
高口		1-6 数学I	1-4 数学I		IIa 応数II B①		総合	1-6 数学I	IIc 応数II B①	1-4 数学I					IIb 応数II B①	1-6 数学I	1-4 数学I		
近藤	2-6 数II文系	IIIa 応数II B②	IVa 数学III①		IIa 数学III②		総合	1-5 6 数学A補	IIc 数学III②	2-1 数学A	1-2 数学A		III d 応数II B②	2-1 数II系	2-6 数II文系	IIb 数学III①	IIIb 応数II B②		
立野		1-5 6 数学I補	IVc 数学III②		IIa 数学III②	1-2 数学I	総合	1-5 6 数学A補	IIc 数学III②	2-1 数学A	1-2 数学A		2-5 6 数II系	2-1 数II系	2-6 数II文系	IIb 数学III②	1-5 6 数学I補		
角町	2-5 6 数II理系	2-5 6 数学B補			2-7 数II理系		総合	2-1 数II文系	2-7 数II文系				2-5 6 数学B補	2-1 数II系	2-6 数II文系				
廣瀬	1-3 数学I	1-5 数学I					総合	1-5 数学A	1-3 数学A						1-3 数学I	1-5 数学I			
堀内	2-3 4 数学B				2-7 数II文系		総合	2-4 数II理系	2-7 数II文系								2-4 数II理系		
山口	2-5 数II文系	2-5 6 数学B			2-7 数学B		総合	2-4 数II文系	2-7 数学B		2-2 数II理系	2-5 6 数学B	2-7 数学B	2-5 数II文系		2-4 数II文系	2-2 数II理系		
唐澤							総合	2-4 数II文系	2-7 数学B		2-2 数II理系	2-3 数II文系	2-3 数II文系		2-3 数II文系	2-4 数II文系	2-2 数II理系		
岡	1-4 化学基礎		1-2 化学b	選① 化学b		Id 化学②	総合	選② 化学d	1b 化学②						1c 化学②				
大濱		1-5 6 物理基礎補		1-1 物理基礎			総合	1-7 化学基礎	1-3 物理基礎	1-5 化学基礎			1-1 化学基礎	1-1 物理基礎	1-3 化学基礎		1-3 化学基礎		
大西		IIIa 物理②	1-5 物理基礎		1-7 物理基礎		総合	選② 物理a	1-3 物理基礎	1-5 化学基礎	III d 物理②	1-2 物理基礎	1-1 物理基礎	1-7 物理基礎	IVc 物理②	IIIb 物理②			
菊池	1-5 6 生物基礎補	IIIa 化学③		選① 化学a		Id 化学①	総合	選② 化学c	1b 化学①	1-5 6 生物基礎補	III d 化学③	1c 化学①	III d 物理基礎	1-3 生物基礎	1c 化学①	IVc 生物②	IIIb 化学③		
進	1-6 生物②	IIIa 生物②		選① 生物a			総合	選② 生物b	1b 生物①	1-6 生物基礎	III d 生物②	1-4 生物基礎	1-3 生物②	1-4 生物基礎	1c 物理①	IIIb 生物②	IIIb 生物②		
花房		IIIa 物理③	1-6 物理基礎	選① 物理c		Id 物理①	総合	選② 物理b	1b 物理①	1-4 物理基礎	III d 物理③	1c 物理①	III d 生物基礎	1-1 生物①	1c 物理①	IIIb 物理③			
古橋	1-5 生物基礎		1-2 生物基礎		1-2 生物①		総合	1-7 生物①	1-5 生物基礎	1-5 6 化学基礎補			1c 生物①	1-1 生物基礎	IVc 応用生物				

教職員名	月							火						水					
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
市川		1-3 4 体育		3-4 7 体育		2-1 2 体育	総合	3-4 7 体育		1-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育		1-1 2 体育		3-1 2 3 体育		3-1 2 3 体育		
伊藤真		1-3 4 体育		3-4 7 体育	2-3 4 体育	2-1 2 体育	総合			1-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育	2-1 保健			2-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育			
城尾	1-1 保健	1-3 4 体育		3-4 7 体育	2-3 4 体育		総合		1-5 保健	1-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育		1-1 2 体育	3-5 6 体育	2-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育			
須貝		1-3 4 体育		3-4 7 体育	2-3 4 体育		総合	3-4 7 体育		1-5 6 7 体育	2-4 保健	2-5 保健	1-1 2 体育	3-5 6 体育	2-5 6 7 体育	1-3 保健	1-7 保健		
藤原		1-3 4 体育		3-4 7 体育	2-3 4 体育	2-1 2 体育	総合		2-4 保健	2-5 保健			1-1 2 体育	3-5 6 体育	2-5 6 7 体育				
満田		1-2 保健		3-4 7 体育	2-3 4 体育		総合	3-4 7 体育	1-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育			3-5 6 体育	2-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育				
山崎了			2-3 保健	3-4 7 体育	2-3 4 体育	2-1 2 体育	総合	3-4 7 体育	1-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育			2-7 保健	2-5 6 7 体育	3-1 2 3 体育				
今村		1-7 音楽I	1-7 音楽I			Id 音楽I	総合	選② 音楽I	1-1 2 音楽I	1-1 2 音楽I	1-3 4 音楽I	1-3 4 音楽I					IIIb ピアノ①		
前崎		1-7 美術I	1-7 美術I				総合	選② 美術I	1-1 2 美術I	1-1 2 美術I	1-3 4 美術I	1-3 4 美術I					IVc 美術研究		
菅井		1-7 書道I	1-7 書道I				総合	1-1 2 書道I	1-1 2 書道I	1-1 2 書道I	1-3 4 書道I	1-3 4 書道I							
江藤	2-1 2 英総標②	IIIa 英総標②		3-2 C英III			総合	3-6 C英III		Va 英総標④			3-2 C英III	2-1 2 論表II②		3-6 C英III	IIIb 英総標②		
大熊	3-5 6 英表標②	2-5 英CII		2-5 英CII			総合	3-1 2 3 英表標②	2-5 英CII	3-5 6 英表標②	2-6 7 論表II①		2-3 英CII	1c 英総標①	2-4 英CII	2-5 英CII	2-5 論表II①		
小峰		2-6 英総標②	IVa 英CII	2-6 英CII	2-3 4 論表II②		総合	2-6 英CII	1b 英総標①	2-3 英CII			2-3 英CII	1c 英総標①	2-4 英CII	3-4 7 英表標①	IVc 英総標③		
高橋	2-4 英CII	2-5 論表II②		2-5 6 英CII補	2-3 4 論表II③		総合	3-1 2 3 英表標①	2-5 6 英CII補	3-5 6 英表標①	2-6 7 論表II①		2-4 英CII			3-4 7 英表標①	2-5 論表II②		
田中		1-2 論表		1-2 論表	1-4 英C I		総合	3-1 2 3 英表標①	1-4 英C I	2-2 英C II	1-2 英C I	1-2 英C I	1-4 英C I	1-2 英C I	1-2 英C I	3-4 7 英表標①			
田畑	2-1 2 論表II①	2-1 英CII	2-2 英CII		2-5 6 英CII補		総合	2-5 6 英CII補	2-2 英CII	2-6 7 論表II②	2-1 英CII	2-1 英CII	2-1 英CII	2-1 2 論表II①		3-4 7 英表標①	2-6 7 論表II②		
中尾	3-5 6 英表標①			3-1 C英III	1-1 論表		総合	3-5 C英III		3-5 6 英表標①	1-5 論表		3-1 C英III	1-5 論表	1-5 論表	3-5 C英III	1-4 論表		
樋川		IIIa 英総標②		3-3 C英III			総合	1-6 論表	1b 英総標①	3-7 C英III			3-3 C英III	1c 英総標①	1-6 論表	IIIb 英総標②			
右田		1-3 論表		1-6 英C I		1-7 英C I	総合	3-1 2 3 英表標②	1-6 論表	1-7 英C I	1-7 英C I	1-7 英C I	1-6 英C I	1-6 英C I	1-6 論表	1-4 論表			
八木澤	3-4 C英III	IVa オフロコミ	1-5 6 英C I補	1-3 英C I			総合	1-3 英C I		3-4 C英III			1-5 6 英C I補	3-4 7 英表標②	3-4 7 英表標②	IVc オフロコミ	1-3 英C I		
吉江	2-1 2 論表II②			1-5 英C I	1-2 論表	2-3 4 論表II①	総合	1-7 論表		2-6 7 論表II②	1-5 論表	1-5 論表	1-5 英C I	2-1 2 論表II③	1-5 論表	3-4 7 英表標②	2-6 7 論表II③		
渡邊	3-5 6 英表標①			1-5 6 英C I補	1-1 論表		総合	3-1 2 3 英表標②	1-7 論表	3-5 6 英表標①	1-1 英C I	1-1 英C I	1-5 6 英C I補		1-1 英C I				
Sabina											Va オフロコミ								
Nicholas											Va オフロコミ								
池田				IIa	Id		総合	IIc	1b	2-1 家基②	2-5 家基②		2-3 家基②	2-1 家基②		2-6 家基②	2-5 家基②		
内田	2-2 家基①	IVa フードデザイン					総合	IIc	1b	2-5 家基①			2-3 家基②	2-1 家基②	2-4 家基①	2-4 家基①	2-5 家基②		
菅田	2-2 家基②						総合	2-1 家基①	Va サスライ	III d サスライ			2-3 家基②	2-1 家基②	2-4 家基①	2-6 家基①	2-5 家基②		
藤谷	2-7 情報I		2-6 情報I				総合	2-3 情報I		2-2 情報I	2-2 情報I	2-2 情報I	2-4 情報I	2-1 情報I	2-4 情報I	2-7 情報I	2-1 情報I		
三谷	2-7 情報I		2-6 情報I				総合	2-3 情報I		2-2 情報I	2-2 情報I	2-2 情報I	2-4 情報I	2-1 情報I	2-4 情報I	2-7 情報I	2-1 情報I		

教職員名	木						金						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
在 原	1-4 現代国語	Vb 実践古典	1-1 現代国語			1-5 現代国語		1-1 言語文化	1-5 言語文化			1-4 言語文化	1-5 LHR
池 下	選① 古典探究a				1-2 現代国語	1-6 現代国語			1-6 言語文化	1-2 言語文化		選② 古典探究d	2-3 LHR
伊 東 美	選① 古典探究b			2-7 論理国語	2-3 1a 古文①	2-5 文学国語	2-5 文学国語	2-7 文学国語				選② 古典探究e	2-3 LHR
影 山		2-1 文学国語	IIIc 古文③			2-5 文学国語	2-5 文学国語	2-1 文学国語					
常 森		Vb 実践現代文①	IIIc 古文④	3-3 現代文B	1a 古文②		3-4 現代文B	3-5 現代文B		IVd 実践現代文③			3-3 LHR
宮 崎	選① 古典探究c		1-3 現代国語	1-7 現代国語		1-5 現代国語	1-5 現代国語	1-7 言語文化	1-5 言語文化	1-3 言語文化		選② 古典探究f	
山崎 円				2-2 論理国語	2-4 論理国語	2-6 文学国語	2-6 文学国語	2-2 文学国語	2-4 文学国語				
山 本				3-2 現代文B	1a 古典B①		3-7 現代文B	3-5 現代文B		IVd 国語表現①	II d 古典B②		
花 田				3-1 現代文B			IVb 実践現代文②	3-6 現代文B					
青 木		Vb 世界史B②	2-6 世界史探究	1-4 歴史					Vc 世界史B②		II d 世界史B①	1-1 歴史	3-5 LHR
朝 倉	選① 政経c		2-6 日本史探究		1-5 公共場					1-4 公共		選② 政経e	2-7 LHR
鈴 木			2-7 地理総合	2-5 世界史探究							2-4 世界史探究	1-3 歴史	
晋 野	選① 政経b		2-5 日本史探究		1a 倫理①	IVb 倫理②	2-1 日本史探究			IVd 政経特講		選② 政経d	
原			2-1 地理総合		1-5 公共						II d 日本史B①		
間 宮	1-1 公共	Vb 倫理①			1-6 公共	1-3 公共	2-2 日本史探究		Vc 倫理④	IVd 倫理③	2-3 日本史探究	選② 政経f	1-7 LHR
屋 宜	選① 政経a	1-2 日本史B②	IIIc 日本史B②								II d 歴史		
二 名													
市 川	1-7 数学A	1-1 数学A								1-1 数学I	II d 応数IA	1-7 数学I	
木 下	2-5 数II補	2-3 数II理系					2-1 数学B	2-5 数II補	2-3 数II理系				
高 口	1-6 数学A		1-4 数学A					1-4 数学I			II d 応数B①	1-6 数学I	
近 藤		2-6 数II文系	IIIc 応数B②	2-1 数II理系		IVb 数学III①		2-6 数II文系	2-1 数II理系		II d 数学III①		3-1 LHR
立 野	1-5 数学A補	1-2 数学A				IVb 数学III②		1-2 数学I			II d 数学III②	1-5 数学I補	
角 町	2-5 数II理系	2-5 数II理系	2-1 数II理系	2-7 数II理系				2-5 数II理系	2-1 数II文系	2-7 数II理系			
廣 瀬	1-5 数学A	1-3 数学A					1-3 数学I					1-5 数学I	1-3 LHR
堀 内				2-4 数II理系	2-7 数II文系		2-4 数II理系			2-7 数II文系	2-3 数学B		
山 口		2-5 数II文系	2-5 数II文系	2-2 数II理系			2-5 数II文系			2-2 数II理系			2-2 LHR
唐 澤		2-3 数II文系	2-4 数II文系	2-2 数II文系			2-4 数II文系	2-3 数II文系	2-2 数II文系				
岡	選① 化学b	1-4 化学基礎	1-6 化学基礎	1a 化学②			1-2 化学基礎	1-3 化学2	Vc 化学2	1-7 化学基礎	1-5 物理基礎場	選② 化学d	1-2 LHR
大 濱	1-3 物理基礎	Vb 化学2											
大 西	1-2 物理基礎	Vb 応用物理②	IIIc 物理②						Vc 応用物理②	IVd 応用物理①	1-5 物理基礎	選② 物理a	2-4 LHR
菊 池	選① 化学a		IIIc 化学③	1a 化学①						IVd 応用化学		選② 化学c	3-4 LHR
進	選① 生物a		IIIc 生物②				1-4 生物基礎				1-3 生物基礎	選② 生物b	
花 房	選① 物理c		IIIc 物理③	1a 物理①		1-4 物理基礎					1-6 物理基礎	選② 物理b	3-2 LHR
古 橋			1-7 生物基礎	1-5 化学基礎場	1a 生物①		1-7 生物基礎			IVd 応用生物	1-1 生物基礎	1-2 生物基礎	

教職員名	木						金						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
市 原	1-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育	3-1 体育	2-3 体育	4-7 体育			2-1 体育	
伊 藤 真	1-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育	3-1 体育	2-3 体育	4-7 体育			2-1 体育	2-1 LHR
須 貝	3-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育	3-1 体育	2-3 体育	4-7 体育			3-5 体育	1-1 LHR
城 尾	3-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育		3-4 体育		2-3 体育		3-5 体育	
藤 原	3-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育	2-2 保健			2-5 体育	2-3 体育	2-1 体育	2-4 LHR
満 田	3-5 体育	6 体育		1-1 体育	1-3 体育	4 体育				2-5 体育	2-3 体育	3-5 体育	3-7 LHR
山 崎	1-5 体育				2-6 保健		3-1 体育	3-4 体育	2-5 体育	2-3 体育	2-1 体育	2-1 体育	
今 村			IIIc ソルフェージュ				1-5 音楽I	1-5 音楽I	Vc ピアノ①			選② 音楽発展	
前 崎			IIIc 美術研究				1-5 美術I	1-5 美術I	Vc 工芸I	IVd 工芸I		選② 美術発展	
香 井							1-5 書道I	1-5 書道I					
江 藤	3-2 C英III	Vb 英総標①	IIIc 英総標②	3-6 C英III			3-6 C英III	3-2 C英III	Vc 英総標④				3-6 LHR
大 原				2-5 英CII		2-7 英CII	2-7 英CII				2-5 英CII	3-1 英表標③	2-5 LHR
小 峰		2-3 論表II②	2-6 英CII	1a 英総標①		2-3 英CII	2-3 英CII			IVd 英総標③	2-6 英CII		2-6 LHR
高 橋	3-4 英表標①	2-3 論表II③		2-5 英CII補		2-4 英CII					2-5 英CII補	3-1 英表標①	
田 中	3-4 英表標①		1-2 英CI	1-3 論表			1-2 論表	1-4 英CI			1-2 英CI	3-1 英表標①	1-4 LHR
田 畑			2-2 英CII	2-5 英CII伸	2-1 英CII					2-1 英CII	2-5 英CII伸		
中 尾	3-1 C英III			3-5 C英III			3-5 C英III	3-1 C英III	1-1 論表			1-4 論表	
樋 川	3-3 C英III		IIIc 英総標②	3-7 C英III	1a 英総標①			3-3 C英III				3-7 C英III	
右 田		1-6 英CI	1-3 論表			1-7 英CI		1-7 英CI	1-6 英CI	1-4 論表	3-1 英表標②	1-6 英表標②	1-6 LHR
八 木 澤	3-4 英表標②		1-5 英CI補	3-4 C英III		IVb オラコミ		1-3 英CI	1-5 英CI補			3-4 C英III	
吉 江	2-3 論表II①		1-5 英CI		1-7 論表		1-2 論表			1-5 英CI			
渡 邊			1-5 英CI伸		1-7 論表	1-1 英CI	1-1 英CI	1-1 英CI	1-5 英CI伸			3-1 英表標②	
Sabina		Vb オラコミ							Vc オラコミ				
Nicholas		Vb オラコミ							Vc オラコミ				
池 田				2-3 家基②						2-6 家基②			
内 田	2-2 家基①	2-7 家基①			1a フードデザイン	IVb フードデザイン		2-4 家基①	Vc フードデザイン			2-7 家基①	
香 田	2-2 家基②	2-7 家基②	2-3 家基①					2-4 家基②		2-6 家基①		2-7 家基②	
藤 谷	2-4 情報I				2-5 情報I	2-1 情報I	2-3 情報I	2-2 情報I	2-2 情報I			2-5 情報I	
三 谷	2-4 情報I				2-5 情報I	2-1 情報I	2-3 情報I	2-2 情報I	2-2 情報I			2-5 情報I	

(8) 教育課程表

令和3年度入学生教育課程表・・・数字は単位数

必修・必修選択科目

教科	科目	標準	1年	2年	3年
国語	国語総合	4	4		
	現代文B	4		2	2
	古典B	4		3	
地歴	世界史A	2	2		
	日本史A	2	2		
公民	政治・経済 ※1	2		2	
	現代社会 ※1	2		2	
数学	数学I	3	3		
	数学A	2	2		
	数学II	4		4	
	数学B	2		2	
理科	化学基礎	2	2		
	生物基礎	2	2		
	物理基礎 ※3	2		2	
	地学基礎 ※3	2		2	
保健	体育	7~9	2	2	3
	保健	2	1	1	
芸術	音楽I ※4	2	2		
	美術I ※4	2	2		
	書道I ※4	2	2		
		2	2		
外国語	コミュニケーション英語I	3	4		
	コミュニケーション英語II	4		4	
	コミュニケーション英語III	4			4
	英語表現I	2	2		
	英語表現II	4		2	2
家庭	家庭基礎	2		2	
情報	社会と情報	2	2		
必修科目合計単位数			30	26	11
総合的な探究の時間			1	1	1
特別活動(LHR)			1	1	1

- ※1について 2科目から1科目を選択。
 ※2について ※1で政治・経済を選択した場合必ず履修。
 ※3について 2科目から1科目を選択。
 ※4について 3科目から1科目を選択。

2・3年次 自由選択科目

教科	科目	標準	2年	3年
国語	国語表現	3		2
	実践現代文			2
	古典B	4		4
	古文			3
	実践古典			2
地歴	世界史B	4	4	3
	日本史B	4	4	3
	地理B	4	4	3
	倫理 ※2	2		2
	政治経済特講			2
公民	倫理特講			2
	現代社会特講			2
	数学III	5		6
	応用数学I A			4
	応用数学II B			4
理科	物理	4	2	4
	化学	4	2	2・4
	生物	4	2	4
	地学	4	2	4
	応用物理			2
	応用化学			2
	応用生物			2
	応用地学			2
	理科課題研究	1		2
	保健	トレーニング論		2
生涯体育				3
進学体育				3
芸術	音楽発展		2	
	ソルフェージュ			2
	ピアノ			2
	美術発展		2	
	美術研究			3
	素描			3
	工芸I	2		2
	書道発展		2	
	書道探究			2
	実用書道			2
外国語	英語総合			3
	オーラルコミュニケーション			3
	英作文			2
家庭	生活実習		2	
	サステナブルライフ			2
	フードデザイン			4
	ファッション造形基礎			4
	基礎調理			2
	子どもの発達と保育			2
情報	情報システム実習		2	2
	表現メディアの編集と表現			2
選択科目合計単位数			4	0~19

令和4，5年度入学生教育課程表・・・数字は単位数
必修・必修選択科目

教科	科目	標準 単位	1年	2年	3年
国語	現代の国語	2	2		
	言語文化	2	2		
	論理国語	4		2	2
	文学国語	4		2	
地歴	歴史総合	2	2		
	公共	2	2		
	地理総合	2		2	
	公民				
公民	世界史探究 ※1	3		3	
	日本史探究 ※1	3		3	
	数学Ⅰ	3	3		
	数学Ⅱ	4		4	
数学	数学Ⅲ	2	2		
	数学Ⅳ	4		4	
	数学Ⅴ	2	3	3	
	数学Ⅵ	2	3	3	
理科	物理基礎	2	2		
	化学基礎	2	2		
	生物基礎	2	2		
保健 体育	体育	7～8	2	2	3
	保健	2	1	1	
芸術	音楽Ⅰ ※2	2	2		
	美術Ⅰ ※2	2	2		
	書道Ⅰ ※2	2	2		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4		
	論理・表現Ⅰ	2	2		
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	
	論理・表現Ⅱ	2		2	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4
論理・表現Ⅲ	2			2	
家庭 情報	家庭基礎	2		2	
	情報Ⅰ	2		2	
必修科目合計単位数			30	26	11
総合的な探究の時間			1	1	1
特別活動(LHR)			1	1	1

※1について 2年次に3科目から1科目を選択。
 ※2について 1年次に3科目から1科目を選択。
 ※3について 2年次は12科目から2科目を選択。
 ※4について 2年次で履修した場合は3年次選択不可。
 選択科目は事情により開講できない事があります。
 科目は名称・内容・単位数など変更する場合があります。

2・3年次 自由選択科目

教科	科目	標準 単位	2年	3年
国語	古典探究 ※3	4	2	3
	文学国語	4		2
	古文			3
	基礎からの古文			3
	実践現代文			2
	表現・小論文			2
	実践古典			2
地歴	地理探究	3		4
	世界史探究	3		4
	日本史探究	3		4
	公民			
	政治・経済 ※3	2	2	
	政治・経済特講			未定
	倫理	2		2
数学	地歴公民社会課題研究(仮称)			2
	数学Ⅲ	4		4
	数学Ⅳ ※4	2		未定
	数学Ⅴ	2		2
	数学Ⅵ	4		4
	応用数学ⅠA	4		4
	応用数学ⅡB	4		4
理科	物理 ※3	4	2	4
	化学 ※3	2・4	2	2・4
	生物 ※3	4	2	4
	地学基礎 ※3	2	2	
	地学	4		4
	応用物理			2
	応用化学			2
保健 体育	応用生物			2
	スポーツバイオメカニクス ※3		2	
	スポーツキャリア			2
	スポーツコミュニケーション			2
	フィットネス			1
	芸術			
	音楽発展 ※3		2	
ソルフェージュ			2	
ピアノ			2	
外国語	美術発展 ※3		2	
	美術研究			3
	素描			3
	工芸Ⅰ			2
	書道発展 ※3		2	
	書道探究			2
	実用書道			2
家庭	英語総合			3
	エクステンシブ英語(仮称)			2
	オーラルコミュニケーション			3
	ライフサイエンス ※3		2	
	サステナブルライフ			2
	保育基礎			4
	フードデザイン			4
ファッション造形基礎			4	
情報	情報Ⅱ	2		2
	情報システムのプログラミング ※3	2	2	2
	コンテンツの制作と発信	2		2
選択科目合計単位数			4	0～19

(9) 各教科・科目の年間指導計画

(授業ガイド参照)

(10) 道德教育全体計画

令和5年度 東高等学校 道徳教育全体計画

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
高等学校学習指導要領
よこはま教育ビジョン
横浜市立高校版学習指導要領

学校教育目標
○自ら学び、熱心に学習する生徒を育成します。(知)
○豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒を育成します(徳・体)
○社会の一員として自らの役割を果たすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成します。(公・開)

保護者の思い
・安全な学校生活
・心身の健全な成長
・個々の進路実現

育てたい生徒像及び身に付けさせたい力
○自分の将来を見据え、主体的に学習に取り組むとともに豊かな人間性を身に付けた生徒。
・将来の自己実現に繋がる基礎的学力を身に付けさせる。
・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題解決を図る力を身に付けさせる。
・特別活動・部活動などを通じた様々な体験により豊かな人間性を身に付けさせる。

道徳教育の重点目標
○自己を尊重するとともに他人の立場や考えも尊重する人間を育てる。
○他人に頼らず、自立的に判断行動できる人間を育てる。
○協力・奉仕に努め、よりよい環境を自ら作り出す人間を育てる。

道徳教育推進教師を中心にした全教職員での指導

各教科における道徳教育	
国語	感受性と想像力を培い、生涯にわたって豊かな人間性をはぐくむ態度を育てる。
地歴 公民	平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。
数学	創造性の基礎を養うとともに、論理的な思考力に基づいて判断する態度を養う。
理科	科学的な見方・考え方を培い、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。
保健 体育	スポーツを通じて自己を見つめ相手を思いやる心を育て、個人を尊重する精神を養う。
芸術	世界の多様な芸術文化と我が国の文化や伝統を大切にし、理解を深め豊かな情操を養う。
外国語	英語のコミュニケーション能力を育成し、異文化理解と国際貢献に貢献する態度を養う。
家庭	主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
情報	協調性や自他を尊重する姿勢を培い、健康で文化的な生活を創造する態度を養う。

特別活動における道徳教育	
人間としてのあり方生き方を理解し、よりよい人間関係を築くとともに、自他の生命を尊重する態度を育てる。また、地域社会に関心を持ち、社会の一員として自覚を持った行動が出来る力を育成するとともに、日本や郷土の伝統や文化について理解を深め、広く世界に関心を持ち国際性豊かな心を育成する。	
〈ホームルーム活動〉 よりよい学校生活の実現に取り組む意欲を自ら育み、人間としてのあり方生き方を理解し、信頼関係や相互理解など望ましい人間関係を構築する。また、集団や社会の一員としての自覚を促し、望ましい勤労観。職業観の育成、人間形成や将来設計といった生きる力を培う。	
〈生徒会活動〉 よりよい学校生活を主体的に築こうとする自治的能力や責任感を育成するとともに、地域社会との交流活動やボランティア活動への参加を促し、地域社会との関わりを深める。	
〈学校行事〉 学級・学年・全校単位としての取り組みを通じ、目標を実現する達成感やプロセスの重要性を経験することで、集団や社会の一員としての自他の意義の自覚を促す。	
〈部活動〉 主体的な集団活動を通じて、日々の努力の大切さを理解し、自他を尊重する態度を育てるとともに、地域社会との交流活動やボランティア活動への参加を促す。	

社会体験活動における関連
社会の一員としての自覚を持つとともに、自分たちの学校が存在する地域社会に関心を持ち、地域との交流に積極的に関わろうとする社会参画意識を育てる。 ・学校周辺の清掃活動 ・地域主催のボランティア活動 ・小中学校のスポーツ指導や交流活動 ・馬場保育園での保育支援活動 ・小学校でのキッズルーム支援活動

総合的な探究における関連
様々な問題を把握することにより、自分と周りとの関係を知り、生きていくことにおける課題を見つけ、自ら考え、問題を解決する資質や能力を育てる。 ・自己のあり方生き方や進路について考察する学習活動 ・自己の興味・関心、進路に応じた課題について、知識や技能の深化や総合化を図る活動 ・教科横断的・総合的な課題についての学習活動

生徒指導における関連
○ 基本的な生活習慣を身につけさせる。学校全体で授業時間を大切にする雰囲気をつくる。 ○ 集団生活のマナーを身につけ、快適な学校生活を送らせる。

(11) 「総合的な学習の時間」の全体計画 及び年間指導計画

2023年度 イーストタイム 年間実施計画

2023.4.20

月	1年				2年				3年			
	日	曜	実施内容	時間	日	曜	実施内容	時間	日	曜	実施内容	時間
4									7	金	進路指導①	1
									13	木	進路集会①	1
	17	月	探究学習ガイダンス①	1	17	月	2年次テーマ確認・ワークショップ 探究担当の先生方紹介	1				
5	1	月	「自分を見つけるワークショップ」	1	1	月	レポートの書き方全体説明会 UNIS-UNの報告	1				
									15	月	進路指導①	1
	25	木	社会体験ガイダンス	1	25	木	進路ガイダンス	1				
	29	月	GCキャンプ事前学習①	1	29	月	レポート作成の骨子作り	1				
6									9	金	進路ハンドブック説明・進路希望調査	1
	12	月	GCキャンプ事前学習②講演会	1	12	月	夏季課題（課題探究・進路関係）について担当 教員と面談	1	12	月	生徒個人票作成・調査書確認	1
	19	月	GCキャンプ事前学習③	1	19	月	講演会	1	19	月	進路指導②	1
	20	火	Glocal Citizenship Camp①	/	20	火	校外学習	2				
	21	水	Glocal Citizenship Camp②	/								
	26	月	夏季課題事前指導①・ループリック第1回	1	26	月	探究担当の先生との面談・ループリック第3回	1	26	月	進路指導③	1
7									14	金	オープンキャンパス事前指導(1)	2
	21	金	夏季課題研究事前指導②	1	21	金	夏季課題事前指導（課題研究・進路関係）	2	19	水	オープンキャンパス事前指導(2)	2
8	夏季休業期間 夏季課題研究/オープンキャンパス			1	夏季休業期間 夏季課題（課題研究）/（オープンキャンパス）			1	夏季休業期間 オープンキャンパス参加			12
	28	月	夏季課題研究提出・発表準備①（テーマ・理由 決定）	1	28	月	夏季課題（課題研究レポート・進路関係）提出	1	28	月	オープンキャンパスまとめ・提出	2
9									1	金	共通テスト説明会	2
	4	月	講演会（テーマ設定を主題）	1	4	月	課題研究中間発表①	1				
	25	月	夏季課題研究提出・発表準備②（テーマ・理由 決定）	1	25	月	課題研究中間発表②	1				
10	2	月	夏季課題研究の発表①（10人）	1	2	月	課題研究中間発表③	1	6	月	進路集会②	1
	16	月	夏季課題研究の発表②（10人）	1	16	月	修学旅行関連	1	20	金	調査書作成の説明	2
	23	月	夏季課題研究の発表③（10人）	1	23	月	（修学旅行・前日）修学旅行関連	1	27	金	受験計画表作成 受験に向けての心構え	2
			東高校 ESD day@関東学院大学	6			修学旅行	3				
11	13	月	夏季課題研究の発表④（10人）	1	13	金	課題研究中間発表④	1	10	月	進路集会③	2
	20	月	PP I：高大連携及び反省	2	20	月	PP I：高大連携及び反省	2				
12									1	金	調査書申請について	1
	18	月	PP II：企業連携及び反省	2	18	月	PP II：企業連携及び反省	2				
1	9	火	（始業式の後）ユネスコスクール講演会	1	9	火	（始業式の後）ユネスコスクール講演会	1				
	15	月	クラスHUG	1	15	月	課題研究中間発表⑤	1				
	22	月	テーマ提出準備	1	22	月	課題研究中間発表⑥	1				
	29	月	総合学習課題全体発表会：1年生	1	29	月	総合学習課題全体発表会：1年生	1				
2	5	月	総合学習課題全体発表会：2年生	1	5	月	総合学習課題全体発表会：2年生	1				
	26	月	3分割の先生との面談・提出	1	26	月	探究担当の先生へ課題提出	1				
3	4	月	1年を通しての振り返り（ループリック第2 回）	1	4	月	1年を通しての振り返り（ループリック第4回）	1				
			課題探究発表会・討論 HUG	2			課題探究発表会・討論 HUG	2				

令和5年度 イーストタイム 年間計画 (61期 1学年)

<テーマ> 「交流と知」 知識のシャワーを多く浴びることでまず知識を得る。

1学期：自分を知り、他者と交わる。 2学期：社会問題について知識のシャワーを浴び、自分が関心を持った事柄を研究する。 3学期：これまでの知識を基に自分の意見を言えるようになる。

月	日	曜	項目	ねらい	内容	担当	時間
4	17	月	探究学習ガイダンス①	イーストタイムのねらい、目標等の確認をし、具体的な内容について理解をする。	今後の予定やイベントの説明を行う。	学年・プロジェクト推進部	1
5	1	月	「自分を見つめるワークショップ」 ・探究担当者紹介	ワークシートをもとに、様々な分野の自分の興味関心を文字に書き出し、自分を見つめなおす。(自己認識、自己受容、アイデンティティ)	自分の経験・興味関心を分野別にワークシートに書き出す。ワークシート書く前に教員も事前に書いておき、書き方の例を示す。	学年・プロジェクト推進部	1
	25	木	(中間テスト最終日) 1年社会体験ガイダンス ・社会体験に関する講演会 ・社会貢献活動実施状況記録配布・説明	ユネスコスクールである本校の柱の一つである「社会貢献活動」についての理解を深め、「探究活動」へとつなげる。	社会体験活動について、講師による講演会を実施し、生徒の自己変容を促す。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	29	月	GCキャンプ事前学習①	GCキャンプの概要の説明。それに向かう心構えにつなげる。	ワークシート・説明プリントを用い、GCキャンプの流れを知り、興味関心を深める。	学年・プロジェクト推進部	1
6	12	月	GCキャンプ事前学習②講演会	GCキャンプに対する理解を深める。	(業者との打ち合わせの後、詳細決定)グループ作り、事前学習課題等を実施する。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	19	月	GCキャンプ事前学習③	翌日からのGlobal Citizenship Campへの心構えにつなげる。	各クラスGCキャンプ当日の流れ、グループ等の確認。各クラスで少人数のグループを作り、GCキャンプに向けて発言しやすい雰囲気作りをする。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	20	火	Global Citizenship Camp①	生徒の自己探求と他者承認に基づく行動変容を促し、かつ、英語に触れる機会を増やす。目標は、自分の中の変容を行動に移すこと。	入札後、決定。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	
	21	水	Global Citizenship Camp②				
	26	月	夏季課題事前指導① ループリック第1回	夏季課題研究について理解を深め、今後の探究活動につなげる。	探究担当の先生方から、説明を受ける。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
7	21	金	夏季課題研究事前指導②	夏季課題研究について理解を深め、今後の探究活動につなげる。	探究担当の先生方から、説明を受ける。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
8	夏季休業期間		夏季課題研究/オープンキャンパス	夏期課題研究テーマだけでなく、自分の興味関心がある分野にオープンキャンパスで触れる。/社会問題の中から選んだテーマを核に、調べ、考え、表現する。	興味のある大学のオープンキャンパスに行き、各大学・学部の魅力・発見を振り返りシートに書いて提出。/夏季課題研究に取り組む。	生徒各自	1
	28	月	夏季課題研究提出・発表準備① (テーマ・理由決定)	自分たちが見つけた社会問題について理解を深める。	夏季休業中に見つけた、学んだ社会問題について(オープンキャンパス含め)クラスで共有する。グループで共有した後、特にクラスで共有したい人のテーマを発表。課題研究テーマ・理由提出。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
9	4	月	講演会(テーマ設定を主題)	講演会に参加し、自分の課題研究を振り返り、考えを深める。	講師による講演。自己を見つめ、自分について考えることの大切さを知る。今取り組むべきことは何か、アドバイスをもらう。	学年・プロジェクト推進部	1
	25	月	夏季課題研究提出・発表準備② (テーマ・理由設定)	プレゼンテーションについて知る。自分の夏季課題研究について3分割の先生と面談し、考えを深める。	立教大学の資料を用いて、プレゼンテーションの学習をする。説明終了後は各自3分割の先生と面談し、課題研究について考えを深める。代表を決めることも考えて、各クラスで発表の形をとることを目標とする。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
10	2	月	夏季課題研究の発表①(10人)	夏季課題研究を発表し、自身のプレゼンテーション力を磨く。また、発表を聞きあうことで、さらなる知識を得る。	夏季課題研究を発表し、相互評価をする。(クラス代表選出)	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	16	月	夏季課題研究の発表②(10人)	夏季課題研究を発表し、自身のプレゼンテーション力を磨く。また、発表を聞きあうことで、さらなる知識を得る。	夏季課題研究を発表し、相互評価をする。(クラス代表選出)	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	23	月	夏季課題研究の発表③(10人)	夏季課題研究を発表し、自身のプレゼンテーション力を磨く。また、発表を聞きあうことで、さらなる知識を得る。	夏季課題研究を発表し、相互評価をする。(クラス代表選出)	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
			東高校 ESD day@関東学院大学	ユネスコスクールである本校の柱「国際理解教育」と「社会貢献活動」についての理解を深め、「探究活動」へとつなげる。	関東学院大学にて実施予定。外部講師(関東学院大学小山学長予定)の講演とワークショップ。ゲスト(関東学院の先生)を招いての分化会等。	関東学院大学六浦キャンパス・関内キャンパス/学年・プロジェクト推進部	6
11	13	月	夏季課題研究の発表④(10人)	夏季課題研究を発表し、自身のプレゼンテーション力を磨く。また、発表を聞きあうことで、さらなる知識を得る。	夏季課題研究を発表し、相互評価をする。(クラス代表選出)	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	20	月	PP I : 高大連携及び反省	大学の講師による模擬授業を通して、将来の自己実現の一助とする。	進路企画の協力を受け、大学の講師を多数招き、授業を行う。できればSDGs に関する講義もあるとよい。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	2
12	18	月	PP II : 企業連携	横浜のSDGs への取り組みを行う企業にプレゼンテーションを行っていただき、SDGs への理解を深める。	各企業のブースを回り、各企業のプレゼンテーションを聞く。横浜市政策局の協力を得る。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	2
1	9	火	(始業式の後)ユネスコスクール講演会	今まで取り組んできた活動を振り返りながら、改めてユネスコスクールの意義、社会貢献活動の目的を講師の先生の講演から学ぶ。	内容未定。	プロジェクト推進部	1
	15	月	クラスHUG	クラス内でのグループ討論を通して親睦を深め、また対論の重要性を学ぶ。	今までの探究活動を振り返り、クラスの中で意見交換する。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	22	月	テーマ提出準備	今まで取り組んできた活動を振り返りながら、来年度に向けて、より具体的な課題探求テーマを設定する。	今まで取り組んできた活動を振り返りながら、来年度に向けて、より具体的な課題探求テーマを設定する。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
	29	月	総合学習課題全体発表会: 1年生	1年生クラス代表によるプレゼンテーションを1、2学年合同で聞く。1、2年生合同で東高校代表を選出する	1年生クラス代表によるプレゼンテーション。担当教員による審査	1,2年合同プロジェクト推進部	1
2	5	月	総合学習課題全体発表会: 2年生	2年生クラス代表によるプレゼンテーションを1、2学年合同で聞く。1、2年生合同で東高校代表を選出する	2年生クラス代表によるプレゼンテーション。担当教員による審査	1,2年合同プロジェクト推進部	1
	26	月	3分割の先生との面談・提出	提出された課題について、担当の先生と面談を行う。	面談を通し、1年間の自信の探究活動について振り返り、来年度へつないでいく。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
3	4	月	1年を通しての振り返り(ループリック第2回)	1年を通しての振り返り・自己評価を行う。	1年を通しての振り返り・自己評価を行う。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	1
			課題探究発表会・討論 HUG	1年間のイーストタイムのまとめとして、全体会、分科会を通して発表力や思考力を磨く。	全体会での報告会、分科会での代表者によるプレゼンテーションと討論会。	学年・プロジェクト推進部・探究担当	2

令和5年度 イーストタイム 年間計画 (60期 2学年)

<テーマ> 「考察と討論」

1年生で得た知識をますます増やし、それを自分の中に溜めておくのではなく考察し、新たな知へとつないでいく。その過程で多くの討論をし、内面、行動面の変容を図る。

月	日	曜	項目	ねらい	内容	担当	時間
4	17	月	2年次テーマ確認・ワークショップ 探究担当の先生方紹介	2年次イーストタイムの見通しを持つ。 自分の探究担当の先生を把握する。	2年次イーストタイムの年間計画を把握する。	担任 探究担当	1
5	1	月	レポートの書き方全体説明会 UNIS/UNの報告	レポートの書き方について、資料を用いて学ぶ。 UNIS/UNの報告を聞き、グローバルシチズンシップを育てる。	レポートの書き方の資料を用いて、引用の仕方等を学ぶ。 UNIS/UN参加生徒のプレゼンテーションを行う。	学年全体	1
	25	木	進路ガイダンス	進路ガイダンスで情報を得、自分自身の糧とする。	情報共有とモチベーションアップを図る。	進路	1
	29	月	レポート作成の骨子作り	夏季課題で取り組むレポートについての理解を深める。	夏季課題のレポートの取組みについて具体的な説明を行う。	学年全体	1
6	12	月	夏季課題(課題探究・進路関係)について探究担当の先生と面談	夏季課題の予定を夏休み前にしっかりと認識させる。	夏季課題の予定を探究担当の先生に説明してアドバイスをいただく。	担任 探究担当	1
	19	月	講演会	講演を聞くことにより、自分にできることを考えていく。ユネスコスクールとしての取組についてもさらに理解を深めていく。	社会的テーマと、文化祭を意識して演劇とのかかわりを学ぶ。	担任 探究担当	1
	20	火	校外学習	学年全体の輪を深め、日常と違う環境の中で行動力を上げる。	時間を守り、団体で行動することの大切さを学んでいく。	学年全体	2
	26	月	探究担当の先生との面談・ループ リック第3回	クラス単位で発表力や思考力を磨く。	探究担当の先生との面談を通して、今後のレポート作成をより深めていく。	プロジェクト推進 部	1
7	21	金	夏季課題事前指導(課題研究・進路 関係)	自分の研究したことをレポートなどにまとめ、課題 研究発表で表現することにつなげる。	自ら決定した研究テーマについて、調べたり考察したりする。 自分の研究したことをレポートなどにまとめ、表現 することにつなげる。	担任 探究担当	2
8	夏季休業 期間		夏季課題(課題研究)/(オープン キャンパス)	夏季課題としてレポートに取り組む、探究を深めて いく。	夏季課題研究に取り組む。	生徒各自	1
	28	月	夏季課題(課題研究レポート・進路 関係)提出	課題研究レポートを探究担当の先生に提出する。発表 に向けて準備する。	課題研究中間発表に向けて準備する。	担任 探究担当	1
9	4	月	課題研究中間発表①	・自身の研究したテーマをクラスで発表する。 ・他の人の研究した内容に興味・関心をもち、自分 とのつながりを考える。 ・互いの発表を通して、伝わりやすい発表の仕方を 考察し、今後に生かしていく。	研究したテーマについて発表し、相互評価をする。	担任 探究担当	1
	25	月	課題研究中間発表②	①と同じ	①と同じ	担任 探究担当	1
10	2	月	課題研究中間発表③	①と同じ	①と同じ	担任 探究担当	1
	16	月	修学旅行関連	修学旅行についての理解を深める。	修学旅行についての説明・話し合い等を実施する。	担任	1
	23	月	(修学旅行・前日)修学旅行関連	修学旅行についての理解を深める。	修学旅行についての説明・話し合い等を実施する。	担任	1
	24-27	火- 金	修学旅行	修学旅行において、ESDを意識した学習活動を行 う。	修学旅行の行程の中で、ESDの取り組みを行う。	担任	3
11	13	月	課題研究中間発表④	①と同じ	①と同じ	担任 探究担当	1
	20	月	PP I : 高大連携及び反省	大学の講師による模擬授業を通して、将来の自己実 現の一助とする。	進路企画の協力を受け、大学の講師を多数招き模擬授業を 行う。SDGs についての講義もあるとよい。	プロジェクト推進 部	2
12	18	月	PP II : 企業連携及び反省	横浜のSDGs への取り組みを行う企業にプレゼン テーションを行っていただき、SDGs への理解を深 める。	各企業のブースを回り、各企業のプレゼンテーションを聞 く。	プロジェクト推進 部	2
1	9	火	(始業式の後)ユネスコスクール講 演会	今まで取り組んできた活動を振り返りながら、改めて ユネスコスクールの意義、社会貢献活動の目的を 講師の先生の講演から学ぶ。	内容未定	プロジェクト推進 部	1
	15	月	課題研究中間発表⑤	①と同じ	①と同じ	担任 探究担当	1
	22	月	課題研究中間発表⑥	①と同じ	研究したテーマについて発表し、相互評価をする。 (クラス代表は生徒投票④探究担当の先生で総合的に決定 予定)	担任 探究担当	1
	29	月	総合学習課題全体発表会:1年生	1年生クラス代表によるプレゼンを1,2学年合同 で聞く。1,2年生合同で東高校代表を選出する。	1年生クラス代表によるプレゼンテーション。担当教員に よる審査。	1,2学年合同 プロジェクト推進 部	1
2	5	月	総合学習課題全体発表会:2年生	2年生クラス代表によるプレゼンを1,2学年合同 で聞く。1,2年生合同で東高校代表を選出する。	2年生クラス代表によるプレゼンテーション。担当教員に よる審査。	1,2学年合同 プロジェクト推進 部	1
	26	月	探究担当の先生へ課題提出	探究担当の先生への課題提出を行い、2年生の学び のまとめへつないでいく。	探究担当の先生へ課題を提出。	担任 探究担当	1
3	4	月	1年を通しての振り返り(ループ リック第4回)	1年を通しての振り返り・自己評価を行う。	1年を通しての振り返り・自己評価を行う。	担任 探究担当	1
			課題探究発表会・討論 HUG	イーストタイムのまとめとして、全体会、分科会を 通して発表力や思考力を磨く。	全体会での報告会、分科会での代表者によるプレゼンテー ションと討論会。	1,2学年合同 プロジェクト推進 部	2

令和5年度 イーストタイム 年間計画 (59期 3学年)(案)

＜テーマ＞ 自己の進路の実現に向けて、計画的に取り組む。

月	日	曜	項目	ねらい	内容	担当	時間	累計
4	7	金	進路指導①	自分を知り、進路を考える。	学年クラス等で進路の情報を共有し、進路実現の一助とする。	担任中心	1	1
4	13	木	進路集会①	自分を知り、進路を考える。	学年クラス等で進路の情報を共有し、進路実現の一助とする。	進路学年	1	2
5	15	月	進路指導①	進路集会で情報を得、自分自身の糧とする。	進路集会で得た情報を共有し、モチベーションアップを図る。	担任中心	1	3
6	9	金	進路ハンドブック説明・進路希望調査	1学期前半の学習を振り返り、今後の課題を確かめる。	1学期中間テスト結果及び進路希望を進路カードに記入する。 進路ハンドブックの説明を聞く。	担任中心	1	4
6	12	月	生徒個人票作成・調査書確認	自分を知り、進路を考える。	1, 2年の成績を確認する。調査書記載事項の確認をする。	担任中心	1	5
6	19	月	進路指導②	自分を知り、進路を考える。	卒業後の進路に向けての調査・研究	担任中心	1	6
6	26	月	進路指導③	自分を知り、進路を考える。	卒業後の進路に向けての調査・研究	担任中心	1	7
7	14	金	オープンキャンパス事前指導(1)	オープンキャンパス参加の概要を知る。また、夏休みの取り組みの大切さを知る。	オープンキャンパスについての説明を受け、オープンキャンパスの予定を確認する。また、夏休みの取り組みについて考え、その大切さを知る。	進路プロジェクト	2	9
7	19	水	オープンキャンパス事前指導(2)	夏季休業期間を有意義に送る。	オープンキャンパスの予定を最終確認する。	担任中心	2	11
夏季休業期間			オープンキャンパス参加	志望校について理解を深め、学習意欲を高める。	大学・専門学校のオープンキャンパスに参加し、学校の詳細を知ると共に進路実現に向けてのポイントを押さえる。	プロジェクト	12	23
	8	28	月	オープンキャンパスまとめ・提出	上級学校見学体験をまとめる。志望校を決定する。	上級学校見学会のレポートを提出する。	担任中心	2
9	1	金	共通テスト説明会	共通テストについて基本事項を確認する。共通テスト志願票に記入する。	共通テストの概要説明を聞く。共通テスト志願票に記入する。	進路学年	2	27
10	6	月	進路集会②	東高祭を終え、これからの学習について考える。	今後の学習や推薦について等を知り、更なる努力を目指す。	進路学年	1	28
10	20	金	調査書作成の説明	調査書作成の仕組みを知る。	実際に記入させながら指導をしていく。	担任中心	2	30
10	27	金	受験計画表作成、受験に向けての心構え	受験日程を確認し、計画表を作成する。	受験計画表を作成する。調査書申請方法の再確認。	担任中心	2	32
11	10	月	進路集会③	入試本番に向けての最終確認	調査書作成、受験計画表作成ことから、ラストスパートにむけてモチベーションを上げていく。	進路学年	2	34
12	1	金	調査書申請について	調査書申請の最終チェック	調査書申請の最終チェックを、本人と担任で共有しながら行い、自分自身の進路について深く考える。	担任中心	1	35

(12) ホームルーム活動の年間指導計画

令和5年度LHR年間計画（案）

月	日	曜日	1年内容	場所	2年内容	場所	3年内容	場所
4	7	金			(始業式)自己紹介、時間割確認、生徒手帳配布など	HR教室	(始業式)時間割確認、生徒手帳配布など	HR教室
	10	月	入学式、担任所信表明	HR教室	(入学式のため自宅学習)		(入学式のため自宅学習)	
	11	火	施設見学、自己紹介、生徒会OR等	HR教室・各場所	クラス組織作り	HR教室	学年(進路)集会・クラス組織作り	HR教室
	12	水	《進路》スタサポ	HR教室	《進路》スタサポ	HR教室	《進路》記述模試	HR教室
	13	木	学年集会、クラス組織作り、集合写真撮影	アリーナ等	学年集会	アリーナ等	(防災訓練)	アリーナ・グラウンド等
	14	金	各種委員会	HR教室・各場所	各種委員会	HR教室・各場所	各種委員会	HR教室・各場所
	21	金	体育祭種目決め	HR教室	体育祭種目決め	HR教室	体育祭種目決め	HR教室
	28	金	(面談週間)		(面談週間)		(面談週間)	
5	2	火	生徒総会、色別集会	アリーナ・グラウンド等	生徒総会、色別集会	アリーナ・グラウンド等	生徒総会、色別集会	アリーナ・グラウンド等
	12	金	色別集会	アリーナ・グラウンド等	色別集会	アリーナ・グラウンド等	色別集会	アリーナ・グラウンド等
	19	金	(試験1週間前)東高祭企画検討・いじめアンケート等	HR教室	(試験1週間前)東高祭企画検討・いじめアンケート等	HR教室	(試験1週間前)東高祭企画検討・いじめアンケート等	HR教室
	26	金	年次運営		年次運営		(英検)	
6	2	金	(開港記念日)		(開港記念日)		(開港記念日)	
	5	月	色別集会・色別リハーサル	アリーナ・グラウンド等	色別集会・色別リハーサル	アリーナ・グラウンド等	色別集会・色別リハーサル	アリーナ・グラウンド等
	7	水	競技説明会・リハーサル	各場所	競技説明会・リハーサル	各場所	競技説明会・リハーサル	各場所
	8	木	体育祭	グラウンド	体育祭	グラウンド	体育祭	グラウンド
	9	金	《進路》進路講演会	アリーナ	体育祭片付け・反省	HR教室	体育祭片付け・進路集会(進路ハンドブック説明)	HR教室
	16	金	東高祭企画検討	HR教室	東高祭企画検討	HR教室	東高祭企画検討	HR教室
	23	金	東高祭企画検討	HR教室	東高祭企画検討	HR教室	東高祭企画検討	HR教室
	30	金	東高祭企画検討	HR教室	東高祭企画検討	HR教室	(試験1週間前)東高祭企画検討	HR教室
7	7	金	(特別時間割)		(特別時間割)		(特別時間割)	
	14	金	SR		SR		SR	
	19	水	生徒会選挙・大掃除・出欠数等確認	アリーナ・教室	生徒会選挙・大掃除・出欠数等確認	アリーナ・教室	生徒会選挙・大掃除・出欠数等確認	アリーナ・教室
	20	木	終業式・成績通知表配布、《総合》夏季課題研究事前指導	アリーナ・教室	終業式・成績通知表配布、《総合》夏季課題研究事前指導	アリーナ・教室	終業式・成績通知表配布	アリーナ・教室
8	28	月	始業式・大掃除、《総合》夏季課題研究提出		始業式・大掃除、《総合》夏季課題研究提出		始業式・大掃除	
9	1	金	東高祭について	HR教室	東高祭について	HR教室	共通テスト出願説明会	HR教室
	8	金	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室
	11	月	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室
	12	火	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室
	13	水	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室
	14	木	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室	東高祭準備	HR教室
	15	金	東高祭準備(全日)	HR教室	東高祭準備(全日)	HR教室	東高祭準備(全日)	HR教室
	16	土	(東高祭)		(東高祭)		(東高祭)	
	17	日	(東高祭)		(東高祭)		(東高祭)	
	18	月	東高祭片づけ・反省	HR教室	東高祭片づけ・反省	HR教室	東高祭片づけ・反省	HR教室
21	金	年次運営		年次運営		受験に向けての心構え	HR教室	
28	金	《教務》選択科目について	各場所	修学旅行事前学習	アリーナ・HR教室	卒業アルバムクラス写真撮影	HR教室	
10	6	金	学年企画検討	HR教室	《進路》共通テストガイダンス	HR教室	進路集会(受験計画表について)	HR教室
	13	金	(中間テスト)保険講話		(中間テスト)保険講話		(中間テスト)	
	20	金	学年企画準備	HR教室	修学旅行事前学習	HR教室	受験計画表の作成	HR教室
	27	金	《教務》選択科目最終確認	HR教室	修学旅行反省	HR教室	調査書発行願の作成	HR教室
11	3	金	(文化の日)	HR教室	(文化の日)	HR教室	(文化の日)	HR教室
	10	金	年次運営		年次運営		受験に向けての心構え	HR教室
	17	金	年次運営		年次運営		卒業アルバムクラス写真撮影	HR教室・各場所
	24	金	修学旅行下見報告会	各場所	学年企画	HR教室	調査書申請について等	HR教室
12	1	金	いじめアンケート等	HR教室	いじめアンケート等	HR教室	いじめアンケート等	HR教室
	8	金	(期末テスト)		(期末テスト)		(期末テスト)	
	15	金	午前授業		午前授業		(三年面談)午前授業	
	22	金	生徒総会・大掃除	HR教室・各場所	生徒総会・大掃除	HR教室・各場所	大掃除・生徒総会・冬企画	HR教室・各場所
	25	月	終業式・成績通知表配布	アリーナ・教室	終業式・成績通知表配布	アリーナ・教室	終業式・成績通知表配布	アリーナ・教室
1	9	火	始業式・LHR	アリーナ・教室	始業式・LHR	アリーナ・教室	始業式・LHR	アリーナ・教室
	12	金	クラス企画検討	HR教室	体育祭役職決め	HR教室	共通テスト試験事前指導	HR教室・各場所
	19	金	クラス企画	各場所	体育祭について	HR教室	共通テストリサーチ返却	HR教室
	26	金	《進路》進路ガイダンス希望調査	HR教室	クラス企画内容検討	HR教室	教室、ロッカー大掃除	HR教室
2	2	金	SRメンバー決め	HR教室	SRメンバー決め	HR教室		
	9	金	(建国記念の日)		(建国記念の日)			
	16	金	未定(入試期間)		未定(入試期間)			
	23	金	(天皇誕生日)卒業生を送るメッセージ作成(二学年合同)	HR教室	(天皇誕生日)卒業生を送るメッセージ作成(二学年合同)	HR教室		
3	1	金	学年末試験に向けて	HR教室	クラス企画	アリーナ・グラウンド等		
	8	金	(学年末テスト)		(学年末テスト)			
	13	水	(特別時間割)《進路》進路ガイダンス		(期末試験最終日)			
	19	火	SR		SR			
	22	金	生徒総会	アリーナ	生徒総会	アリーナ		
	25	月	修了式・大掃除	アリーナ・教室	修了式・大掃除	アリーナ・教室		

(13) 社会体験活動の年間計画

令和5年度 東高校 社会体験活動年間計画

1. 目的

社会体験活動はユネスコスクールとしての本校の大きな柱の一つである。

社会の一員としての自覚を持つとともに、自分たちの学校が存在する地域社会に関心を持ち、地域との交流に積極的に関わろうとする社会参画意識を育て、ESDの基本理念である「Think Globally, Act Locally」の実現を図る。

2. 活動の概要

- 3年間で30時間以上の社会体験活動を行う。
- 活動は、学校全体や学年単位、部活動単位のほか、個人やグループ単位でも参加可能。
- 学校が設定する活動以外（校外での活動）で行った社会体験活動も認める。
- 所定の用紙に活動実施内容を記入し提出。

3. 年間計画および活動内容

内容	対象	期間	実施時間（予定）
(1) 行事とともに学校が設定する活動			
a) 東高校 ESD day	1年次生	10月 下旬	6時間（事前指導1、当日 4、振り返り1）
b) 修学旅行での交流活動や文化体験、清掃活動	2年次生	10月	活動によって異なります
(2) プロジェクト推進部が斡旋する社会体験活動	希望生徒	通年	活動によって異なります
(3) 課題探究活動の代表生徒プレゼンテーション			
a) クラス代表生徒	1,2年次生	1月	10時間
b) 学校代表生徒	1,2年次生	3月	10時間+ α
(4) HUGに関する活動			
a) プレゼンテーション代表生徒	1, 2年次生	3月	10時間（準備込み）
b) HUG STAFF	1, 2年次生	3月	4時間（準備込み）
(5) グローカリー（Glocal@Y）	希望生徒	通年	活動によって異なります
(6) 部活動で行う社会体験活動	部活動	通年	活動によって異なります
(7) ESDに関する学習会、イベント等への参加	希望生徒	通年	活動によって異なります
(8) その他（個人で取り組む社会体験活動等）	希望生徒	通年	活動によって異なります

4. 活動内容に関する注意事項

- すべての活動における実施時間には、事前指導・実質的な活動・振り返りを含む。
- それぞれの活動については、担当が事前に活動内容を鑑みて時間数を決定する。
- (3)の α は、東高校から会場までの往復時間と当日の拘束時間、学校リハーサルを含む発表時間。ただし、時間数は、会場・要項等により実施年度で変わる。
- (8)その他の個人で取り組む社会体験活動については、内容を担任またはプロジェクト推進部担当者が活動内容を把握し、社会体験活動と認めることを前提とする。
- 各活動終了後、「社会体験活動実施状況記録用紙」に記入し担当の先生に押印してもらう。

(14) キャリア教育計画

【1年次】

月	行事	確かな学力	人格形成	将来設計力
4	○入学式 ○新入生オリエンテーション ○スタディーサポート ○個人面談	新入生オリエンテーション スタディーサポート	入学式 個人面談	スタディーサポート
5	○スポーツテスト・身体測定 ○1学期中間テスト ○保健講話 ○社会体験講演会	定期テスト	スポーツテスト 保健講話 社会体験活動	
6	○体育祭 ○Glocal Citizenship Camp ○進路講演会 ○進路希望調査 ○社会体験講演会		体育祭 進路講演会 社会体験活動	進路希望調査
7	○1学期期末テスト ○総合学力テスト ○夏季課題研究テーマ設定 ○ESD Day ○三者面談	定期テスト 総合学力テスト		総合学力テスト 夏季課題研究テーマ設定 三者面談
8	○夏季課題研究			夏季課題研究
9	○夏季課題研究発表 ○スタディーサポート ○文化祭 ○選択科目説明会 ○課題探究テーマ決定 ○進路希望調査	スタディーサポート 選択科目説明会	文化祭	スタディーサポート 選択科目説明会 進路希望調査
10	○選択科目相談会 ○2学期中間テスト ○三者面談	定期テスト	選択科目相談会 三者面談	
11	○人権学習会 ○夏季課題中間発表 ○選択科目本調査 ○PPI(高大連携行事) ○進路ガイダンス予備調査			選択科目本調査 進路ガイダンス予備調査
12	○2学期期末テスト ○PPⅡ(企業連携行事)	定期テスト		
1	○ユネスコスクール講演会			
2	○総合学力テスト ○進路ガイダンス希望調査	総合学力テスト		進路ガイダンス希望調査
3	○3学期期末テスト ○進路ガイダンス ○芸術鑑賞 ○HUG	定期テスト	進路ガイダンス 芸術鑑賞	

【2年次】

月	行事	確かな学力	人格形成	将来設計力
4	○学年集会 ○スタディーサポート ○個人面談 ○2年次イーストタイムガイダンス	学年集会 スタディーサポート	個人面談	スタディーサポート
5	○スポーツテスト・身体測定 ○進路希望調査 ○修学旅行事前学習 ○1学期中間テスト ○進路ガイダンス	定期テスト 進路ガイダンス	スポーツテスト 社会体験活動	進路希望調査 進路ガイダンス
6	○体育祭 ○講演会		体育祭 探究学習	
7	○1学期期末テスト ○総合学力テスト ○オープンキャンパス参加計画 ○ESD Day ○三者面談 ○オープンキャンパス	定期テスト 総合学力テスト	三者面談	総合学力テスト オープンキャンパス計画 オープンキャンパス
8	○オープンキャンパス			オープンキャンパス
9	○スタディーサポート ○文化祭 ○選択科目説明会 ○進路希望調査	スタディーサポート 選択科目説明会	文化祭	スタディーサポート 選択科目説明会 進路希望調査
10	○選択科目相談会 ○2学期中間テスト ○大学入学共通テストガイダンス ○修学旅行 ○三者面談 ○国公立希望者説明会	定期テスト 大学入学共通テストガイダンス	選択科目相談会 修学旅行 三者面談 進路計画・進路選択	大学入学共通テストガイダンス
11	○課題研究中間発表 ○PPI(高大連携) ○選択科目本調査			選択科目本調査
12	○2学期期末テスト ○PPⅡ(企業連携)	定期テスト		
1	○ユネスコスクール講演会			
2	○大学入学共通テスト模試 ○第一志望届 ○進路ガイダンス予備調査	大学入学共通テスト模試	探究・進路選択 進路ガイダンス予備調査	大学入学共通テスト模試
3	○3学期期末テスト ○進路ガイダンス ○芸術鑑賞 ○HUG	定期テスト	進路ガイダンス 芸術鑑賞	

【3年次】

月	行事	確かな学力	人格形成	将来設計力
4	○記述模試 ○学年集会 ○進路ガイダンス ○個人面談	校内模試	学年集会 個人面談	校内模試 進路ガイダンス
5	○スポーツテスト・身体測定 ○学年集会 ○進路希望調査 ○1学期中間テスト	定期テスト	スポーツテスト 学年集会	進路希望調査
6	○体育祭 ○記述模試/共通テスト模試 ○学年集会	校内模試	体育祭	校内模試 学年集会
7	○1学期期末テスト ○記述模試 ○面接ガイダンス ○オープンキャンパス参加計画 ○学校推薦型・総合型選抜説明会 ○三者面談 ○オープンキャンパス	定期テスト 校内模試	三者面談	校内模試 小論文ガイダンス 面接ガイダンス オープンキャンパス計画 学校推薦型・総合型選抜説明会① オープンキャンパス
8	○オープンキャンパス	校内模試		校内模試 オープンキャンパス
9	○総合型選抜 ○共通テスト説明会 ○校内模擬試験 ○文化祭	校内模試	文化祭	共通テスト説明会 学校推薦型・総合型選抜説明会②
10	○2学期中間テスト ○受験計画作成 ○記述模試/共通テスト模試 ○三者面談	定期テスト 受験計画作成 校内模試	三者面談	受験計画作成 校内模試
11	○学校推薦型選抜 ○学年集会		学年集会	
12	○2学期期末テスト ○三者面談	定期テスト	三者面談	
1	○共通テスト直前説明会			共通テスト直前説明会
2	○一般選抜			
3	○卒業式		卒業式	

実施にあたっての留意点

1年次

- (a) 新入生オリエンテーション
高等学校生活のスタートに向けて注意すべき点や心構え、3年間の大まかな予定や進路に向けての考え方などを指導する。
- (b) スタディーサポート
基礎学力と日常の学習習慣・生活習慣を調べ、今後の指導に役立てる。
- (c) 個人面談
高校生活への適応がなされているか。クラスや部活動での悩みなどについて面談の中で解決する手立てを探る。
- (d) 進路希望調査(春)
卒業後の進路を考えさせる。保護者との話し合いのきっかけとする。
- (e) 校内模擬試験
7月と2月に校内で模擬試験を行い、日頃の学習の振り返りや進路選択に役立てる。
- (f) Glocal Citizenship Camp
地球規模の課題について、世界各国から来日している、留学生とともに学び、自己探究・他者承認に基づく行動変容を促すGCEDの実践。グローバルマインドの育成。
- (g) 進路講演会
将来のビジョンについて考え、職業を意識した適性や興味関心のある分野について考える機会とする。外部講師による講演。
- (h) 三者面談
保護者を交えて、学習・部活動・進路などについての問題点と解決方法を探る。
- (i) 夏季課題研究
興味関心のある職業について、調べ発表する。
- (j) 進路希望調査(秋)
2年次の科目選択に向けて、より具体的に進路を考える。
- (k) PPIまたは高大連携
大学の模擬授業を受けることで自分の近い未来を意識し、進路実現に結びつける。PPⅡともつなげていく。
- (l) PPIIまたは企業連携
企業や団体組織の実践や取り組みを伺い、高校での学びをどのように自分自身に生かしていくか、社会とのつながりについて考える。
- (m) 進路ガイダンス
卒業生を招き、進路に対する考え方や、学習の方法などについて参考にする。また、複数の大学・専門学校から講師を招き、分科会形式で学習や入学のための準備・心構えなどについて話を聞いたり体験する。
- (n) 主体性入試に向けてキャリアサポートを活用しキャリア教育の促進に努める。
- (o) HUG
課題探究への取り組みを進化させるとともに討論する力(発信力・交流力など)を高めることを目的としている。

2年次

- (a) 学年集会
2年生としての心構えや学習について、また10月の修学旅行についてなどの諸注意。
- (b) スタディーサポート
基礎学力と日常の学習習慣・生活習慣を調べ、今後の指導に役立てる。
- (c) 個人面談
クラス替えなどによる人間関係や学習・部活動などについての悩みなどを確認し今後の指導に役立てる。
- (d) 進路希望調査(春)
卒業後の進路を考えさせる。
- (e) 校内模擬試験
7月と2月に校内で模擬試験を行い、日頃の学習の振り返りや進路選択に役立てる。
- (f) 大学入学共通テストガイダンス

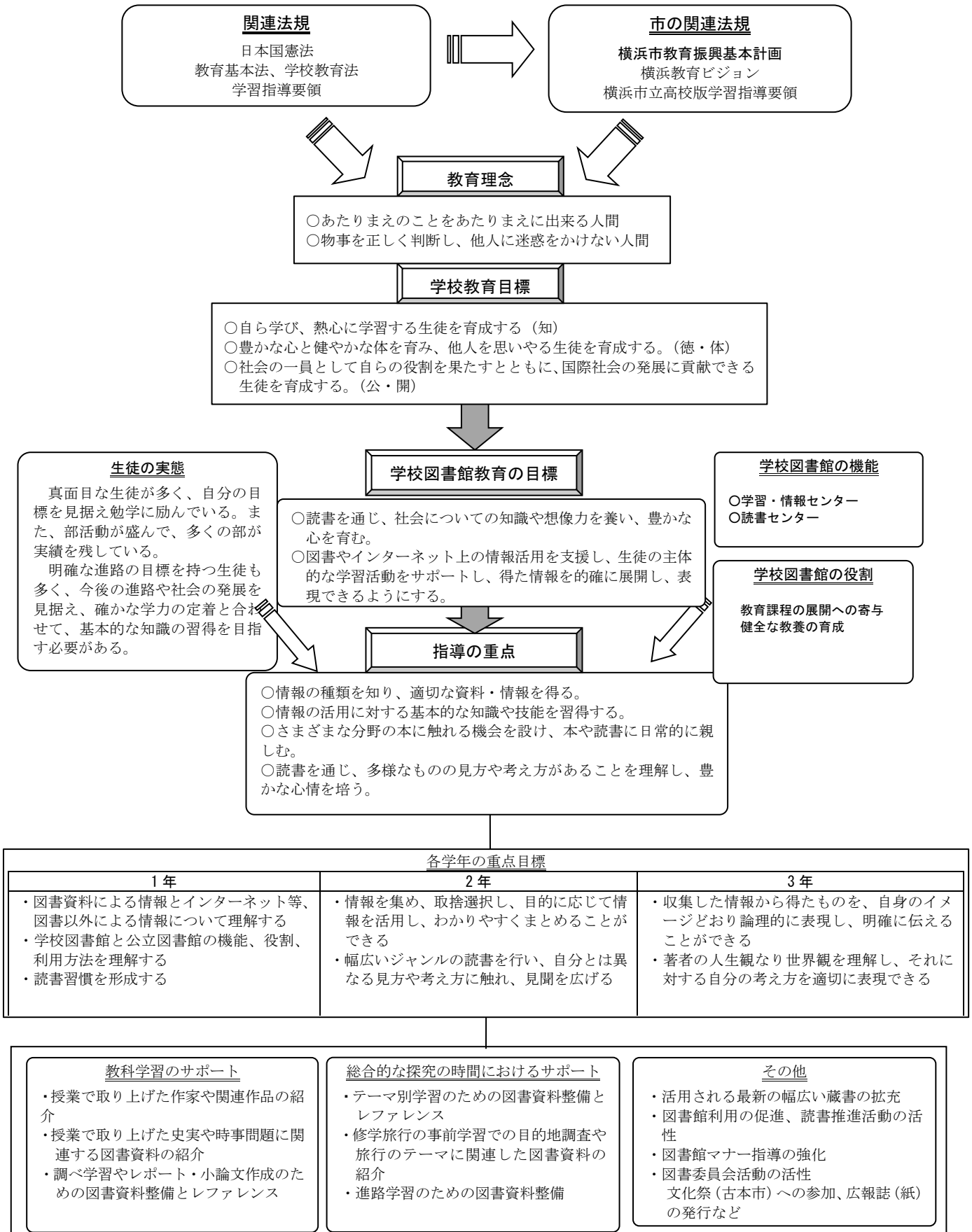
- 大学入学共通テストとそれを利用する入試の概要について学ぶ。外部講師による説明会。
- (g) 三者面談
保護者を交えて、進路について話し合う。
 - (h) オープンキャンパス参加
大学や専門学校のオープンキャンパスに参加し、雰囲気や学校の様子を調べ、進路選択に役立てる。9月に内容や雰囲気・感想などを発表する。
 - (i) 進路希望調査(秋)
3年次の科目選択に向けて、本格的に進路を考える。
 - (j) 進路ガイダンス
複数の大学・専門学校から講師を招き、分科会形式で学習や入学のための準備・心構えなどについて話を聞いたり体験する。
 - (k) PPIまたは高大連携
大学の模擬授業を受けることで自分の近い未来を意識し、進路実現に結びつける。PPⅡともつなげていく。
 - (l) PPⅡまたは企業連携
企業や団体組織の実践や取り組みを伺い、高校での学びをどのように自分自身に生かしていくか、社会とのつながりについて考える。
 - (m) 大学入学共通テストの情報を収集し、対策を推進する。
 - (n) HUG
課題探究への取り組みを進化させるとともに討論する力(発信力・交流力など)を高めることを目的としている。

3年次

- (a) 進路希望調査(春)
具体的な進路先について調査し、進路指導の資料とする。
- (b) 校内模擬試験(6月・9月)
6月、9月全員に対して模擬試験を行う。結果を担任と共有し、きめ細かい進路先の選択などに役立てる。
- (c) 三者面談
保護者を交えて、進路についての最終確認を行う。
- (d) 小論文ガイダンス
希望者を対象に、小論文の書き方について学ぶ。外部講師による説明会。
- (e) 面接ガイダンス
学校推薦型・総合型選抜を考えている生徒対象に面接における留意点や心構えについて学ぶ。外部講師による説明会。
- (f) 推薦説明会
学校推薦型・総合型選抜についての校内での手続きや日程について説明する。
- (g) 三者面談
進路先を確定する。
- (h) オープンキャンパス参加
自分が志望している大学や専門学校のオープンキャンパスに参加し、志望の意思を固める。
- (i) 三者面談
進路先の最終確認。
- (j) 共通テスト直前説明会
共通テストに向けた最終確認と注意。

(15) 学校図書館教育指導計画 全体計画及び年間指導計画

令和5年度 横浜市立東高等学校 学校図書館教育全体計画



令和5年度 東高等学校 学校図書館年間指導計画（図書館が主体となる行事）

時期	項目	指導する内容
通年	①広報	<ul style="list-style-type: none"> ・「新着図書案内」を随時発行し、新着図書の紹介や図書室のお知らせ、図書に関する種々の紹介を行う。また、図書委員会で「図書館だより」を発行するなどして読書推進活動を行う。 ・図書館の入り口周辺の広報エリアに、図書に関するポスターや記事を掲示する。 ・インフォメーションボードを活用する。
	②新聞・雑誌の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞は国内紙2紙と英字新聞1紙が閲覧できる。6か月分を保管する。 ・雑誌の年間購読については、利用状況や要望を考慮し毎年見直しをする。保管期間は原則1年間とし、必要に応じて1年以上保管する。
	③学習環境と読書環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自習や進路に向けての学習の「場」として、学習に集中できる環境を整える。また読書をする空間として居心地のよい魅力ある学校図書館となるよう工夫する。 ・図書館で閲覧利用できる参考図書や学習参考書、コミックなどを適切に管理し利用に供する。
	④企画展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ショーケースには、過去の図書館誌「Higashi Library」に掲載された歴代の作家インタビューの写真や記念の品、著書などを展示する。 ・図書館の各所にタイムリーな展示を工夫し、時事関連の本や教科、進路に関する特集展示、図書委員会による本の紹介コーナーなどを設ける。
	⑤購入図書のリクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には希望図書アンケートをとるなど、リクエストも随時受け付け、学校図書館にふさわしい本であれば購入して読書意欲の向上を助ける。 ・年度当初、教職員には調べ学習や教科の希望図書調査を行い、必要なものを計画的に購入し蔵書の充実を図る。 ・幅広く蔵書を揃え、親しみやすい図書館を作る。
	⑥レファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の探し方を指導し、レファレンスにはできる限り迅速に対応する。
	⑦利用マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションをはじめとし、折に触れ図書室のマナーを随時指導する。違反者には厳しく対応する。
1学期	①オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・新生に図書館の概要を説明し、利用の仕方と利用のマナーについて指導する。また、簡単な本の分類の仕方や図書記号について説明し、本の探し方を指導する。 ・読書啓発として、広報紙「Higashi Library」などを配布し、本の紹介をする。
	②子ども読書の日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会で企画して、ポスターを作成しクラス掲示するなどして、読書推進活動を行う。
	③作家インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会で機関誌「Higashi Library」に掲載するための、作家インタビューを企画実施する。作家の選定からアポイントメント、インタビュー、テープ起こし、編集などを生徒が行い、読書推進活動の契機とするだけでなく、社会体験としても位置づける。
	④図書館の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みには、図書委員会活動を伴って蔵書点検を行い、図書館整備をする。
2学期	①読書感想文・読書感想画コンクール	<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文・読書感想画コンクールへの参加を呼びかけ、読書意欲の向上と表現能力の向上を図る。
	②文化祭への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・古本市を開催し、また過去の機関誌「Higashi Library」と掲載された歴代作家の写真、色紙、記念の品を展示するなどして読書に親しむ一助とする。
	③はまっ子読書の日	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の読書週間のイベントを図書委員会で企画し、読書啓発のための催しを開催する。
3学期	①「Higashi Library」発行	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と図書委員会の年間活動報告として機関誌「Higashi Library」を編集し発行する。作家インタビューの記事、図書館利用データをもとに利用統計考察、教職員からのコラムなどを掲載し、東高校図書館の図書館の伝統として、可能な限り引き継ぐ。
	②貸出図書と延滞本の回収	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次生には貸出図書の完全返却、在校生には延滞本を次年度に繰り越さないように指導する。
	③図書館統計	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の利用状況を把握、分析し、次年度における読書啓発活動の目安とする。 ・蔵書構成に偏りがなかったかなど反省し、次年度蔵書購入計画の参考資料とする。 ・蔵書点検の結果、点検不明となったものは原則として3年経過後除籍登録する。

(16) 主権者教育の年間指導計画

(16) 主権者教育の年間指導計画

主権者教育を通して育てたい力や態度

- 主権者として、持続可能な社会づくりに向けて行動する力
- 社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度
- グローバル化する国際社会に主体的に対応できる意欲と態度

指導計画

	1年	2年	3年
4月	歴史総合 民主主義とは	政治経済 現代の諸課題	
5月	生徒総会 公共 民主国家における基本原理	生徒総会 政治経済 民主政治・政治機構	生徒総会
6月	公共 日本国憲法・選挙権	現代社会・政治経済 日本国憲法・選挙権	
7月	生徒会役員選挙	生徒会役員選挙	生徒会役員選挙
8月			
9月		政治経済 選挙制度	
10月	歴史総合 普通選挙制度の実現		
11月			
12月	生徒総会	生徒総会	生徒総会
1月		政治経済 国際政治・国際経済	
2月			
3月	生徒総会	生徒総会	

(17) 人権教育全体計画

(17) 消費者教育の年間指導計画

消費者教育を通して育てたい力や態度

- 消費者の権利と役割及び消費者の自立について理解し、正しい判断と行動ができる力
- 消費生活に関する基本的な知識・技能を理解し、消費者被害等の危機を未然に回避できる力
- 持続可能な社会の実現に向けて、SDGsを意識した消費生活を実践しようとする態度

指導計画

	1年	2年	3年
4月	総合的な探究の時間 SDGsワークショップ		
5月		特別活動 体育祭における物品購入にかかる手続き 家庭基礎 責任ある消費（フェアトレード、エシカル消費）	特別活動 体育祭における物品購入にかかる手続き
6月		特別活動 修学旅行における自主行動計画・実施	
7月	総合的な探究の時間 SDGs課題探究	家庭基礎 責任ある消費（食品ロス）	
8月			
9月	特別活動 東高祭における物品購入にかかる手続き	特別活動 東高祭における物品購入にかかる手続き	特別活動 東高祭における物品購入にかかる手続き
10月			
11月			
12月	総合的な探究の時間 イーストタイム 企業の取組みを知る	総合的な探究の時間 イーストタイム 企業の取組みを知る	
1月		家庭基礎 生活における経済の計画 消費行動と意思決定(契約)	
2月		家庭基礎 持続可能なライフスタイルと消費 衣服の選択	
3月			

(18) 人権教育全体計画

横浜市立東高等学校 人権教育構造図



令和5年度 東高校 人権教育 年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育推進	1,2年生徒人権学習会		構兵市人権教育推進協議会 企画、運営				3年生徒人権学習会		横浜市中区人権教育推進協議会 企画、運営 教職員人権学習会		今年度人権教育の反省 次年度の人権教育計画 検討・立案	帰国生徒生活体験発表会
教科活動	各教科内における人権に関する項目に留意し、必要な人権教育活動を展開する。											
国語	【現代文分野】文学作品の中に用いられている差別用語からその時代背景を学び、人権感覚を学ぶ。 【古典分野】中国や日本の古典に見られる結婚などの社会習慣に於ける性差別とその背景を学び人権感覚を身に付ける。											
地歴	【歴史総合】アメリカ独立宣言やフランス人権宣言から人類の基本的な権利の確立の過程を学ぶ。 【日本史探究】律令制度における職階階級の規定を学び、古代社会の差別を理解する。封建社会の確立期に権力者によって意図的に最下層の人々がつくり上げられたことを学ぶ。											
公民	【公共】フェアトレード(公正な貿易)から途上国との適正な商品取引の形態を学ぶ。											
数学	複利の金利計算の学習時において、金融機関である銀行や消費者金融に関する保護者をもつ生徒の心情に注意を払う。											
理科	生命の誕生や親から子に伝えられる遺伝子学習の際、生命の平等性や生命を尊重する意識を養う。											
保健体育	【保健】エイズなどの感染症、がん、精神疾患等の正しい知識と差別意識をなくす。高齢者や障がい者・肢体不自由者に対する人権感覚。【体育】指導時の言葉かけに配慮、身体的不自由者に対する支援方法を考慮。											
芸術	【音楽】取り扱った曲の歴史的背景や作曲された経緯から人権について学ぶ。【美術】制作された時代背景や作品の意図・表現方法について考察し、人権を学ぶ。											
英語	【英語コミュニケーションⅠ】 難病・人権差別・戦争被害者についての英文を扱いつつ、人権感覚を学びながら、人権感覚を学ぶ。【英語コミュニケーションⅡ】 様々な国の社会・文化・経済等を学び、グローバルな視野で人権を見る眼を養う。											
家庭	【家庭基礎】固定の性別役割分業意識の見直しをさせる。ワーク・ライフ・バランスや男女の平等と相互の協力の重要性について理解させる。インスタントシニア体験や、乳幼児とのふれあい体験、乳幼児をもつ親や子育て支援拠点スタッフとの交流を通して、様々な立場の人の気持ちや誰かが生活しやすい社会について考えさせる。											
情報	【情報Ⅰ】個人情報およびプライバシーの概念を理解し、自他のプライバシーや肖像の権利を尊重する態度を養う。また、情報ハリアフリー、ユニバーサルデザインの意味や目的について理解し、身近な例をあげて考察する。											
総合的な探究の時間(1・2・3年)	様々な問題を把握し、自分と周りとの関係を自ら見つけ、問題を解決する資質や能力を育てる。											
特別活動	オリエンテーション	講演会 ワークショップ	GCキャンプ	課題探究	課題探究発表	修学旅行 ESD day	課題探究発表	課題探究発表	ユネスコスクール講演会	課題レポート提出	HUG	
生徒会活動	生徒総会	生徒総会 体育祭	生徒会選挙 SR(球技大会)	東高祭準備	東高祭	東高祭	生徒総会 冬企画	生徒総会	生徒総会	SR(球技大会)	卒業式 芸術鑑賞	生徒総会
学校行事	始業式 入学式 防災訓練	中間テスト 保健講話	体育祭 GCCamp 土砂防災訓練	東高祭 学校施設見学会 始業式 防災訓練	東高祭	中間テスト 学校施設見学会	学校見学会	期末テスト 終業式	始業式 (共通テスト)	入学選抜 テスト		
HR活動	生徒間相互理解の促進	いじめアンケート	2年校外学習 1年進路講演会	大掃除		1年校外学習		いじめアンケート				1,2年進路ガイダンス
部活動	スポーツ・文化的活動を通して人格の形成と技能習得をめざす。指導においては生徒一人ひとりの個性および身体面や精神面の状況に十分な配慮をする。											
社会奉仕活動	ESD委員会主催 ボランティア	社会体験オリエンテーション		南三陸ボランティア		修学旅行 ESD day	ESD委員会主催 ボランティア		課題研究発表 会			HUG
家庭との連携	面談週間 (生徒)	PTA総会 保護者会		面談週間 生徒・保護者		面談週間 生徒・保護者 学校を開く週間						新入生保護者 説明会
関係機関との連携	各科学校医健康 診断 防災訓練 観見消防署	近隣保育園 家庭科実習	近隣保育園 家庭科実習	区保健福祉 センター 東高祭		近隣保育園 家庭科実習	近隣保育園 家庭科実習	近隣保育園 家庭科実習	近隣保育園 家庭科実習	近隣保育園 家庭科実習		卒業式 近隣小学校 中学校 自治会

(19) 学校いじめ防止基本方針

横浜市立東高等学校いじめ防止基本方針

平成 26 年 3 月 20 日 策定

令和 6 年 3 月 21 日 改定

本校は「あたりまえのことをあたりまえに出来る人間」「物事を正しく判断し、他人に迷惑をかけない人間」を教育理念として、自ら学び、熱心に学習する生徒を育成すること、また、豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒を育成することなどを学校教育目標としている。

全校生徒が安心して学校生活を送り、充実した教育活動に取り組めるよう、教職員が生徒とともに、いじめを抑止し人権を守る土壌をはぐくみ、いじめを許さない学校づくりを推進するため、「いじめ防止対策推進法」及び「横浜市いじめ防止基本方針」に基づき、「横浜市立東高等学校いじめ防止基本方針」を策定する。

1. いじめ防止に向けた学校の考え方

(1) いじめの定義

いじめ防止対策推進法第2条にあるように、「いじめ」とは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

(2) いじめ防止等に向けての基本理念

- ア あらゆる教育活動を通じ、だれもが、安心して、豊かに生活できる学校づくりを目指す。
- イ いじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの生徒にも起こりうることを強く意識し、いじめを未然に防ぎ、いじめが発生した場合は早期に解決できるよう保護者や関係機関と連携し情報を共有しながら指導にあたる。
- ウ いじめを絶対に許さないこと、いじめられている生徒を守り抜くことを表明し、いじめの把握に努めるとともに、学校長のリーダーシップのもと組織的に取り組む。
- エ 相談窓口を明示するとともに、生徒に対して定期的なアンケートや個別の面談を実施するなど、学校組織をあげて生徒一人ひとりの状況の把握に努める。

2. 「学校いじめ防止対策委員会」の設置

校内の組織に次のとおり「いじめ防止対策委員会」を設置する。

(1) 構成

校長、副校長、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、その他必要に応じて心理や福祉等の専門家の参加を求める。

(2) 運営

- ア 「学校いじめ防止対策委員会」を常設し、月1回以上定期的に開催する。また、いじめの疑いがある段階で、直ちに「学校いじめ防止対策委員会」を開催する。

- イ 校長等の責任者は、学校として組織的に対応方針を決定するとともに、会議録を作成し、進捗の管理を行う。

(3) 活動内容

ア 未然防止

- ① いじめが起きにくい、いじめを許さない環境を作る。
- ② 学校いじめ防止対策委員会の存在及び活動を、生徒及び保護者に周知する。

イ 早期発見・事案対処

- ① いじめ相談窓口の担当を担う。
- ② いじめに関する情報の収集や記録、対応に関する役割分担をする際の中核となる。
- ③ いじめ事案に対し、担任や一部の教職員で抱えることなく、いじめ防止対策委員会が中核となって組織的に取り組み、判断や対応を行う。
- ④ いじめ（「疑い」を含む）を察知した場合には、情報の迅速な共有、関係生徒に対するアンケート調査、聴き取り調査等により、事実関係の把握及びいじめであるか否かの判断を行う。
- ⑤ いじめを受けた生徒に対する支援、いじめを行った生徒に対する指導の体制、対応方針の決定と保護者との連携等、これらの対応を組織的に実施する。

ウ 取り組みの検証

- ① 学校いじめ防止基本方針に基づく、年間計画の作成・実行・検証・修正を行う。
- ② 学校いじめ防止基本方針における年間計画に基づき、いじめの防止等に係る校内研修の企画と計画的な実施。
- ③ 学校いじめ防止基本方針が、学校の実情に即して適切に機能しているかの点検と、学校いじめ基本方針の見直しを行う。（PDCAサイクルの実行を含む）

3. いじめの未然防止、早期発見・事案対処

(1) いじめ防止への取組

- ア 「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の生徒に徹底させなければならないこと。いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめの行為と同様に許されないという認識、また、いじめを大人に伝えることは正しい行為であるという認識を、生徒に持たせることをすべての教職員が認識し指導にあたる。
- イ 学校教育活動全体を通して、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にすることを育成し、友情の尊さや信頼の醸成、生きることの素晴らしさや喜び等について適切に指導する。
- ウ ホームルーム活動や生徒会活動などの場を活用して、生徒自身がいじめの問題の解決に向けてどう関わったらよいかを考え、主体的に取り組むよう指導する。

(2) いじめの早期発見

- ア 教師が生徒の悩みを受け取るためには、まず何よりも、全人格的な接し方を心がけ、日頃から生徒との心のチャンネルを形成するなど深い信頼関係を築く。
- イ 生徒の生活実態のきめ細かい把握に努めるとともに、いじめを見つけるための積極的な取組を行うこと。また、いじめの把握に当たっては、養護教諭など学校内の専門家との連携に努める。
- ウ 生徒や保護者からのいじめの訴えはもちろんのこと、その兆候等の危険信号は、どんな些細なものであっても真剣に受け止め、すみやかに教職員相互において情報交換するなどにより、適切かつ迅速な対応を図る。
- エ 生徒の仲間意識や人間関係の変化に留意しつつ、いじめの発見や対応に努めるとともに、特に、種々の問題行動等々が生じているときには、同時に他にいじめが行われている場合もあることに留意する。
- オ インターネットを通じて行われるいじめに対しては、民間団体や事業主を含めた関係機関と連携して実態把握に努め、早期発見・早期対応のために必要な措置を講ずる。また、生徒や保護者がインターネットを通じて行われるいじめの防止と効果的な対処ができるよう、関係機関と連携して資料等を配布するなど、必要な啓発活動を実施する。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめを受けている生徒の心理的圧迫感をしっかりと受け止めるとともに、当事者だけでなく、その友人関係等からの情報収集等を通じた事実関係の把握を組織的に正確かつ迅速に行う。(いじめ防止対策委員会)
- イ いじめの兆候を発見した場合において、いじめられる生徒からの訴えが弱いことを理由に問題を軽視したり、いじめる側といじめられる側の主張に隔たりがあることを理由に、必要な対応を欠くことがないようにする。
- ウ いじめの問題解決のため、いじめを把握した際には、速やかに教育委員会に報告するとともに、必要に応じ、児童相談所、警察等の地域の関係機関と連携協力を行う。
- エ いじめの発見・通報を受けたときの対応
 - ① 遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める。
 - ② 生徒や保護者から「いじめではないか」との相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴する。ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの的確に関わりを持つ。その際、いじめられた生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保する。
 - ③ 発見・通報を受けた教職員は一人で抱え込まず、学校における「いじめ防止対策委員会」に直ちに情報を共有する。その後は、当該組織が中心となり、速やかに関係生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行う。事実確認の結果は、校長が責任を持って教育委員会に報告するとともに被害・加害生徒の保護者に連絡する。

- ④ 学校や教育委員会が、いじめる生徒に対して必要な教育上の指導を行っているにもかかわらず、その指導により十分な効果を上げることが困難な場合において、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認めるときは、いじめられている生徒を徹底して守り通すという観点から、学校はためらうことなく所轄警察署と相談して対処する。
- なお、生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。

オ いじめが起きた集団への働きかけ

- ① いじめを見ていた生徒に対しても、自分の問題として捉えさせる。
たとえ、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つよう伝える。
- ② はやしたてるなど同調していた生徒に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる。なお、学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- ③ いじめの解決とは、加害生徒による被害生徒に対する謝罪のみで終わるものではなく、被害生徒と加害生徒を始めとする他の生徒との関係の修復を経て、双方の当事者や周りの者全員を含む集団が、好ましい集団活動を取り戻し、新たな活動に踏み出すことをもって判断されるべきである。
- ④ 全ての生徒が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていくことが望まれる。

カ ネット上のいじめへの対応

- ① ネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を避けるため、直ちに削除する措置をとる。
- ② 名誉毀損やプライバシー侵害等があった場合、プロバイダは違法な情報発信停止を求めたり、情報を削除したりできるようになっているので、プロバイダに対して速やかに削除を求めるなど必要な措置を講じる。こうした措置をとるに当たり、必要に応じて法務局又は地方法務局の協力を求める。なお、生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。

(4) いじめの解消

◎いじめが「解消している」状態とは少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。

- ・いじめの行為が少なくとも3か月（目安）止んでいること。
- ・いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じていないこと。

◎いじめの解消に至るまでに次のような支援等を行う。

ア いじめられた生徒又はその保護者への支援

- ① いじめられた生徒から、事実関係の聴取を行う。その際、いじめられている生徒にも責任があるという考え方はあってはならず、「あなたが悪いのではない」ことをはっきりと伝えるなど、自尊心を高めるよう留意する。また、生徒の個人情報の取扱い等、プライバシーには十分に留意して以後の対応を行っていく。

- ② 家庭訪問等により、その日のうちに迅速に保護者に事実関係を伝える。
- ③ いじめられた生徒や保護者に対し、徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り不安を除去するとともに、事態の状況に応じて、複数の教職員の協力の下、当該生徒の見守りを行うなど、いじめられた生徒の安全を確保する。あわせて、いじめられた生徒にとって信頼できる人（親しい友人や教職員、家族、地域の人等）と連携し、いじめられた生徒に寄り添い支える体制をつくる。いじめられた生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、必要に応じていじめた生徒を別室において指導することとしたり、状況に応じて学校に登校させない処置を講ずるなどして、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受けられる環境の確保を図る。状況に応じて、心理や福祉等の専門家、など外部専門家の協力を得る。
- ④ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行う。また、事実確認のための聴き取りやアンケート等により判明した情報を適切に提供する。

イ いじめた生徒への指導又はその保護者への助言

- ① いじめたとされる生徒からも事実関係の聴取を行い、いじめがあったことが確認された場合、学校は、複数の教職員が連携し、必要に応じて心理や福祉等の専門家など外部専門家の協力を得て、組織的に、いじめをやめさせ、その再発を防止する措置をとる。
また、事実関係を聴取したら、迅速に保護者に連絡し、事実に対する保護者の理解や納得を得た上、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう保護者の協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。
- ② いじめた生徒への指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。なお、いじめた生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、当該生徒の安心・安全、健全な人格の発達に配慮する。
- ③ 生徒の個人情報の取扱い等、プライバシーには十分に留意して以後の対応を行っていく。
- ④ いじめの状況に応じて、心理的な孤立感・疎外感を与えないよう一定の教育的配慮の下、特別の指導計画による指導のほか、さらに学校に登校させない等、警察との連携による措置も含め、毅然とした対応をする。
- ⑤ 教育上必要があると認めるときは、学校教育法第11条の規定に基づき、適切に、生徒に対して懲戒を加えることも考えられる。ただし、いじめには様々な要因があることに鑑み、懲戒を加える際には、主観的な感情に任せて一方的に行うのではなく、教育的配慮に十分に留意し、いじめた生徒が自ら行為の悪質性を理解し、健全な人間関係を育むことができるよう成長を促す目的で行う。

(5) 研修

全ての教職員の共通認識を図るため、少なくとも年に1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題等に関する校内研修を行う。教職員の異動等に

よって、教職員間の共通認識が形骸化してしまわないためにも、年間計画に位置づけた校内研修を実施する。

(6) 学校運営協議会の活用

学校運営協議会等を活用することにより、いじめの問題など学校が抱える課題を共有し、家庭、地域が組織的に連携・協働する体制を構築していく。

(7) 年間計画

月	活 動	内 容
4 月	いじめ防止基本方針の 確認徹底 いじめ相談窓口の告知 面談週間（生徒）	学校いじめ防止方針を全職員で確認し徹底を図る。 生徒への「いじめ相談窓口」の告知を実施する。 新学期を迎えた生徒の状況を把握する。
5 月	体 育 祭 いじめ解決に向けての 生活アンケート集約	全職員が様々な形で準備期間より生徒と関わりを持ち、その様子を職員間で情報交換する。 いじめ調査を実施し、現状の把握に努める。
6 月	いじめ防止のための H R 活動	「～見つめ 気づき 変わる～」をもとに学習する。
7 月	面談週間 （生徒・保護者）	調査の結果をもとに、学級担任との面談を実施する。 調査をもとに組織的に新学期に向けた課題の整理を行う。
8・9 月	東 高 祭	全職員が様々な形で準備期間より生徒と関わりを持ち、その様子を職員間で情報交換する。
10月	面談週間 （生徒・保護者）	日頃の学校生活での様子から生徒との面談を実施する。
11月	教職員人権教育研修会	いじめ防止や生徒理解等に関する職員研修会を実施する。
12月	人権週間 いじめ撲滅キャンペーン いじめ解決に向けての 生活アンケート集約 人 権 研 修 会（1年） ガイダンス日（個人面談）	人権週間への取り組み（HR・全体） 生徒とともにいじめ防止対策のキャンペーンを実施する。 いじめ調査を実施し、現状の把握に努める。調査をもとに組織的に新学期に向けた課題の整理を行う。 調査の結果をもとに、学級担任との面談を実施する。
1 月		
2 月	今年度のいじめ防止基本方針の反省	年度末反省において、今年度の反省を行う。
3 月	次年度に向けてのいじめ防止方針の検討確認	次年度計画において、次年度のいじめ防止方針の検討・確認を行う。

4. 重大事態への対処について

【重大事態の定義】

いじめ防止対策推進法第28条第1項においては、いじめの重大事態の定義は「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」（同項第1号）、「いじめによる当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」（同項第2号）とされている。

ア 報告

重大事態と思われる案件が発生した場合は、直ちに教育委員会に報告する。

イ 調査・報告

「いじめ防止対策委員会」を中核として、直ちに対処するとともに、再発防止も視点においた「調査」を実施する。また、調査結果を教育委員会に報告する。

ウ 生徒・保護者への報告

いじめを受けた生徒や保護者に対して、調査によって明らかになった事実関係を必ず報告する。

5. いじめ防止策の点検・見直し

学校は、いじめに対する組織体制や対応の流れについて、少なくとも年1回点検を行い、必要に応じて組織や取組等の見直しを行う（PDCAサイクル）。必要がある場合は、横浜市いじめ防止基本方針を含めて見直しを検討し、措置を講じる。

(20) 年間評価計画

(授業ガイド参照)

(21) 年間行事予定表

令和五年度 年間行事予定

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1	土	春季休業	月		木		1	土		火	
2	日		火	生徒総会(PM)、色別集会① 生徒会合同会議、分掌会	金	開港記念日	2	日		水	
3	月	分掌会・教科会・年次会 着任者オリエンテーション	水	憲法記念日	土		3	月	期末テスト	木	
4	火	職員研修会 職員各種委員会	木	みどりの日	日		4	火		金	
5	水		金	こどもの日	月	色別集会③	5	水		土	
6	木	生徒会合同会議	土		火		6	木		日	
7	金	着任式・始業式 年次会	日		水	午前授業 午後競技説明会 色別集会④	7	金	特別時間割	月	
8	土	PTA理事会	月		木	体育祭	8	土		火	
9	日		火	内科検診2年 年次会	金	3校時から授業 1年進路講演会	9	日		水	
10	月	入学式 PM2、3年保護者会	水	職員進路研修会①	土		10	月		木	
11	火	離任式 生徒会OR・部活動紹介	木	歯科検診1年 運営委員会	日		11	火		金	山の日
12	水	1.2年スタサポ 3年記述模試	金	色別集会②	月	GCcamp事前学習会(1年)	12	水	ESDday 3年進路検討会	土	
13	木	3年授業開始(2時間)、防災訓練 1・2年人権学習会、運営委員会	土		火	体育祭予備日	13	木	学力テスト(全年次) 素点・欠課確認	日	
14	金	1・2年授業開始 ⑦各種委員会	日		水		14	金	SR成績入力締切(午前中) 年次会(午後)	月	
15	土		月		木		15	土		火	
16	日		火	尿検査	金	教育実習(春)最終日	16	日		水	
17	月	総合探究ガイダンス	水		土		17	月	海の日	木	
18	火	PTA第1回各種委員会15:00	木	45分授業 職員会議	日		18	火	午前授業50分 成績・職員会議	金	
19	水		金		月		19	水	生徒会選挙 推薦説明会・小論文面接ガイダンス	土	
20	木	歯科検診3年、眼科検診 45分授業、職員会議	土	新旧PTA理事会	火	GCcamp(1年) 3年共通テスト模試	20	木	終業式 通知票確認	日	
21	金		日		水		21	金	夏季休業	月	
22	土		月	中間テスト	木		22	土	三者面談	火	
23	日		火		金		23	日		水	
24	月	面談週間 短縮45分×6	水	PTA総会 1年保護者会 部活動振興会理事会・総会	土		24	月		木	
25	火	内科検診3年	木	2年進路ガイダンス 1年社会体験ガイダンス	日		25	火		金	
26	水	尿検査	金	教育実習(16日まで) 3年午後英検	月		26	水		土	
27	木	一斉健診 歯科検診2年 スポーツテスト	土		火		27	木		日	
28	金	木曜授業 昭和の日	日		水		28	金		月	始業式
29	土		月		木		29	土		火	
30	日		火	内科検診1年	金		30	日		水	
31	月		水	耳鼻科検診1年			31	月		木	
		いじめアンケート(記名式) GC職員事前研修 職場巡視		2年校外学習 防災訓練(土砂災害) 全公立展		市立高校生徒会交流会		校内模試(3年) 横浜こども会議 市教育課程研究協議会 転編入試験 防災訓練(震災) 推薦説明会② 学校施設見学会・個別相談会		受験写真① 職場巡視	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	日 創立記念日	水 三者面談 短縮45分×4	金	1月 元旦	木 1年総合学力テスト 2年共通テスト模試	金	1
2	月	木 教育実習(秋24日まで)	土	2 火	金	土	2
3	火	金 文化の日	日	3 水	土	日	3
4	水	土	月	4 木	日	月	4
5	木	日	火 期末テスト	5 金	月	火	5
6	金	月	水	6 土	火	水	6
7	土	火	木	7 日	水	木 学年末テスト 1,2年進路検討会	7
8	日	水 教育課程委員会①	金	8 月 成人の日	木	金	8
9	月 スポーツの日	木 教科会	土	9 火 始業式 ユネスコスクール講演会	金	土	9
10	火 中間テスト	金 教育課程委員会② 短縮45分	日	10 水	土	日	10
11	水	土	月 特別時間割	11 木	日 建国記念日	月	11
12	木 1,2年スタボ検討会 3年進路検討会	日	火	12 金	月 振替休日	火	12
13	金 保健講話	月 職員会議(教育課程)	水	13 土 大学入学共通テスト	火	水 特別時間割	13
14	土	火	木 午前授業50分 素点・欠課確認	14 日	水	木	14
15	日	水 職員進路研修会②	金	15 月 共通テストリサーチ	木	金	15
16	月 2年共通テストガイダンス	木	土	16 火	金	土	16
17	火	金	日	17 水	土	日	17
18	水	土	月 PP II	18 木	日	月 素点・欠課確認	18
19	木	日	火 午前授業 成績入力締切16時	19 金	月	火 SR 成績入力締切 年次会	19
20	金	月 PP I	水 年次会	20 土	火	水 春分の日	20
21	土	火	木 成績・職員会議	21 日	水	木 成績会議・職員会議	21
22	日	水	金 生徒総会 冬企画	22 月	木	金 生徒総会	22
23	月	木 勤労感謝の日	土	23 火	金 天皇誕生日	土	23
24	火 修学旅行(沖縄)	金 教育実習(秋)最終日	日	24 水	土	日	24
25	水 3年共通テスト模試	土 学校説明会	月 終業式	25 木	日	月 修了式	25
26	木 3年記述模試	日	火 冬季休業	26 金	月	火 年度末休業	26
27	金	月 代休	水	27 土	火	水	27
28	土	火	木	28 日	水	木	28
29	日	水	金	29 月	木	金	29
30	月 三者面談 短縮45分×4	木	土	30 火		土	30
31	火		日	31 水		日	31
	指定校推薦校内選考② 1年校外学習 学校を開く週間 授業公開・ 受験写真② 学校施設見学会・個別相談会 学校評価委員会 3年人権学習会	イーストタイム はまっ子読書の日 特別支援校内研修会 授業評価 職員人権学習会 職場巡視 60周年記念事業(第3週頃)	学校評価委員会 いじめアンケート	3年学習相談日 職場巡視	入学選抜試験前大掃除 入試関連業務 卒業判定会議	第59回卒業証書授与式 芸術鑑賞 新入生保護者説明会 HUG 衛生委員会 1,2年進路ガイダンス	

(22) 学校保健計画

2023年度（令和5年度）学校保健計画

生活指導部

○学校保健目標：(1)自分自身や仲間や仲間の心身の健康に関心をもち、健康の保持増進ができる生徒の育成に努める。
 (2)周りの環境に対して、柔軟に対応できるように意思決定と行動選択ができる生徒の育成に努める。

区分 月	目標	学校保健関連行事	保健管理		対物管理	保健教育		生徒	組織	職員
			対人管理	対物管理		保健教育	保健教育			
4月	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防 規則正しい生活をする 心の健康を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 始業式 防災訓練(避難経路の確認) 定期健康診断(内科、歯科、眼科、尿検査、心電図、胸部X線、身体計測) スポーツテスト 定期健康診断実施(内科、歯科) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 保健調査 健康上注意を要する生徒一覧の作成 感染症対策(手洗い、手指消毒等) 定期健康診断の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃計画の立案と実施 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 身体測定器の点検・整備 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室前掲示物 保健調査票からの個人面談 保健室の利用の仕方 定期健康診断の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に向けた環境整備 石けん、消毒液の補充 尿検査回収 定期健康診断の手伝い 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修会 健康観察の実施 救急体制・緊急時のマニュアル確認 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防 規則正しい生活をする 心の健康を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 定期健康診断の実施 感染症対策(手洗い、手指消毒、環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 定期健康診断の実施 感染症対策(手洗い、手指消毒、環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断の指導 ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に向けた環境整備 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 職場巡視 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防 規則正しい生活をする 心の健康を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 定期健康診断の実施 感染症対策(手洗い、手指消毒、環境整備) 体育祭 エアコン使用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 定期健康診断の実施 感染症対策(手洗い、手指消毒、環境整備) 体育祭救護 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 前期学校環境衛生検査 エアコン点検 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 定期健康診断の事後指導 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に向けた環境整備 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断の実施 健康観察の実施 			
7月・8月	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除・SR 終了式 始業式 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 定期健康診断結果返却 1学期保健室利用統計 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 夏季休業中の健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 環境整備 SR救護 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 職場巡視 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> けがを予防する 	<ul style="list-style-type: none"> 東高祭 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 修学旅行前保健調査 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 東高祭担当係 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 			
10月	<ul style="list-style-type: none"> 目の健康を意識する 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生修学旅行 保健講話 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 修学旅行前保健管理 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 修学旅行前保健指導 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 修学旅行における健康管理 職場巡視 			
11月	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> エアコン点検 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 職場巡視 			
12月	<ul style="list-style-type: none"> 寒さへの体力増進をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> エアコン使用開始 大掃除 終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 2学期保健室利用統計 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 冬季休業中の健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 			
1月	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 インフルエンザ最新情報の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 職場巡視 			
2月	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> 後期学校環境衛生検査 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の健康生活を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式 SR 大掃除 終了式 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察・救急処置・健康相談 年度保健室利用統計 各種検診問診票の配布 次年度定期健康診断の立案 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除 感染症対策(手洗い石鹸、手指消毒の設置と補充) 日常の環境検査 	<ul style="list-style-type: none"> ほけんだよりの配布 保健ポスターの掲示 進級・進学に向けての健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> 石けん、消毒液の補充 SR救護 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施 衛生委員会 			

(23) 学校安全計画

2023年度（令和5年度）学校安全計画

生活指導部

月	目標	行事	管理		教育	生徒	組織	
			環境	生活			職員	職員
4月	交通安全	安全点検	学校安全計画の作成	防災計画の作成、避難経路の確認 事故発生時の対応確認	避難の方法と経路の確認 交通安全 けがや病気の処置 体育祭安全指導		安全計画の決定 防災計画の決定 衛生委員会 職場巡視	
5月	施設設備の安全な使用方法	安全点検 保健講話	安全点検 校舎内外の整備 体育祭グラウンド整備					
6月	梅雨期の安全な過ごし方	安全点検 体育祭における安全指導	安全点検 プール清掃 プールの水質検査	水泳禁止者の把握 けがの防止対策 水泳参加者の健康管理	室内における安全指導 不審者対応指導	体育祭		
7月 8月	プールの安全	安全点検 SR 大掃除	安全点検 (修理箇所点検) カーテン整備	水泳禁止者の把握 けがの防止対策 水泳参加者の健康管理 防犯教室	外出時の交通安全 水泳時における安全 SR安全指導 夏休み中の安全 地震発生時の避難の心得	SR	防犯教室の立案と実施 防災訓練の立案と実施 職場巡視	
9月	災害時の安全	安全点検 東高祭における安全指導 大掃除	安全点検 (運動用具の確認)		スポーツ障害の予防	東高祭		
10月	教室環境整備	安全点検 2年生修学旅行	教室内環境整備 (ロッカー・机椅子・ゴミ箱・採光等)	安全点検 (照明器具の点検と営繕)	集団行動での安全指導 宿泊行事における安全指導	修学旅行		
11月	交通法規の理解	安全点検	教室安全整備 安全点検	室内での過ごし方			職場巡視	
12月	安全な過ごし方	安全点検 ワックスがけ 大掃除	安全点検 カーテン整備	冬休みの安全な生活設計 室内での過ごし方 暖房設備の点検	冬休みの安全な過ごし方 暖房器具の安全な取り扱い 火災時の避難 火傷防止		衛生委員会	
1月	安全な暖房の使用	安全点検		登下校時の安全 災害時の安全対策 安全点検(危険箇所の点検)	交通事故の原因と防止		職場巡視	
2月	教室環境整備	安全点検	教室環境の整備 机、椅子の点検 安全点検(修理箇所の点検)	室内での過ごし方 安全点検	教室内での換気指導			
3月	年間の反省	安全点検 大掃除 SR	安全点検(修理箇所の点検)		春休み安全な過ごし方 1年間の安全 新入生保護者説明会	SR 1年間の反省	1年間の反省と次年度の計画 職場巡視	

(24) 学校防災計画

2023年度 防災規則

第一章 総 則

第1条 この計画は横浜市立東高等学校における防災管理の徹底を期し、震災その他の災害発生時に生徒・教職員の安全確保をはかり、災害発生後は適切な対応を速やかに行うことを目的とする。

第2条 前条の目的を達成するため、防災管理の組織ならびに業務について、必要な事項を定める。

第二章 防災管理機構

第3条 防災管理に関する運営の適正をはかるため、防災委員会を設ける。
委員会については、全職員が委員であるとの認識から校務分掌及び学年の長に代表になってもらうものである。そのため、業務に関しては分掌及び学年全体で行ない、職員全員が常に委員としての自覚を持たなければならない。

第4条 委員会は、校長、副校長、事務長、分掌主任、学年主任、主幹教諭で構成する。
委員長は学校長、事務担当は委員の中から互選する。

第5条 防災委員会の任務は次の通りである。
1. 防災計画の改定 2. 校内防災体制の見直し 3. 関連機関への連絡
4. 職員防災研修会の企画・運営

第6条 常時における防災組織は分掌ごとに分かれ、次の任務をおこなう。(資料1参照)

[総務部]

1. 火災と震災を想定した避難訓練の企画・運営をおこなう
2. 地域または消防署等と連携し、災害時の動きを想定する
3. 防災委員会が企画した職員防災研修会の運営を補佐する

[教務部]

1. 安全点検チェック表の項目を確認する。
2. SNS等を利用した連絡方法を確保し、保護者へ伝える

[進路指導部]

集団下校班を年度当初に集約し、班別名簿を作成し管理する

[生徒会指導部]

非常用物資の購入計画を作成し、購入後、管理する

[生活指導部]

災害時連絡カードを作成・管理する。

[プロジェクト推進部]

防災訓練における防災プログラムを企画・運営する

[事務]

校内の施設・設備・消火器の維持・補修・点検をおこなう

第7条 緊急時には災害対策本部を設置し、職員は次に定める任務に就き対応する。(資料2参照)
所属する班の役割を遂行することが原則であるが、状況に応じて個々が臨機応変に対応しなければならない。また、必要に応じて他班に協力し、職員全員で緊急事態に臨むこととする。

指揮系統は、①校長②副校長・事務長③班長の順位で指示を仰ぐ。

[校内連絡班 (総務部)]

1. 緊急放送で生徒に避難指示を出すとともに必要事項を連絡する。
2. 停電時は手分けして各階へ行き、連絡事項を伝える。

[非常持出班 (教務部)]

1. 非常持出用重要書類(生徒名簿・生徒連絡票・災害時連絡カード・指導要録)を搬出する。
2. 安否確認用名票の持出しをする。

[防災班 (進路指導部)]

1. 出火を確認したら直ちに初期消火に当たり、延焼を最小限に食い止める。
2. 校内の危険箇所、立ち入り禁止の貼紙やロープを張るなどし二次災害を防ぐ。

[警戒班（プロジェクト推進部）]

1. 校内における混乱や盗難等の警戒に当たる。
2. 外部から避難してきた人がいた場合、指定されている一時避難場所または地域防災拠点を案内する。

[救護班（生活指導部）]

1. 負傷者の応急手当をおこない、場合により病院へ搬送する。
2. 災害時連絡カードを持ち出す。

[物資準備班（生徒会指導部）]

非常用物資を必要な場所へ配布する。その際、避難誘導班と連携し、生徒の協力体制を整える。

[避難誘導班（各学年）]

1. 生徒名簿を持ち出すとともに、生徒を避難場所へ誘導する。
2. 避難場所で人員を確認し、生徒の安全を確保するとともに随時健康観察をおこなう。
3. 生徒がいない時間帯においては、分担して校内を見回り状況を本部へ報告。その後は所属する分掌の班へ合流する。

[通報班（事務）]

1. 火災が発生した場合、すぐに消防署へ連絡する。
2. 被災状況を関係部署へ報告する。

第三章 火災予防管理（資料3参照）

第8条 常時の火災予防について徹底を期すため、次の検査及び点検等の責任者は、定期的に職務を遂行する。

建物検査等の検査係、警報設備点検整備係、火気使用設備検査係、電気設備検査係 危険物・特殊可燃物検査係、消火設備点検係、消防用水等点検整備係

第9条 各施設および教室等の防火責任者は、火災予防上の自主検査、消防用設備の点検を定期的
に実施するものとする。

第10条 校内において、臨時に火気を使用する場合は、防火管理者の許可を得なければならない。

第四章 教育訓練

第11条 防火・防災意識の啓発のため、年間の教育計画に基づき訓練を実施するものとする。

第五章 消防機関との連絡

第12条 防火管理者は常に消防機関と連絡を取り、防火・防災管理の適正を期する。
連絡事項は次のとおりとする。

1. 防災計画の提出
2. 防災用設備・施設の点検整備報告
3. 火気の使用、または取り扱いに関する指導監督
4. その他防災管理についての必要業務

○消防署119(鶴見消防署 503-0119) ○警察署110(鶴見警察署 504-0110) ○横浜市教育委員会 総務課長 671-3223, 高校教育課長 671-3289, 健康教育課長 671-3234, 施設課長 671-3230 ○災害時優先電話(東高校)571-0853

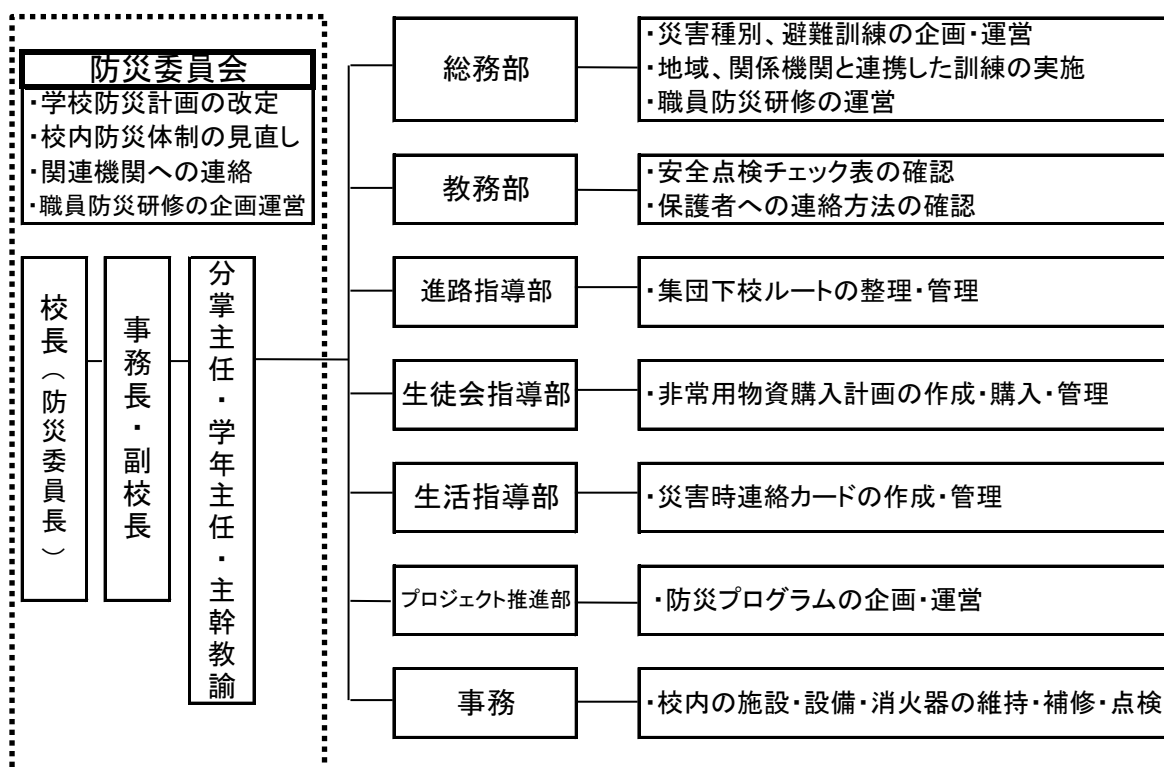
付 則

第13条 この規則の他、細部にわたる実施計画は別に定める。

2023年度年間計画

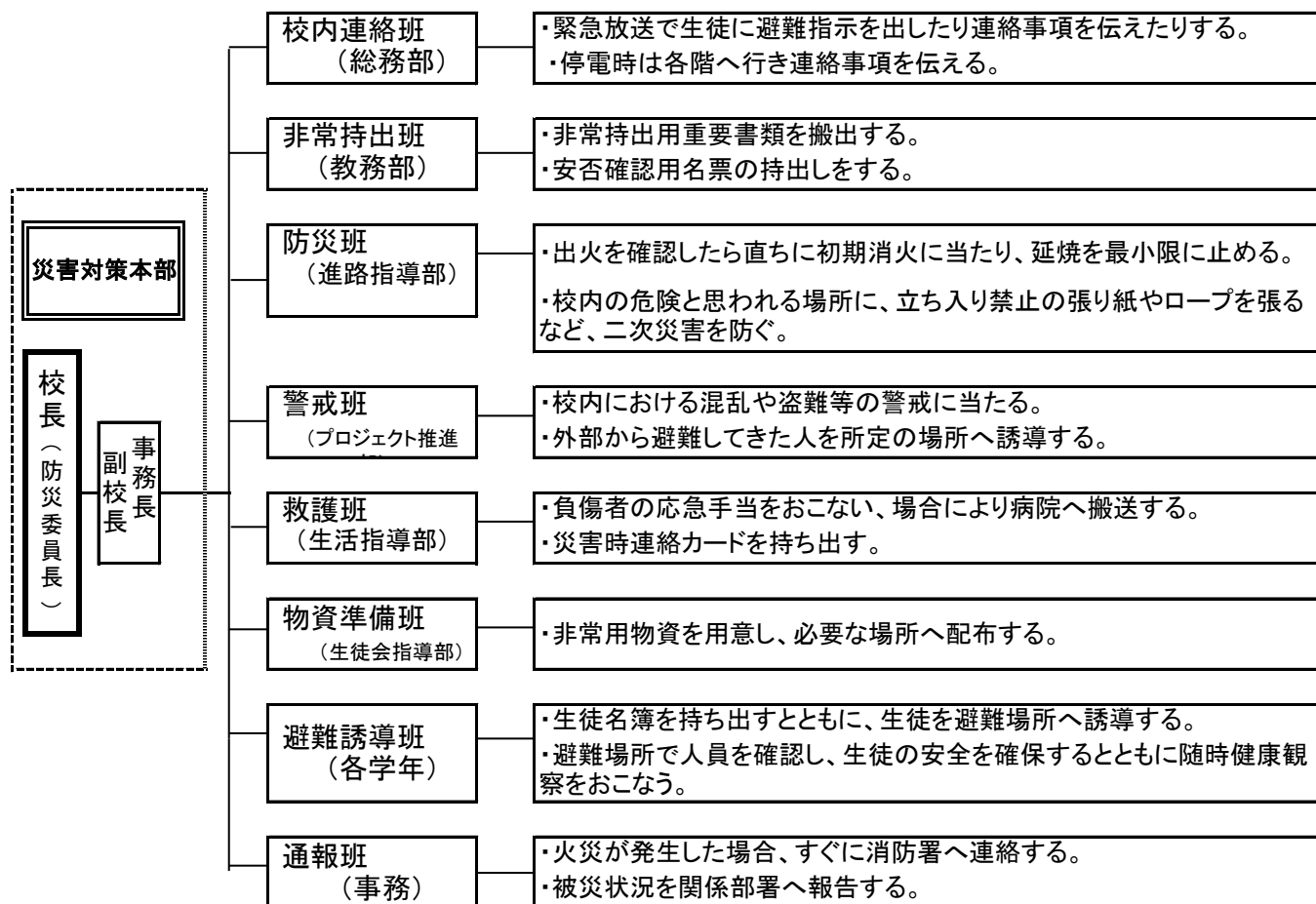
1学期	4月	今年度防災計画提案・災害時連絡カード集約・災害時下校班作成・避難経路確認
		通学経路調査・利用交通機関調査・緊急連絡表の作成・学校施設設備の点検
		第1回避難訓練（火災を想定）・防災プログラム・指定避難所調査
	5月	警報装置・消火器の点検（委託）・防災備品の確認、購入、第2回避難訓練の検討
	6月	学校施設設備の点検
	7月	学校施設設備の点検、第2回避難訓練（土砂災害想定）、第3回避難訓練の検討
2学期	8月	防災週間（8月30日～9月5日）、第3回避難訓練（震災を想定）・防災プログラム
	9月	防災の日（9月1日）、学校施設整備の点検
	10月	学校施設設備の点検
	11月	秋の火災予防運動（11月9日～15日）
3学期	12月	学校施設設備の点検・防災研修（職員）
	1月	学校施設設備の点検
	2月	学校施設設備の点検、2022年度第1回避難訓練の検討
	3月	春の火災予防運動（3月1日～7日）、2023年度防災計画作成

常時防災組織



緊急時防災組織・任務

[業務内容]



班名	班長	班員						
校内連絡班	須貝	池田	今村	大西	大濱	鈴木	菅田	田畑
		前崎	三谷	宮崎				
非常持出班	藤谷	木下	高木	高橋佳	渡邊			
防災班	中尾	内田	立野					
警戒班	市川	原	古橋	吉江				
救護班	市原	池下	小嶋	進	樋川	松並	山崎了	山本
物資準備班	影山	智野	角町	堀内	山崎円			
避難誘導班1年	高口	城尾	岡	廣瀬	田中	貝塚	右田	屋宜
避難誘導班2年	間宮	伊藤	山口	伊東	藤原	大熊	小峰	朝倉
避難誘導班3年	八木澤	近藤	花房	常森	菊池	青木	江藤	満田
通報班	鳥丸	中田	宮下	齋藤	塩見			

2023年度 各施設管理・防火責任者

学校長

(藤本)	建物等の検査係	高橋司・鳥丸
	警報設備点検整備係	鳥丸・斎藤
	火気使用設備検査係	高橋一
	電気設備検査係	鳥丸・斎藤
	危険物・特殊可燃物検査係	藤谷・影山
	消火設備点検整備係	鳥丸・常森 (A棟)・朝倉 (B棟)・大熊 (C棟)
	消防用水等点検整備係	藤原・近藤

防災委員会 委員長：校長

委員：副校長・事務長・須貝（総務部）・藤谷（教務部）・市原（生活指導部）
 中尾（進路指導部）・影山（生徒会指導部）・市川（プロジェクト推進部）
 高口（1年）・間宮（2年）・八木澤（3年）・朝倉

A棟**1 F (鳥丸)**

事務室(鳥丸) 校長室(大山) 応接室(齋藤) 国際教育室(近藤) 保健室(小嶋)
 カウンセラー室(小嶋) 地学準備室・地学室(大濱) 数学準備室(高口) 保健倉庫(進)

2 F (高橋一)

校務室(高橋一) 会議室(高橋司) 印刷室(藤谷) 進路指導室(中尾) 進路閲覧室(中尾)
 3-1(近藤) 3-2(花房) 3-3(常森) 放送室(宮崎)

3 F (間宮)

2-1(伊藤) 2-2(山口) 2-3(伊東) 2-4(藤原) 2-5(大熊)
 2-6(小峰) 2-7(朝倉) 国語科準備室(常森)

4 F (高口)

1-1(城尾) 1-2(岡) 1-3(廣瀬) 1-4(田中) 1-5(貝塚)
 1-6(右田) 1-7(屋宜)

5 F (高木)

閲覧室(高木) 図書視聴覚室(高木) 図書倉庫(高木) 気象室(大濱)

B棟**1 F (大濱)**

生物室(古橋) 生物準備室(進) 物理準備室(花房) 物理室(大西)
 化学室(大濱) 化学準備室(菊池) 薬品室(岡)

2 F (菅田)

被服室(内田) 被服準備室(内田) 和室(菅田) 家庭科準備室(菅田) 調理室(池田)
 家庭科講義室(池田)

3 F (朝倉)

社会科教室(鈴木)	社会科準備室(朝倉)	3-4(菊池)	3-5(青木)
3-6(江藤)	3-7(満田)		

4 F (今村)

音楽室(今村)	音楽準備室(今村)	書道準備室(間宮)	書道室(間宮)
美術準備室(前崎)	美術室(前崎)		

C棟**(藤原)****1 F (田中)**

部室(藤原)	マネージャー室(藤原)	食堂(田中)	厨房(田中)
--------	-------------	--------	--------

2 F (高橋佳)**3 F (大熊)**

ゼミ I II(高橋佳)	講義室 I(渡邊)	小教室 I(大熊)	小教室 II(大熊)
講義室 II(吉江)	講義室 III(八木澤)	英語科準備室(大熊)	LL準備室(樋川)
		LL教室(田畑)	

その他

生徒会室(影山)	職員休憩室(中田)	学習室(中尾)	楽器倉庫(今村)
----------	-----------	---------	----------

総合体育施設棟 (藤原)**1 F**

アリーナ(満田)	剣道場(城尾)	柔道場(伊藤)	トレーニングルーム(須貝)
弓道場(江藤)	体育館横コート(山崎了)		

2 F

内ミーティング室(市原)	女子総合部室(伊藤)	男子総合部室(城尾)
外ミーティング室(市原)	放送室(立野)	保健教室(山崎了)

3 F

プール(藤原)	体育科準備室(藤原)
---------	------------

情報棟 (藤谷)**1 F****2 F**

PTA 会議室 1(池田)	PTA 会議室 2(池田)	PCルーム I(藤谷)	情報処理準備室(藤谷)
PTA 会議室 3(池田)		PCルーム II・III(三谷)	

グラウンド等 (藤原)**A館裏**

南グラウンド(山崎了)	北グラウンド(市原)	事務倉庫(鳥丸)
体育倉庫(藤原)	陶芸室(前崎)	用具倉庫(鳥丸)
倉庫(藤原)	テニスコート(青木)	石油倉庫(鳥丸)

震災等の発生時および備えに関する実施計画

1. 大規模地震対策

(1) 事前措置

- ア. 大規模地震対策の概要を印刷物等で生徒・保護者に周知するとともに家庭内での地震対策の促進を計るようにする。(防災委員会)
- イ. 消防署の協力により、震災時における校内の安全な場所・危険な場所等を確認し、生徒に周知する。又、警察には警戒措置の方法を予め連絡しておく。(総務部)
- ウ. 各生徒の通学経路における、安全な場所・危険な場所を確認させておく。(生活指導部)
- エ. 生徒の利用交通機関が利用できなくなった場合の帰宅経路や家族と落ち合う場所(又は連絡場所あるいは連絡方法)等を予め決めさせておく。なお、生徒情報担当は災害時連絡カードを作成し、2階校務室に保管しておく。(生活指導部)
- オ. 各学期の始めには、学校施設の設備を各部屋の責任者が防火・防災の点検をする。なお、防火戸・防火シャッター等については安全管理担当が点検する。(事務)
- カ. 非常持出書類等はリストを作成するとともに、できる限り一定の場所に集中保管し、いつでも持出せるように準備しておく。(教務部)
- キ. 備蓄管理担当は、食糧その他必要物品を常時備えておく(生徒会指導部)
 - 【保管場所は体育館アウトミーティングルーム】
 - ・全生徒分(3日分の食料と水セット)
 - ・クラッカー350食、リッツ缶280食、マジックライス200食
 - ・水624本 ・A館2階購買前自販機1台・災害救済ベンダー(鍵は校務室)
 - ・体育棟1階自販機2台・災害救済ベンダー(鍵は保体職員室)
 - ・防寒シート300枚 ・簡易寝袋164枚 ・電池式ランタン21個
 - ・ランタン用電池127個 ・非常用トイレ300回分 ・防寒用毛布100枚
 - ・生理用品480個 ・アルミブランケット167枚
 - ・救急医療品(保健室保管) ・ストーブ・灯油(外倉庫保管)
- ク. 防災教育を実施する。(プロジェクト推進部)
 - ・ 防災講話(消防署による地震についての心構えなど)
 - ・ 防災対策の研修プログラムの実施

(2) 地震発生時における生徒への対応

- ・ 東高校学校防災計画「地震発生時の対応について(P.16~P.19)」に記載。

(3) 入学式、卒業式における震災への対応について

- ・ 震度5強以上の地震が発生し式典を中止せざるをえない場合には、管理職の判断で中止を伝え、新入生または卒業生と保護者に帰宅してもらう。[交通状況によっては保護者と新入生または卒業生に学校で待機してもらう]

(4) 入試における震災への対応について

- ・ 神奈川県教育委員会の指針に準ずる。

(5) 入学者説明会における震災への対応について

- ・ 震度5強以上の地震が発生し説明会を中止せざるをえない場合には、管理職の判断で中止を伝え、新入生と保護者に帰宅してもらう。(交通状況によっては、新入生と保護者に学校で待機してもらう)

(6) 文化祭における震災への対応について

- ・ 震度5強以上の地震が発生し文化祭を中止せざるをえない場合には、管理職の判断で中止を伝え、来場者に帰宅してもらう。[交通状況によっては来場者に体育館で待機してもらう]

(7) 生徒の留置きについて

予め保護者から、学校に預かる(留め置く)か、下校させるかの希望を聞き、原則それに従う。ただし、安全に下校できないと学校が判断した場合には、全員学校に留め置き、状況を見て集団下校の判断をする。

(8) 事後措置

- ア. 生徒の安全確認・健康観察
- イ. 家庭への連絡またはホームページ等による状況発信
- ウ. 施設設備の点検・応急処置及びカメラによる記録
- エ. 教育委員会へ被害状況報告
- オ. 必要に応じて非常用物品・食糧等の配布

(9) 教職員の動員体制(横浜市学校防災計画より抜粋)

- ア. 配備・動員計画の基本方針

① 原則として、全教職員を対象とする。

(注)再任用職員を含む。また、授業中の発災の際は、臨時的任用職員・非常勤職員・会計年度任用職員等も任務を行います。病弱者、身体不自由な職員や、発生時に妊娠中又は出産後育児休業取得期間に相当する職員で災害応急対策に従事することが困難な場合は除外する。

- イ. 動員の事前命令及び自動参集

○ 動員対象教職員は、配備体制に基づき、それぞれの所属等あらかじめ定められた場所において指揮命令を受け、必要な任務を遂行しなければならない。

○ 勤務時間外においては、次のような場合は、動員命令を待つまでもなく、自発的に動員先に、バイク、自転車等できる限り早期に参集できる手段を用いて、直ちに全員が参集しなければならない。

○市域のいずれかで、震度5強以上の地震が観測されたとき

* 自校の地域が震度5弱以下であっても、市域のいずれかで震度5強が観測されれば、市内全校自動参集となります。

(10) 学校災害対策本部の設置

次の場合、学校は、早期に**学校災害対策本部を設置し、初期対応を行う。**

・**市域のいずれかで、震度5強以上の地震が観測されたとき**

・**南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表されたとき**

(11) 津波への対応

東高校は、神奈川県が想定した「慶長型地震」の津波浸水予測区域から外れているが、自宅が津波浸水予想区域になっている生徒への対応をしなければならない。

- ア. 東京湾岸に津波警報が発令された場合、校務室において情報収集をし被害状況を把握する。
- イ. 在校生の自宅および通学路が被災した場合、該当する生徒を留め置く。
- ウ. 保護者の引き取りまたは安全の確認ができた場合に生徒を帰宅させる。

(12) 発災後の休校期間

横浜市内で震度5強以上の地震が1箇所でも発生した場合、原則として当日および翌日は休校とする。ただし、被害が少ないなど状況によっては、学校長の判断で教育活動の継続を可能とする。

(13) 外部からの避難者への対応

ヒガシテラオハイスイチ

ショウインジ

外部からの避難者に対しては、一時避難場所である**東寺尾配水池**及び**松蔭寺**を案内する。

また、帰宅困難者に対しては、地域防災拠点校である**上寺尾小学校**を案内する。

(14) 鶴見区集配拠点について

本校は、横浜市に配分される救援物資の鶴見区集配拠点となっている。救援物資の受け入れ及び仕分け整理、配送をするためにアリーナが使われる。ただし、校内に生徒がいる場合にはその限りではない。

2. その他災害時の対応について

(1) 火災

- ア. 避難経路を通り南グラウンドへ避難する。(状況に応じて本部からの指示によりアリーナへの避難もある)
- イ. 職員は、緊急時防災組織の任務を遂行する
- ウ. 初期の火災の場合、現場付近にいた職員が積極的に消火活動にあたる。

(2) 土砂災害

- 1 横浜市鶴見区において警戒レベル4以上の避難勧告が発令された場合、次の通りとする。
 - (1) 午前6時の段階で発令中の場合は、午前10時まで「自宅待機」とする。
 - (2) 午前10時の段階で発令継続中の場合は「臨時休校」とする。
 - (3) 午前10時の段階で解除されている場合は午後1時までに登校し、5校時以降の授業を実施する。
- 2 授業中に警戒レベル4以上の避難勧告が発令された場合、**アリーナ**に避難する。
その後、学校長より適切な措置を講ずる。警戒レベル3以下の場合でも、状況により学校長が適切な措置を講ずる場合がある。
- 3 土砂災害で被災した場合、復旧するまで休校とする。

(3) 特別警報発表時

横浜市内に「特別警報」が発令された場合の対応について

- ア. 午前6時の時点で発表中の場合は、午前10時まで「自宅待機」とする。
- イ. 午前10時の時点で発表中の場合は、「臨時休業」とする。
解除されている場合は、午後1時までに登校し、5校時以降の授業を行う。
- ウ. 遠足、修学旅行、体験学習等の日に発令された場合も原則として延期・中止とするが、目的地では発令されておらず、出発を遅らせる措置等をとれば安全な場合などは、学校長の適切な判断により、実施することができる。
- エ. 登校後、横浜市内に「特別警報」「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」「降灰予報」が発表された場合は、状況に応じて学校長が適切な措置を講じます。

(4) 南海トラフ地震に関する情報（臨時）が発表された場合

横浜市内（神奈川県全域または神奈川県東部または横浜・川崎）に「特別警報」が発令された場合の対応について

「南海トラフ地震に関する情報」（臨時）が発表された場合

- ア. 地震発生の可能性が高まった場合、原則通常通りであるが、状況によっては教育委員会の判断により「全市一斉休校」となる。
 - イ. 教育委員会による指示がない場合でも、情報等の切迫度や地域等の危険度により、登下校の見合わせ及び学校待機を学校長が判断する。
- 「南海トラフ地震に関する情報」（定例）が発表された場合
- ア. 通常通りとなるので間違えないよう注意すること。

(5) 計画運休が発表された場合

警報等の影響により、JR線および東急東横線、京急線における横浜市内での計画運休が判明した場合、学校長が適切な措置を講じます。

3. 避難経路について

災害時は、教室に貼られている避難経路図に従い南グラウンドへ避難する。
ただし、状況に応じて別のアリーナに第二次避難場所が設定される。

4. 2023年度連絡調整者

藤谷 学

城尾 彰

伊東 美咲

※連絡調整者はいち早く学校に参集し、学校長・副校長が参集するまでの間、区災害対策本部や教育委員会事務局、地域防災拠点運営委員会等との連絡調整など地震発生直後の初動対応を行う。

5. 緊急時における各階の安全確認

・緊急時には各フロアの教員で手分けして、各階の安全確認をする。
(A棟4階、C棟1, 2階に関しては、それぞれの棟に常駐する職員が担う)

<震災時の手順>

- ①緊急放送の指示に従い、常駐する職員室の階にある教室・トイレ等を全て確認する。その際、その階にいる職員で分担し、素早く対応する。
- ②授業中に緊急放送があった場合は、授業を行っている職員も使用教室におけるフロアの見回りを手伝う。
- ③怪我人の有無・破損状況・その他の情報を、災害対策本部または放送で指示された場所に連絡する。

<火災時の手順>

- ①緊急放送の指示に従い、常駐する職員室の階にある教室・トイレ等を全て確認する。その際、その階にいる職員で分担し、素早く対応する。
- ②授業中に緊急放送があった場合は、授業を行っている職員も使用教室におけるフロアの見回りを手伝う。
- ③取り残された生徒がいないかを確認し、身の安全を確保しながら避難する。
- ④災害対策本部に報告する。

<2023年度教員常駐場所>

A棟					B棟			
1階	2階	3階	4階	5階	1階	2階	3階	4階
○市川	○中尾	○影山	○高口	○高木	○大濱	○菅田	○青木	○前崎
朝倉	間宮	山本	宮崎		進	池田	屋宜	今村
木下	常森	伊東	貝塚		菊池	内田	原	
近藤	立野	山崎円	池下		古橋		鈴木	
渡邊	花房				大西		智野	
山口	小峰				岡			
角町								
廣瀬					C棟	体育棟	情報棟	
堀内					○八木澤	○市原	○藤谷	
小嶋					大熊	城尾	三谷	
松並					高橋佳	藤原		
					田畑	山崎了		
					江藤	満田		
					樋川	伊藤		
					田中			
					右田			
					吉江			

各棟(各階)○印の先生が常駐する階の指示を出してください。○印の先生が不在だった場合には、名簿の上位の方が指示を出してください。

6. 集団下校ルート別班 職員担当表

班	方面	1学年担当	2学年担当	3学年担当
1	鶴見駅方面(水道道経由)	城尾・右田	間宮・朝倉	八木澤・満田
2	川崎駅方面(国道1号線下末吉・尻手駅経由)	渡邊・古橋	菅田・三谷	立野・吉江
3	日吉駅・綱島駅方面(二ツ池・駒岡・樽町経由)	廣瀬・高木	池田・堀内	前崎・江藤
4	新羽駅・大倉山駅方面(菊名駅・綱島街道経由)	高口・原	山崎了・大濱	樋川・山本
5	小机駅・新横浜駅方面(妙蓮寺駅・岸根公園駅経由)	内田・岡・松並・大西	藤原・大熊・伊藤・山口	近藤・常森・田畑
6	横浜駅方面(大口駅・子安駅・東神奈川駅経由)	屋宜・貝塚・田中・木下	高橋佳・角町・小嶋・鈴木	青木・菊池・花房・今村
7	学校周辺(馬場・東寺尾・西寺尾・北寺尾)	宮崎・山崎円	伊東・小峰	進・智野
本 部		防災委員会(管理職・須貝・市原・藤谷・市川・中尾・影山)	○新型コロナウイルスが終息するまでは、集団下校を実施しない。生徒は学校から利用駅までの徒歩ルートを各自で確認しておくこと。(令和2年度5月職員打合せにて	

(25) 『警報』発令時における生徒の安全確保に係る校内規定

警報等発表時における措置について

警報発表時における措置

- 1 「特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）」 「暴風警報」 「大雪警報」 「暴風雪警報」 「降灰予報」が横浜市内に発表された場合、次のとおりとします。
 - （1）午前6時の段階で発表中の場合は、午前10時まで「自宅待機」とします。
 - （2）午前10時の段階で発表継続中の場合は「臨時休校」とします。
 - （3）午前10時の段階で解除されている場合は午後1時までに登校してください。
（5校時以降の授業を実施）
- 2 警報等の影響により、JR線および東急東横線、京急線における横浜市内での計画運休が判明した場合、学校長が適切な措置を講じます。
- 3 「暴風警報」を伴わない「大雨警報」や「洪水警報」の場合は、学校から「自宅待機」の連絡がない限り通常通りの登校となります。しかしその場合でも、生徒の通学経路の状況を考え、安全を最優先に登校の可否を家庭でご判断ください。
- 4 遠足、修学旅行、体験学習等の日に警報等が発令された場合、原則として延期または中止となります。しかし、目的地には警報等が発表されておらず、出発を遅らせる措置等をとれば安全な場合などは、学校長の適切な判断により実施する場合があります。
- 5 登校後に、横浜市内に「特別警報」 「暴風警報」 「大雪警報」 「暴風雪警報」 「降灰予報」が発表された場合は、状況に応じて学校長が適切な措置を講じます。

大規模地震発生時における措置

- 1 市域のいずれかで、震度5強以上の地震が観測された場合、次のとおりとします。
 - （1）登校時
学校は臨時休校とします。ただし、学校の近くまで来ているときはそのまま登校してください。その後、下校するか学校に留め置くかを判断します。
 - （2）登校後
授業を打ち切り、予め保護者から伺っている「学校に留め置く」または「下校させる」のどちらかを個別に判断します。ただし、安全に下校できないと学校が判断した場合には、全員学校に留め置き、状況を見て集団下校等の判断をします。
 - （3）学校行事実施中（修学旅行・遠足等）
学校行事等を中止し、状況によって生徒を安全な場所へ避難誘導のうえ、原則として帰校させます。その後、下校させるか学校に留め置くかを判断します。

土砂災害警戒情報が発表されたときの措置

- 1 横浜市鶴見区において警戒レベル4以上の避難勧告が発令された場合、次の通りとします。
 - (1) 午前6時の段階で発令中の場合は、午前10時まで「自宅待機」とします。
 - (2) 午前10時の段階で発令継続中の場合は「臨時休校」とします。
 - (3) 午前10時の段階で解除されている場合は午後1時までに登校してください。
(5校時以降の授業を実施)
- 2 授業中に警戒レベル4以上の避難勧告が発令された場合、アリーナに避難します。その後、学校長の判断により適切な措置を講じます。警戒レベル3以下の場合でも、状況により学校長が適切な措置を講ずる場合があります。
- 3 土砂災害で被災した場合、復旧するまで休校とします。

南海トラフ地震に関する情報（臨時）が発表された時の措置

- 1 「南海トラフ地震に関する情報」**臨時**が発表された場合（定例の発表は通常通りですので間違えないください）
 - (1) 原則通常通りの活動となりますが、教育委員会から「全市一斉休校」の指示があれば休校とします。
 - (2) 教育委員会による指示がない場合でも、情報等の切迫度や地域等の危険度により、登下校の見合わせ及び学校待機を学校長が判断します。

その他危機事象における措置

登校前に、Jアラートを通じて緊急情報が発信された場合、自宅待機とします。その後、メール配信または学校のホームページ等で情報を収集し、登校再開の指示を待ってください。

☆警報等に係る学校の対応は、「ホームページ」等で発信いたします。なお、メール配信の登録を引き続きよろしく願いいたします。

☆学校への電話による問い合わせはご遠慮くださいますようお願いいたします。

(26) 学校防犯計画

◎本年度の目標

まず、『危機管理の大切さを理解しよう！』

1 学校の危機管理の在り方

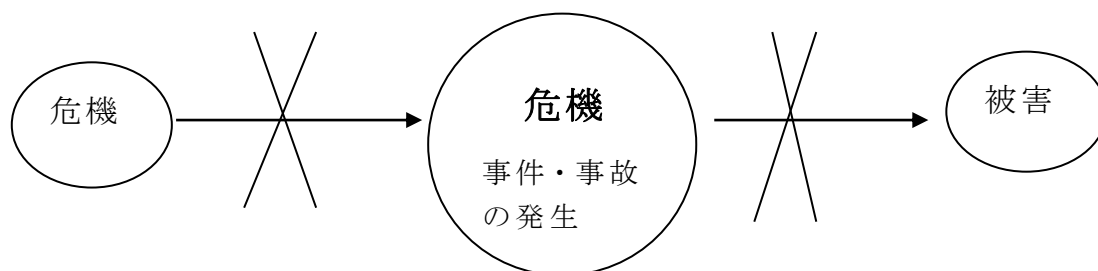
(1) 学校での危機管理の意義

①危機管理の必要性

学校は、生徒が安心して学ぶことができる安全な場所でなければならない。しかし、時として学校の安全を脅かす事件・事故（危機と同義。以下同じ。）が発生する。そのような事件・事故に備えて、学校において適切かつ確実な危機管理体制を確立しておくことが重要である。

ここでいう危機管理とは、「人々の生命や心身等に危害をもたらす様々な危険が防止され、万が一に事件・事故が発生した場合には、被害を最小限にするために適切かつ迅速に対処すること」を指す。

ここでは、危機管理を「事前の危機管理（リスク・マネジメント）」と「事後の危機管理（クライシス・マネジメント）」の2つの側面から次のように捉えている。



②学校の危機管理の目的

学校の危機管理の目的は、生徒・教職員の生命や心身の安全を確保することである。そのため、危険をいち早く発見して事件・事故の発生を未然に防ぎ、生徒や教職員の安全を確保することが最も重要である。併せて万が一事件・事故が発生した場合に、適切かつ迅速に対処し、被害を最小限に抑えること、さらには、事件・事故の再発防止と教育の再開に向けた対策を講じることも学校の危機管理の目的である。

③学校の危機管理における体制づくりの意義

学校の危機管理では、体制づくりが重要となる。学校の危機管理体制においては、校長が責任者となり、安全担当の教職員（生活指導部）（以下「安全担当」という。）が、中心となって活動を推進する。もちろん、学校の危機管理体制にはすべての教職員が参加することが必要であり、教職員はそれぞれの状況に応じて平時から役割を自覚し、連携を深めながら活動を進めていく必要がある。

また、教育委員会をはじめ、保護者や地域住民、警察等の地域の関係機関・団体との連携を確立し、迅速に連絡し合い、協力し合うことが可能な体制を作っておくことが大切であり、生徒や学校の安全確保にとって不可欠な活動である。

2 不審者侵入に対する危機管理体制

(1) 不審者の定義

不審者の定義は一般的には、「疑わしいと思う人。また、疑わしい人」となる。ただ、学校に侵入する場合には、その目的があるわけで、ここでいう不審者はそれらの目的を持って侵入したものとする。

① 殺傷目的、器物破損目的

② 薬物乱用者（不特定目的）

ア、心身異常者 イ、酒酔い（酩酊者・泥酔者）

③ 性犯罪目的

ア、ストーカー目的 イ、部品盗（制服・体操着等）目的

ウ、盗撮目的（運動着やパフォーマンス、水着やミニスカート）

④ 侵入盗（金品等）目的

⑤ 交友（敵対）関係目的

⑥ その他の目的

(2) 危機管理体制の基本的な考え方

① 不審者侵入に対する危機管理

「1」にあるように本校における「危機管理」は、事前と事後の危機管理の両方をあわせて考えている。これを前提に次の視点を指す。

ア、**不審者侵入を未然に防ぐための危機管理**

第一に、不審者の侵入を未然に防ぐための危機管理である。学校内への不審者の侵入を防ぎ、生徒や教職員等の安全を脅かす事態が発生しないよう、対策を講じなければならない。（例として校門などの常時閉門など）

イ、**事件発生直後の危機管理**

第二に、万が一不審者侵入事件が発生した場合において、事件発生直後に行う危機管理である。侵入した不審者から、生徒や教職員等の安全を守り、速やかな避難指示と状況把握、救急・救命、被害の拡大防止・軽減を行うための対策を講じる。

ウ、**侵入者退去後・身柄確保後の危機管理**

第三に、万が一不審者侵入事件が発生した場合において、侵入者が退去した後、または身柄確保後に行う危機管理である。事態の收拾や、内外からの問い合わせに対応するとともに、事件・事故の再発防止と教育の再開に向けた対策を講じる。

② 学校への不審者侵入に対する危機管理体制

学校への不審者に対する危機管理体制とは、①で挙げたア～ウの3つの視点を達成するために、次の2点について有効に機能するような体制を構築することである。

ア、学校内における迅速・的確な連携・対処

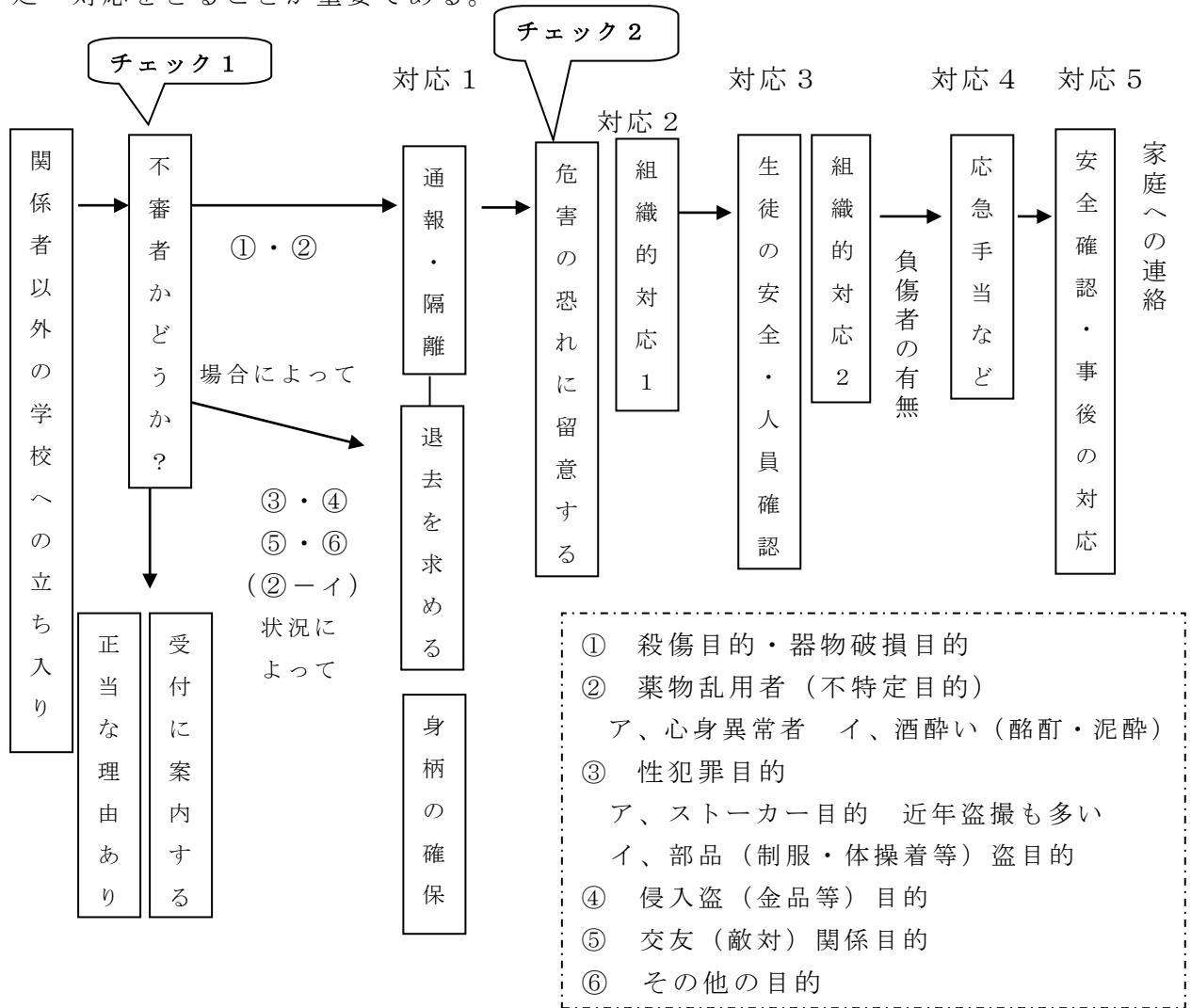
イ、学校と家庭、地域及び関係機関・団体との有機的・協力的な関係

(3) 状況・事態に応じた危機管理体制

① 不審者侵入時に即応できる体制づくり

事件・事故の発生を極力未然に防ぐため、事前の危機管理について、万全を期すことが求められているが、万が一学校に不審者が侵入するなどの緊急事態が発生した場合に、生徒や教職員、来校者等の学校内にいる人々の安全を守ることのできる体制の整備が必要である。

不審者の侵入により想定される事態の推移と対応の基本的な考え方は次の通りである。ただし、2の(1)にある不審者の定義・目的と状況によってその場に即応した対処・対応をとることが重要である。



(4) 不審者侵入防止に関するチェック体制

①校門に防犯カメラを設置

校門を通る者を事務室で常に監視できるようにしている。校門から校舎に入るまでは見通しがよい通路になっている。



②校門から校舎までの経路

校門から校舎に入るまでは死角もなく、見通しがよい通路になっている。



③訪問者の受付チェック

訪問者は校舎に入る前に事務室で受付をするように誘導案内がされていて、人物をチェックして名札の着用を義務付けている。

3 具体的な不審者侵入時の対応

(1) 学校危機管理とは、次の事項を守るための体制のことである。

- ①生徒・教職員の生命・安全を守る。
- ②日常の組織や運営を継続する。
- ③保護者や地域社会からの信用や信頼を維持する。

(2) 緊急時の具体的対応

※2の(1)にあるように不審者の侵入目的によって対応は異なる。

- ①生徒がいる場所への経路遮断＝生徒の生命・安全の確保。
- ②生徒の安全な場所への避難。(速やかに、かつ、二次的な被害を出さない。)
- ③自分自身の安全(机や清掃用具等を使用する。)
- ④侵入者を興奮させない。(穏やかに話す等。)
- ⑤教職員間の協力と連携で、外部機関(110番)へ通報する。
- ⑥侵入者の隔離・身柄の確保。(絶対ではない。)

※1 校内放送が使用できる場合には、次の言葉で侵入者の所在を全職員・生徒に伝える。



「連絡します。イチイチマル(110) 荷物が〇〇に届いています。
職員は取りに行ってください。」

※2 放送等が使用できない場合には、侵入者がいる場所から順次遠い場所(教室等)に伝言の形式で伝えていく。＝避難と同時。

4 年間計画

- 4月初旬 職員研修(共通理解)
- 7月中旬 防犯教室(本年度実施せず)
- 7月下旬
- 1 2月下旬 } 長期休業中の生徒・家庭向け諸注意(プリント)の配布
- 3月下旬 }

※事件・事故に対する指導體制 → その時の状況に応じて指導部で検討を行ない、関係諸機関(鶴見警察署)との連携や職員によるパトロール・プリントの配布や注意喚起を行なう。

(27) 学校評価計画

令和5年度 横浜市立東高等学校 学校評価年間計画

月	PDCA	分掌・教科・学年・委員会	主な学校行事	
4	P(計画)	年度目標設定 ↓ ↓ ↓	始業式・入学式・保護者懇談会 スタディサポート(1、2年)・学年別活動 各種検診・生徒総会・防災訓練 個人面談	
5	D(実践)	評価項目設定 ↓ ↓	2年進路ガイダンス・1学期中間テスト 保健講話・3年英検・スポーツテスト・身体計測 PTA総会・保護者会・部活動理事会総会	
6		(訪問調査) ↓	1年進路講演会 3年校内模試 体育祭	
7		目標達成に向けて実践 ↓	1学期期末テスト 1・2年総合学力テスト(1年R-CAP)・SR(球技大会) 防犯訓練・終業式・個人面談	
8		↓ ↓	ESD Day 公私合同説明会 横浜こども会議	
9		↓ ↓	始業式・防災訓練・3年センター試験説明会 スタディサポート(1、2年)・3年校内模試 東高祭(文化祭)	
10		↓ 教職員・生徒・保護者・地域による 学校評価実施	選択科目説明会 2学期中間テスト・学校説明会・修学旅行 3年進路検討会・個人面談	
11		生徒による授業評価実施 ↓ 集計・分析	人権学習会 イーストタイム(総合的な探究) はまっ子読書の日	
12		↓ 集計結果を教職員へ報告	2学期期末テスト・イーストタイム(総合的な探究) 学校説明会・1、2年保護者懇談会 ESD Day・生徒総会・終業式	
1		A(改善)	↓ 分析・成果と課題を教職員へ報告 生徒・保護者・地域へ結果公表	始業式 ユネスコ講演会
2			↓ 学校評議委員会 評価を受けて改善点の明確化	入学選抜試験 1年総合学力テスト 2年共通テスト模試
3	↓ 改善策の作成 次年度への引継		卒業式・3学期期末テスト 1、2年進路ガイダンス・部活動振興会理事会 SR(球技大会)・生徒総会・芸術鑑賞 新入生保護者説明会・修了式	

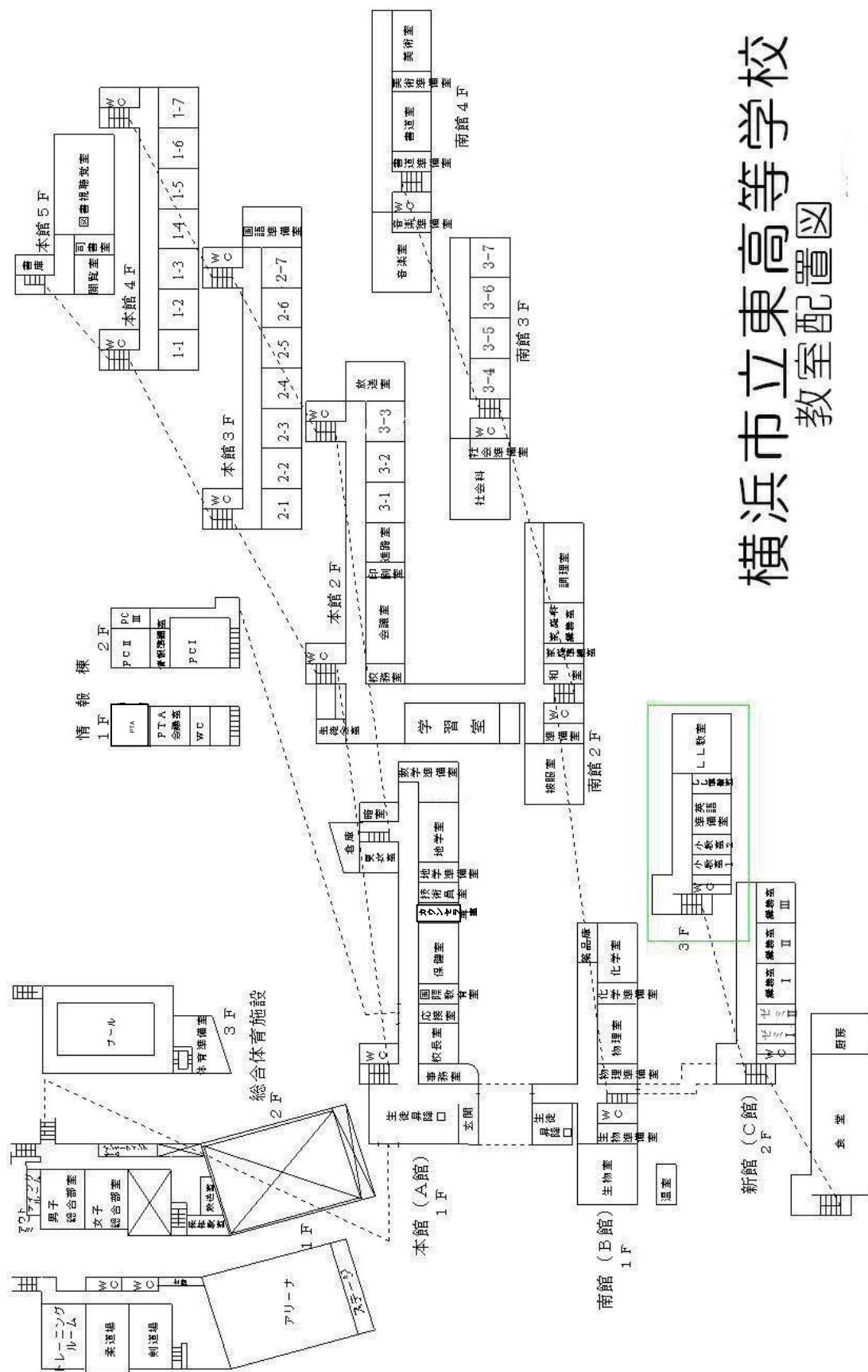
(28) 学校沿革（概要）

学 校 沿 革 (概 要)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|----|--------------------------------------|----|---------------|----|---------------------|----|---------------|------------------------------|---|----------|----|-----------|----|----------------------------|-----------|----|----------|----|------------|--------|------------------------------------------------|------------------|----|---------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------|----|---------------|------------------|-----|----------------------------|------------------------------------|----|----------------------------|-------------|----|------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------|---|-----------|---|---------------------------------------------|
| 昭和 | 38. | 2. | 1 | 横浜市立東高等学校の設立認可。横浜市中区扇町4の132横浜市立横浜工業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 高等学校寿分校を仮校舎とする。校長に開設準備室副室長関根忠準 発令。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 4. | 6 | 横浜市開港記念会館において開校式ならびに入学式举行 (入学生徒360名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 4. | 30 | P. T. A 結成総会。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 12. | 17 | 校旗制定, 横浜市教育委員会より授与。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 39. | 1. | 20 | 横浜市鶴見区馬場町688の用地に新校舎A工事起工式举行。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 10. | 1 | 新校舎移転認可。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 11. | 11 | 新校舎入校式举行。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 40. | 9. | 5 | 新校舎B工事竣工。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10. | 1 | 開校記念日制定。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 41. | 2. | 21 | 効果発表会。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3. | 1 | 第1回卒業式 (卒業生345名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11. | 13 | 同窓会発会式。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 42. | 7. | 12 | ひがし会発会式。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 43. | 6. | 13 | 体育館, 格技室建築落成式举行。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 46. | 11. | 27 | 神奈川県教育委員会より昭和46年度環境美化優良校として表彰を受ける。 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 47. | 9. | 15 | 市費によるプール建設。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48. | 2. | 1 | 創立十周年記念式典举行。表・裏両門の新校門・門扉および弓道場の建設,
記念植樹等の記念事業を行う。 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4. | 1 | 横浜市立横浜商業高等学校校長代理 日下敏郎, 校長に着任。 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9. | 5 | 部活動振興会発足。 | | |
| 50. | 4. | 1 | 横浜市立横浜工業高等学校校長 山口信夫, 校長に着任。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 52. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4. | 6 | 地学教室, 保健体育教室, 普通教室, 保体準備室, 電算機室の増築工事完
成。 |
| | | | | 56. | 4. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | 57. | 4. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 58. | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 10. | 8 | 創立二十周年記念式典举行。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 61. | 4. | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 62. | 9. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 63. | 9. | 物理室, 被服室, 社会科教室, 音楽室の改修工事。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 平成 | 元. | 4. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2. | 6 | 総合体育施設落成式。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3. | 4 | 会議室, 技術員室, 管理員室, 応接室, 保健室, 進路指導室, 美術室改修
工事。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4. | 4. | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4. | 旧格技室を情報処理室, 準備室, セミナー室 (2) に改修工事。
地学教室, 準備室, 国語・数学の各準備室, 暗室, 倉庫の改修工事。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5. | 南グラウンド拡張, 整備。防球ネット張り替え。正門入口スロープの改修。
テニスコートの改修。弓道場跡地の整備, 南館南側の緑地工事。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5. | 10. | 8 | 創立三十周年記念式典举行。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7. | 4. | 1 | 横浜市立みたび台中学校校長 鈴木恭史, 校長に着任。 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9. | 4. | 1 | 横浜市立金沢高等学校校長 東野博康原, 校長に着任。 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10. | 4. | 1 | 横浜市立港商商業高等学校副校長 内野貴彦, 校長に着任。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13. | 3. | 情報棟1F相談室2室, 会議室2室に改修。 | | | | | |
| 4. | 1 | 横浜市立横浜商業高等学校校長 新倉祐治, 校長に着任。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 15. | 4. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 横浜市立戸塚高等学校定時制校長代理 平山 昇、校長に着任。
二学期制に移行 | | | | |

	15. 7.	化学室、物理室、生物室、美術室、書道室、音楽室、家庭科室、社会科室、B館HR教室の耐震補強工事
	15. 11. 4	創立四十周年記念式典挙行
	16. 7.	国語科室、数学科室、地学室、技術員室、管理人室、A館HR教室の耐震補強工事
	17. 4. 1	横浜市立桜丘高等学校副校長 大澤 寛、校長に着任。
	7.	校長室、事務室、応接室、国際教育室、保健室、進路指導室、職員室、A館の耐震補強工事
	12.	クレーコートのおムニコートへの改修。校地整備工事。
	18. 8.	校舎A館普通教室床改修工事完成
	19. 8.	校舎A館B館廊下床工事完成。校舎A館北側外壁改修工事完成
	20. 4. 1	本校副校長 田村 泰行、校長に着任。
	23. 4. 1	横浜市教育委員会 富地 正博、校長に着任
	23. 8.	保健体育教室の床張り替え工事
	23. 9.	HR教室、講義室、ゼミ室の冷暖房空調設備工事
	24. 4. 1	三学期制に移行
	25. 11. 13	創立五十周年記念式典挙行
	26. 3.	特別教室の冷暖房空調設備工事
	26. 4. 1	横浜市立金沢高等学校副校長 星野 浩、校長に着任。
	26. 7.	校舎A館B館渡り廊下・ピロティ耐震補強工事（～26.8） 情報棟耐震補強工事（～26.12） 体育棟アリーナ つり天井撤去工事（～27.1） 体育棟トイレ改修（身障者用設置）（～27.2）
	27. 10	体育棟 剣道場 トレーニングルーム つり天井撤去工事（～28.2）
	12	1～3F校舎サッシ改修・その他工事 A館B館C館窓サッシ交換工事（～28.3）
	28. 7～8	体育棟 アリーナ床張り替え工事 体育棟 ・A館B館防火防煙シャッター改修工事 C館トイレ・体育棟トイレ改修工事（洋式に）
	29. 7～9	B館トイレ改修工事・C館外壁塗装工事
	30. 4. 1	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校副校長 小間物 晃弘、校長に着任
	7. 27	ユネスコスクール認定
	12	裏コート人工芝改修工事
令和	1. 7～9	A館トイレ改修工事
	2. 4. 1	機械式警備導入
	2. 7	プールろ過機修繕工事 スプリンクラー修繕工事
	2. 7～8	総合部室漏水修繕工事
	2. 8	A館屋上漏水修繕工事
	2. 1 2	正門花壇整備工事
	3. 3	正門ブロック塀撤去工事
	3. 4. 1	横浜市教育委員会 藤本 貴也、校長に着任
	4. 8	LL教室CALLシステム更新
	4. 2	北グラウンド横テニスコート支柱交換、B棟高架水槽更新
	5. 4. 1	横浜市教育委員会事務局 高校教育課 大山 仁彦、校長に着任

(29) 学校図面（校舎平面図等）及び校地面積等



横浜市立東高等学校 教室配置図

校舎配置図

グラウンド

校地面積	35,018 m ²
建築面積	
北館(A)	3,745 m ²
中央館(B)	935 m ²
南館	2,419 m ²
新体育館	2,090 m ²
情報館	3,633 m ²
情報館	619 m ²

